

V 診療業務概要・ 活動報告

～解説～

①概要について

1年間の活動内容等を掲載しています。

②新規登録疾患について

2019年に登録した病名を診療科別に抽出し、ICD-10（国際疾病分類）3桁で集計を行い円グラフで掲載しています。

1. 抽出条件：
 - ① 2019年1月1日から2019年12月31日に受診した患者。
 - ② 診療科別で対象患者に主病名登録した病名（疑いは除外）を抽出。
 - ③ ICD-10 3桁で集計、上位を表記し、それ以下はその他と表記。
2. 留意事項：
 - ① 複数の病名が登録されている患者については病名ごとに集計（延べ）。
 - ② 比率については小数点第2位 四捨五入。

③活動報告について

この項目は、各々の希望に応じた資料を掲載しています。

V 診療業務概要・活動報告

総合内科

1. 概要

高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病は狭心症や心筋梗塞など虚血性心疾患の強力な危険因子である。これまで総合内科では、糖尿病を中心に、内臓脂肪の過剰蓄積・耐糖能障害・高血圧・高中性脂肪血症をあわせもつメタボリックシンドロームや高尿酸血症を含め、積極的に診療を行ってきた。

1996年来、総合内科ではながらく糖尿病・耐糖能障害、高血圧症、脂質異常症などの外来診療と糖尿病体験入院を行ってきた。2010年の糖尿病・内分泌内科の新設にともない、糖尿病外来や糖尿病教育入院はおもに同科で行われるようになった。それ以降、総合内科では、新規を除く糖尿病、高血圧症、脂質異常症などの外来診療を継続するとともに、原因不明の発熱など、専門診療科に振り分けられない患者の診療を行っている。

総合内科の病床は2010年からなくなっていたが、不明熱の入院精査などのため、2018年4月から3床が復活した。

(部長 浦野 文博)

(文責 副部長 稲垣 大輔)

2. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	5,788人	年間外来新患者数	1,942人
年間入院患者数	1,438人	年間入院新患者数	79人

呼吸器内科・アレルギー内科

1. 概要

2019年度は、部長1名（菅沼）、副部長4名（竹山、真下、大館、福井）の、専任スタッフ5名で診療を行った。

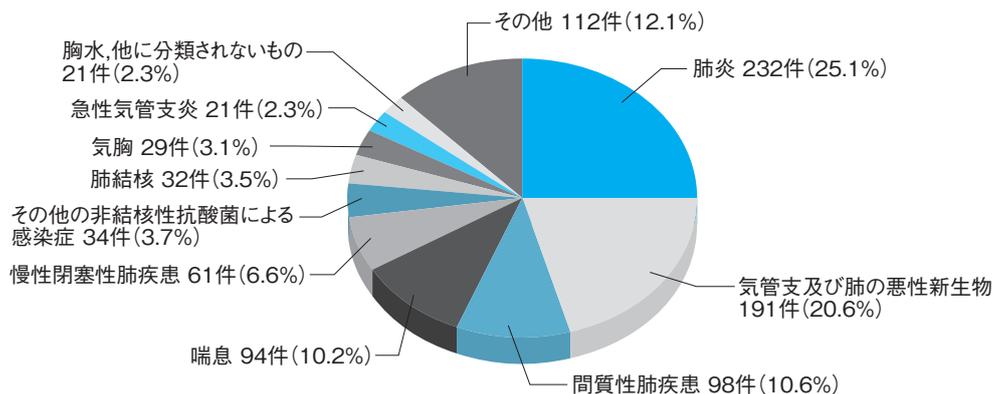
患者中心の医療を心掛け、外来・病棟看護師、薬剤師、リハビリテーション技師と協力して診療に当たっている。また、呼吸器外科医師、放射線科医師とも連携を密にし、治療方針決定のために定期的に合同でカンファレンスを行っている。

日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本アレルギー学会の教育認定施設として、研修医や専攻医の教育に当たるばかりでなく、スタッフ一同もより良い医療ができるよう日々研鑽を積んでいる。また、東三河地区の地域がん診療連携拠点病院の役割を担い、名古屋大学呼吸器内科の関連病院として臨床研究にも努めている。

（部長 菅沼 伸一）

2. 新規登録疾患

総数：925件



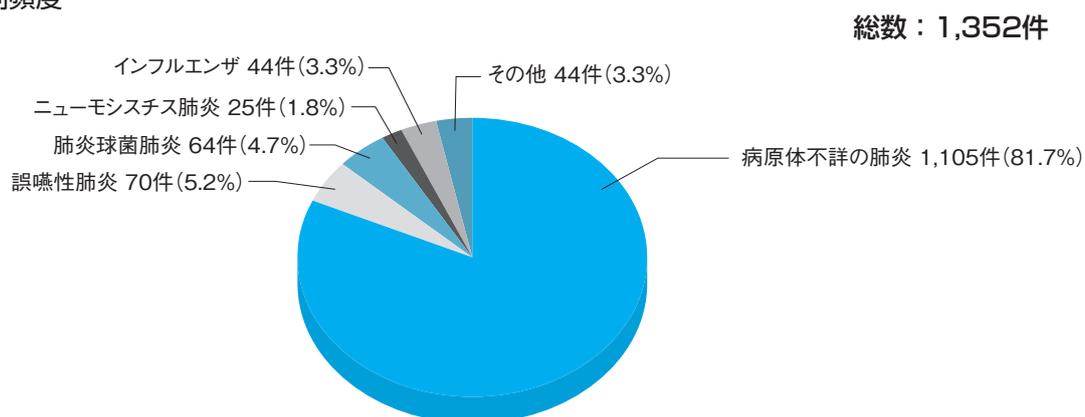
疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
肺炎	肺炎, 詳細不明	173	J189
	食物及び吐物による肺臓炎	34	J690
気管支及び肺の悪性新生物	気管支及び肺の悪性新生物,気管支又は肺,部位不明	176	C349
間質性肺疾患	間質性肺疾患, 詳細不明	65	J849
	肺線維症を伴うその他の間質性肺疾患	24	J841
喘息	喘息, 詳細不明	84	J459
慢性閉塞性肺疾患	慢性閉塞性肺疾患, 詳細不明	46	J449
その他の非結核性抗酸菌による感染症	非結核性抗酸菌感染症, 詳細不明	34	A319
肺結核	肺結核,細菌学的又は組織学的確認の記載がないもの	20	A162
気胸	その他の自然気胸	22	J931
急性気管支炎	急性気管支炎, 詳細不明	21	J209
胸水, 他に分類されないもの	胸水, 他に分類されないもの	21	J90

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	29,362人	年間外来新患者数	2,504人
年間入院患者数	28,766人	年間入院新患者数	1,843人

(2) 肺炎別頻度



(3) 科指定5疾患

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	肺炎	1,352	4	慢性閉塞性肺疾患	376
2	気管支喘息	466	5	間質性肺炎	375
3	肺癌	439		計	3,008

消化器内科

1. 概要

浦野副院長を筆頭とする6名のスタッフ、専攻医6名、後期研修医1～2名で診療に従事している。山田、山本、坂巻が消化管、浦野、内藤が肝臓、松原が胆道・膵臓を担当し、

- ① 消化器癌のX線・内視鏡・US診断
- ② 食道・胃・大腸腫瘍に対する、ESDをはじめとする内視鏡的治療
- ③ IBDに対する内科的治療
- ④ 胆道・膵疾患に対するEUS（-FNA）、造影US・EUS、ERCP（-IDUS）の診断成績
- ⑤ ERCP後膵炎の予防
- ⑥ 閉塞性黄疸に対するERCP（経乳頭的内視鏡）下と、EUS（超音波内視鏡）下治療
- ⑦ ウイルス性肝炎の治療と長期経過
- ⑧ 肝癌の画像診断と内科的治療-TACE、RFA、リザーバーを用いた化学療法など

を主な研究テーマとしている。

一方、全消化器領域に対応すべく日常診療を行っており、嚥下困難患者に対する内視鏡的胃瘻造設術の依頼にも随時対応している。

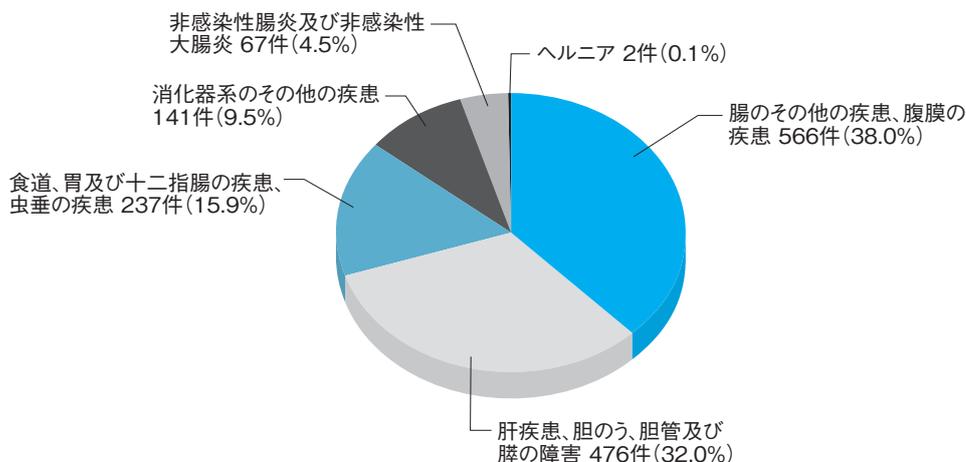
この他、食道胃静脈瘤、胃・十二指腸潰瘍、大腸憩室などからの急性消化管出血に対するEIS、EVLやクリッピング止血、内因性肝出血や壊死性膵炎に対するIVR、急性胆道炎に対するERCP、PTBD、PTGBD、EUS下ドレナージ、そして劇症肝炎や重症急性膵炎など重症消化器疾患に対する集中治療を積極的に行い、地域の救命救急医療に貢献している。

（第一部長 浦野 文博）
（文責 第四部長 松原 浩）

2. 新規登録疾患

(1) 新生物以外

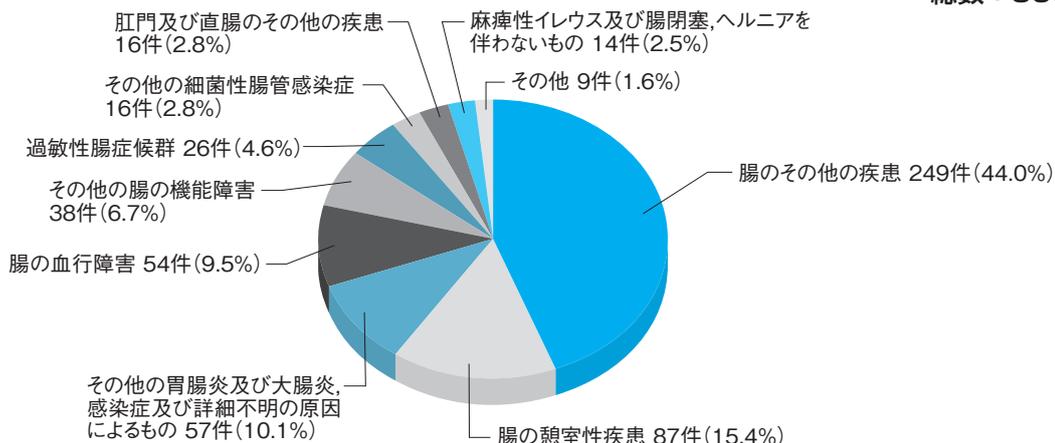
総数：1,489件



上位3位の詳細

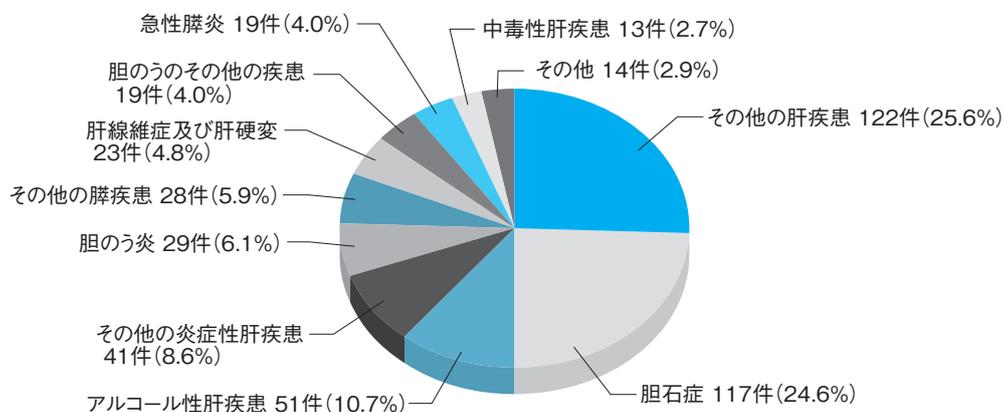
① 腸のその他の疾患、腹膜の疾患

総数：566件



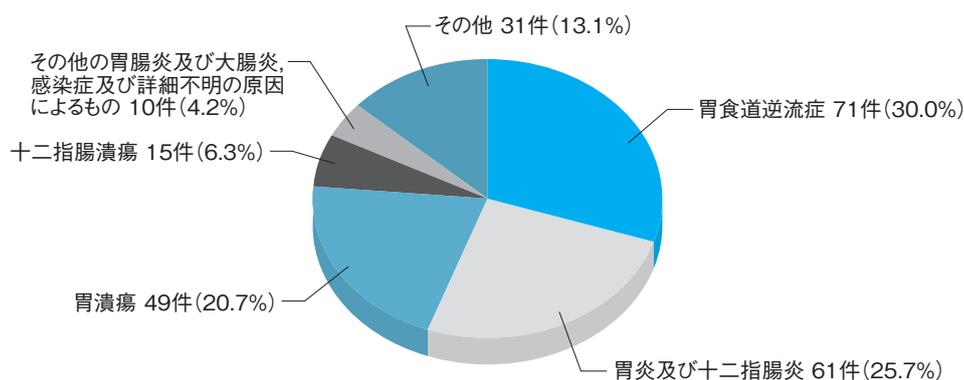
② 肝疾患、胆のう、胆管及び膵の障害

総数：476件



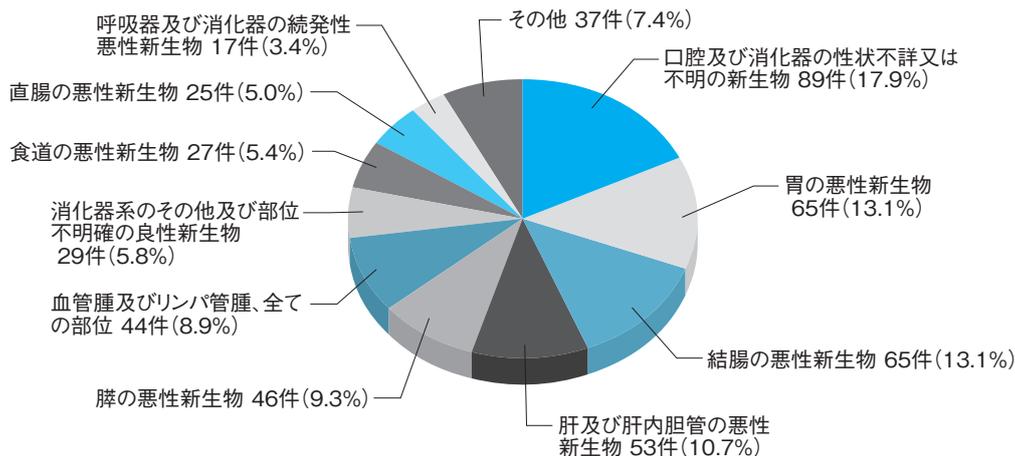
③ 食道、胃及び十二指腸の疾患、虫垂の疾患

総数：237件



(2) 新生物

総数：497件



3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	52,421人	年間外来新患者数	5,554人
年間入院患者数	32,351人	年間入院新患者数	2,665人

(2) 当科で経験した主な疾患の新規症例数

胃癌	226例
大腸癌	257例
肝細胞癌	63例
膵癌	62例
胆道癌	44例

(3) 主な検査治療実績

胃内視鏡検査	7,079件
大腸内視鏡検査	4,532件
小腸内視鏡検査	バルーン内視鏡 27件
	カプセル内視鏡 79件
消化管超音波内視鏡検査	86件 (うち穿刺生検11件)
内視鏡的粘膜下層切開剥離術	食道/胃 108件
	大腸 40件
胆膵超音波内視鏡検査	412件 (うち穿刺生検68件)
内視鏡的逆行性胆管膵管造影	569件
腹部血管造影検査	106件
うち動脈塞栓術	76件
動注化学療法	7件
リザーバー留置による動注化学療法	5件
ラジオ波焼灼術	29件

循環器内科

1. 概要

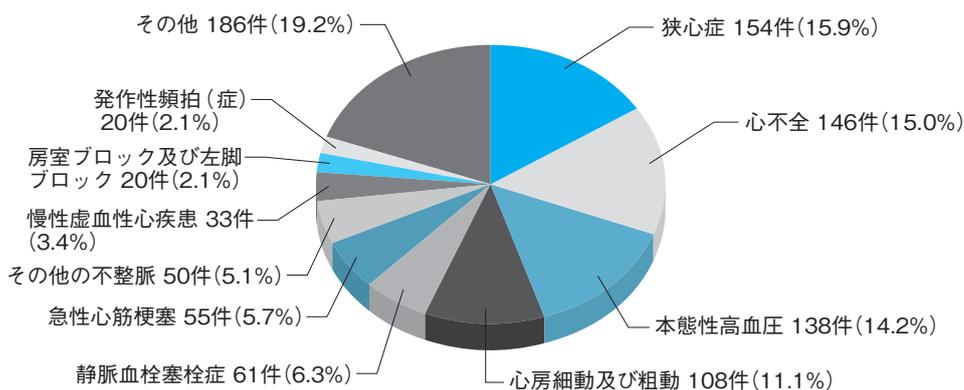
2019年は、心血管/造影カテーテル検査を684件（うち緊急検査173件）に施行した。経皮的冠動脈インターベンションは207例（成功率96.1%）で、その内、血管内超音波を198例に、ステント留置術は180例に施行した。再狭窄防止のための薬剤溶出性バルーンは12件に使用した。観血的虚血評価のため、圧ワイヤー検査を43件に施行した。また、血行動態の悪い症例には、大動脈内パンピングを13例に施行した。心原性ショック例・心停止例（来院時心肺停止も含む）には、経皮的心肺補助装置を装着した（8例）。一方、不整脈診断の為に心臓電気生理学的検査を81例に、カテーテルアブレーションを65例に施行した。さらに多列検出器CTによる冠動脈CT検査を188例に施行した。

平成31年3月31日付で大野修が退職。平成31年4月1日付で名古屋大学大学院院学研究科病態内科学講座循環器内科学から深谷兼次が赴任した。

（第一部長 成瀬 賢伸）

2. 新規登録疾患

総数：971件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
狭心症	狭心症, 詳細不明	61	I209
	その他の型の狭心症	52	I208
心不全	うっ血性心不全	95	I500
	心不全, 詳細不明	40	I509
本態性高血圧	本態性(原発性)高血圧(症)	138	I10
心房細動及び粗動	発作性心房細動	57	I480
	心房細動及び心房粗動, 詳細不明	45	I489
静脈血栓塞栓症	下肢のその他の深在血管の静脈炎及び血栓(性)静脈炎	60	I802
急性心筋梗塞	前壁の急性貫壁性心筋梗塞	22	I210
	下壁の急性貫壁性心筋梗塞	22	I211
その他の不整脈	心室性早期脱分極	26	I493
慢性虚血性心疾患	陳旧性心筋梗塞	18	I252
	無痛性心筋虚血	11	I256
房室ブロック及び左脚ブロック	房室ブロック, 第2度	6	I441
	房室ブロック, 完全	6	I442
発作性頻拍(症)	上室(性)頻拍(症)	18	I471

3. 活動報告

(1) 患者状況

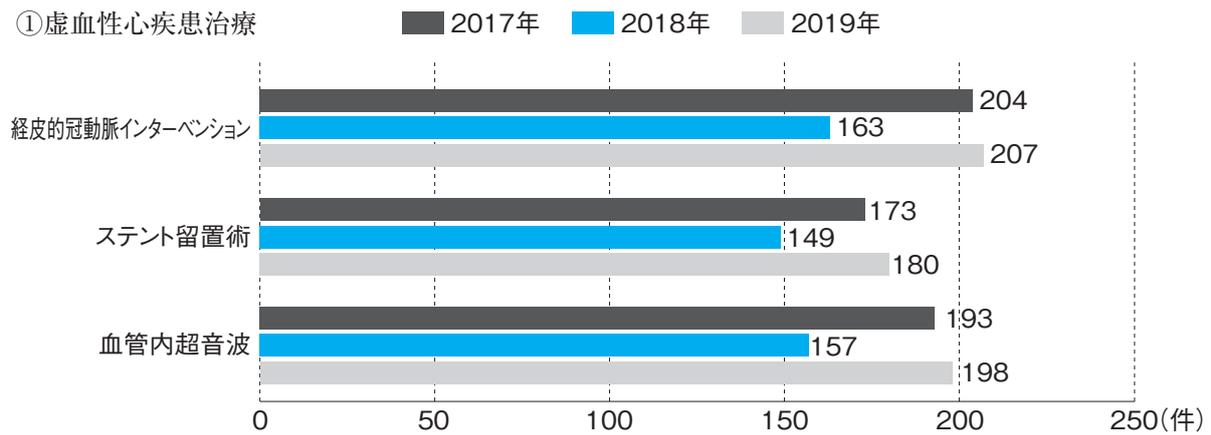
年間外来患者数	17,481人	年間外来新患者数	1,326人
年間入院患者数	9,581人	年間入院新患者数	908人

(2) 科指定4疾患

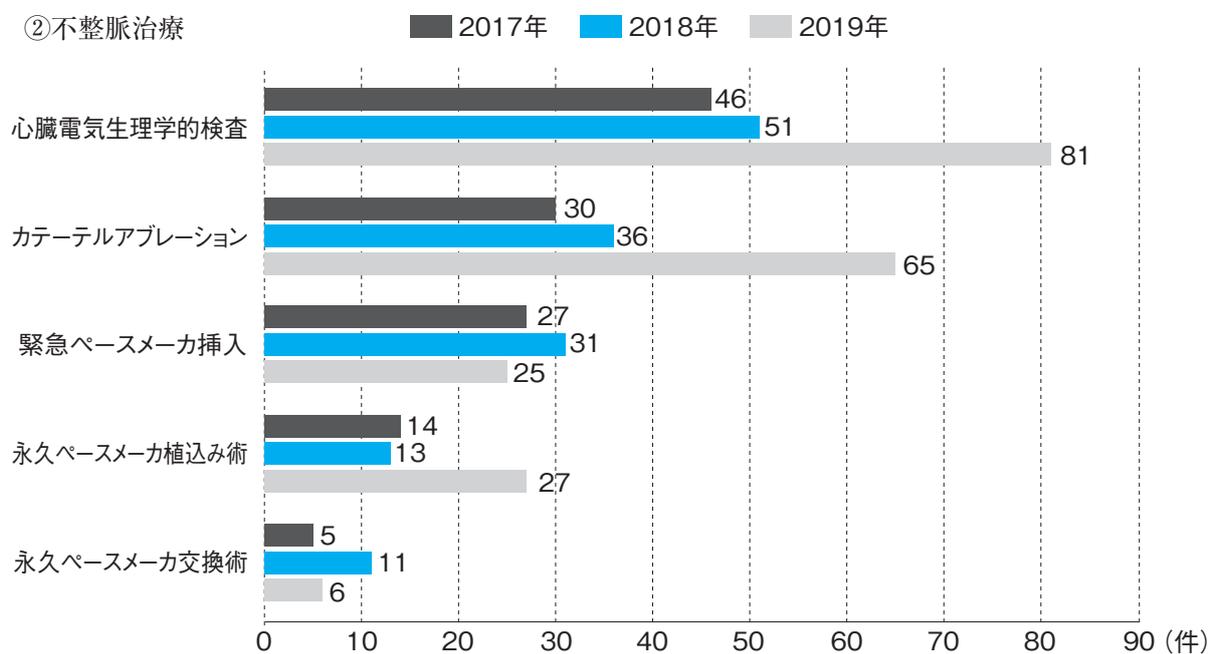
	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	心不全	674	4	肺血栓塞栓症	29
2	狭心症	474		計	1,299
3	急性心筋梗塞	122			

(3) 治療実績

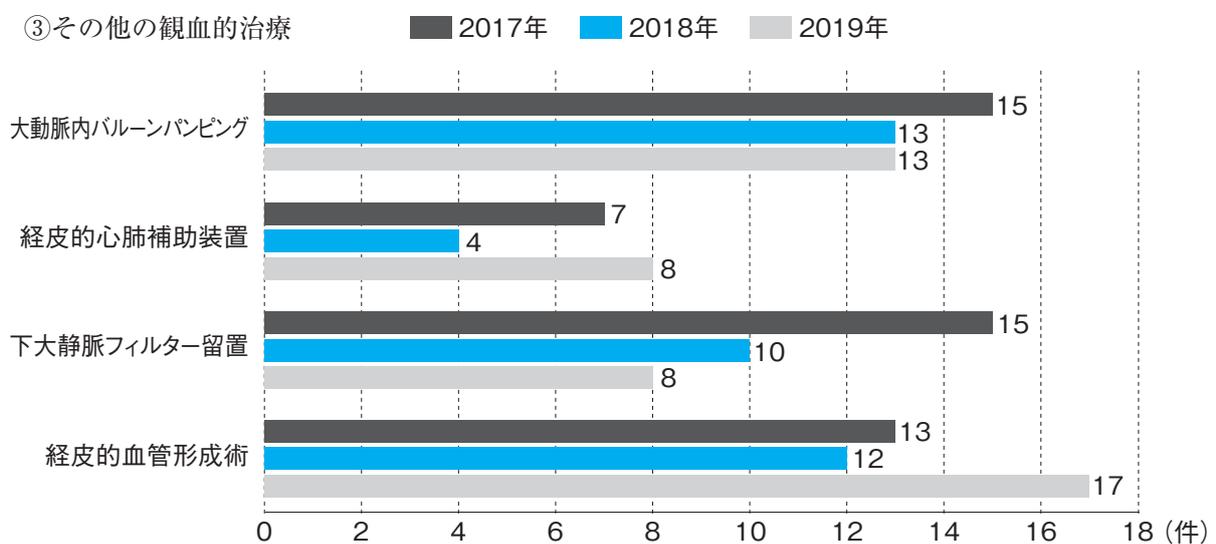
①虚血性心疾患治療



②不整脈治療



③その他の観血的治療



腎臓内科

1. 概要

当科の主な診療領域は、腎炎・ネフローゼ症候群・腎不全（腎後性腎不全は除く）等の内科的腎臓病の他に、透析を含む血液浄化である。尿路結石・腫瘍・感染症は、取り扱っていない。また、透析患者のシャントトラブルも扱っていない。

当院は東三河地域の基幹病院であるが、その中で常勤医師数からして最も小さな科の一つであるものの、多種多様な病態の診療に携わっている。

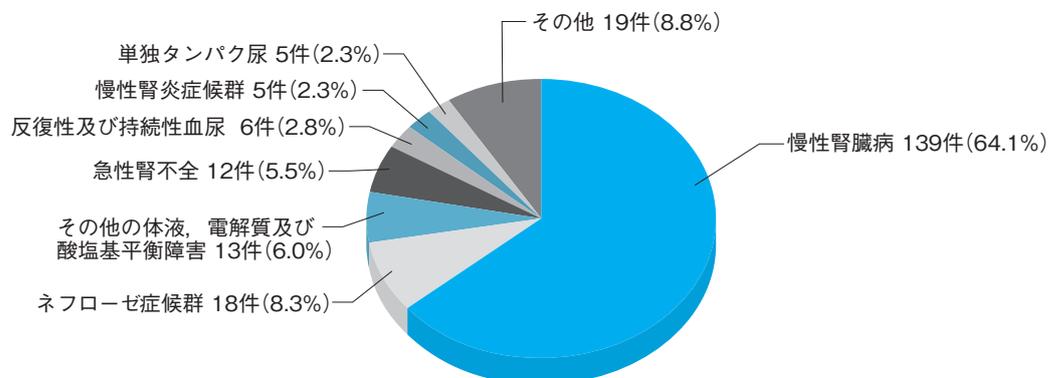
急性腎不全（AKI）をはじめとする重症患者の血液浄化の依頼やコンサルトは多く、院内他科からの紹介患者数は県下有数であると自負している。これらには、臨床工学士（ME）や看護師の協力により、血漿交換・免疫吸着・持続的血液ろ過透析（CHDF）等を病態にあわせて施行している。腎炎やネフローゼ症候群には、名古屋大学腎臓内科の御支援の下、積極的に腎生検を行い、診断・治療に役立てている。さらに、維持透析患者の合併症や保存期の慢性腎不全（CKD）患者の治療にも関わっている。

また、末期腎不全に対しては、スタッフ不足から新規の通院透析患者は受け入れられないものの、移植外科と連携して腎移植に対応している。

（部長 山川 大志）

2. 新規登録疾患

総数：217件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
慢性腎臓病	慢性腎臓病, 詳細不明	106	N189
	慢性腎臓病, ステージ5	21	N185
ネフローゼ症候群	ネフローゼ症候群, 詳細不明	18	N049
その他の体液,電解質及び酸塩基平衡障害	低浸透圧及び低ナトリウム血症	8	E871
急性腎不全	その他の急性腎不全	6	N178
反復性及び持続性血尿	反復性及び持続性血尿, その他	5	N028
慢性腎炎症候群	慢性腎炎症候群, 詳細不明	3	N039
	慢性腎炎症候群, 軽微糸球体変化	2	N030
単独タンパク尿	単独タンパク尿	5	R80

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	10,348人	年間外来新患者数	417人
年間入院患者数	6,036人	年間入院新患者数	474人

(2) 科指定5疾患

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	慢性腎不全	279	4	IgA腎症	16
2	ネフローゼ症候群	110	5	急速進行性糸球体腎炎	16
3	急性腎不全	89		計	510

糖尿病・内分泌内科

1. 概要

当科の診療内容は、糖尿病と各種内分泌・代謝疾患である。日本糖尿病療養指導士 16 名や新たに発足した愛知県糖尿病療養指導士 4 名等の協力で、糖尿病教育入院の他、療養指導外来、フットケア外来、糖尿病透析予防指導外来を設置している。通常のインスリンポンプ療法（CSII）に加え、SAP（CGM つき CSII）療法を行っている。2 週間連続で血糖値を記録できる Flash Glucose Monitoring 式の CGM も数十名が継続している。

日本糖尿病協会の支部として友の会があり、11 月の全国糖尿病週間に合わせて院内での啓発活動を実施した。この年は新企画としてアトリウムでのミニ糖尿病教室とポイントラリー形式の参加型展示、会議室を利用したフットケア体験とお茶会を行った。

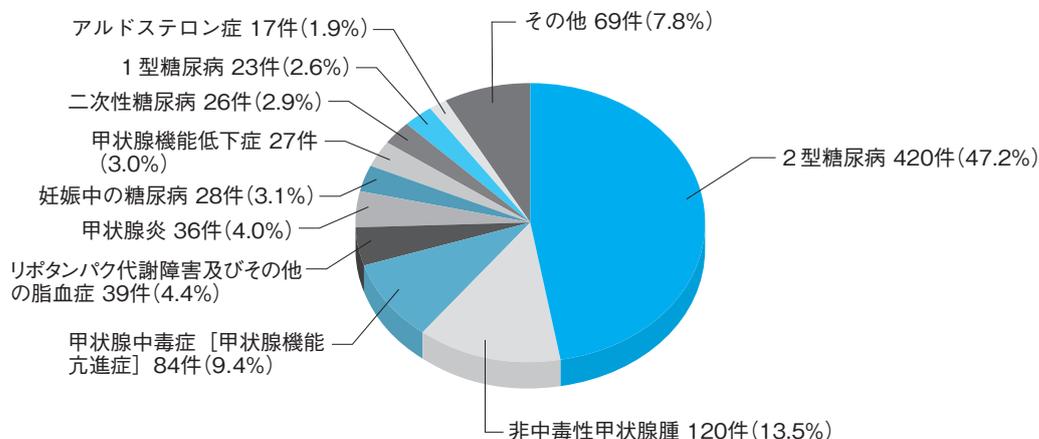
各種内分泌疾患に対しては各種負荷試験、画像診断を元に正確な診断を行い、一般外科、泌尿器科、移植外科、脳神経外科、放射線科などとの密接な連携の元に治療を行っている。放射線科には原発性アルドステロン症に対する選択的副腎静脈サンプリングも依頼している。

人事面では廣瀬友矩医師が 4 月に着任し、代わって金田成康副部長が 6 月末に退職した。廣瀬友矩医師は 3 月末に退職した。

（部長 山守 育雄）

2. 新規登録疾患

総数：889件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
2型糖尿病	2型糖尿病	317	E11
	2型糖尿病, 多発合併症を伴うもの	42	E117
非中毒性甲状腺腫	非中毒性甲状腺腫, 詳細不明	98	E049
	非中毒性多結節性甲状腺腫	15	E042
甲状腺中毒症 [甲状腺機能亢進症]	びまん性甲状腺腫を伴う甲状腺中毒症	77	E050
リポタンパク代謝障害及びその他の脂血症	高脂血症, 詳細不明	30	E785
甲状腺炎	自己免疫性甲状腺炎	33	E063
妊娠中の糖尿病	妊娠中に発生した糖尿病	28	O244
甲状腺機能低下症	甲状腺機能低下症, 詳細不明	27	E039
二次性糖尿病	その他の明示された糖尿病	23	E13
1型糖尿病	1型糖尿病	15	E10
アルドステロン症	原発性アルドステロン症	14	E260

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	21,470人	年間外来新患者数	1,137人
年間入院患者数	3,802人	年間入院新患者数	298人

脳神経内科

1. 概要

2019年のスタッフは、関連医局である名古屋大学脳神経内科の人事異動により、2019年3月に大山健先生が異動、同年4月小林洋介先生が赴任され、5人体制を維持することができた。常勤医5名で診療に当たっているが、総入院患者数は年々増加し、2019年は前年より更に増加、1,010名（2018年985名、2017年911名、2016年795名）となった。

また、常に定床をオーバーしており、多くの病棟に入院患者が分散しているため、回診に時間を要した。

2019年の主なトピックは、以下のとおりである。

- ① 高齢患者さんの軽症脳梗塞や一過性脳虚血発作の増加傾向が続く。
- ② 高齢者のてんかん関連、意識障害関連の入院が目立つ。
- ③ 慢性炎症性脱髄性多発神経炎の患者、 γ グロブリン維持療法反復入院が多い。
- ④ 家族背景や社会的背景の難しい患者が多く、安定後の療養先について患者や家族への早期説明の実施や、患者総合支援センターによる介入が増えている。
- ⑤ 東病棟5階に脳神経内科5床増床されたが、夜間緊急入院が多いため、他科の予定入院ベッドを圧迫してしまうことがあった。
- ⑥ 西病棟2階のベッド数が減ったため、利用が比較的重症の患者さんに限られた。

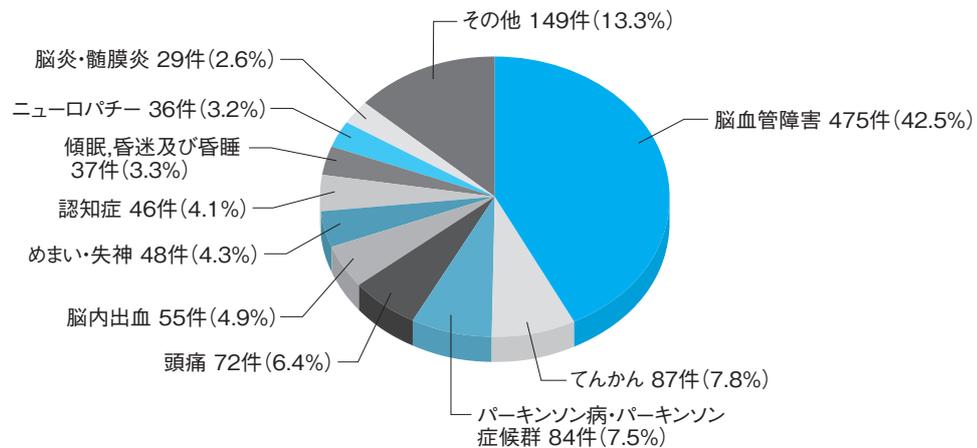
外来診療においては、前部長である空野謙次先生をはじめ、非常勤医3名の応援を得て診療を行っている。外来の年間受診者総数は、12,443名で前年の11,929名と比べて500名余増加、また初診患者数は1,070名と前年の1,186名と比べて100名余減少した。MCR体制に加え、紹介状持参での予約外患者も多いが、診察枠数を増やし、可能な範囲で対応している。

日本神経学会にて、標榜診療科名を「神経内科」から「脳神経内科」に変更することが決定された。この決定を受け、当科においても2019年4月より「脳神経内科」と標榜している。当科は1975年の「神経内科」標榜以来、“科の特性”のPRに努めてきたが、対応する疾患が脳卒中・てんかん・認知症・神経変性疾患・神経免疫疾患など多岐にわたり、イメージしにくいこともあるためか、いまだに心療内科や精神神経科と混同されることがある。どの程度の効果があるか予測しにくいのが、標榜診療科名を変更することで、患者に診療内容をより広く正しく理解してもらいたい、という願いがある。

(部長 岩井 克成)

2. 新規登録疾患

総数：1,118件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
脳血管障害	脳動脈の血栓症による脳梗塞	228	I633
	脳梗塞の続発・後遺症	70	I693
てんかん	その他のてんかん	42	G408
	てんかん, 詳細不明	28	G409
パーキンソン病・パーキンソン症候群	パーキンソン病	78	G20
頭痛	頭痛	58	R51
脳内出血	(大脳)半球の脳内出血, 皮質下	25	I610
	脳幹の脳内出血	15	I613
めまい・失神	めまい感及びよろめき感	40	R42
認知症	アルツハイマー病, 詳細不明	28	G309
	詳細不明の認知症	13	F03
傾眠, 昏迷及び昏睡	昏睡, 詳細不明	37	R402
ニューロパチー	多発(性)ニューロパチー, 詳細不明	30	G629
脳炎・髄膜炎	脳炎, 脊髄炎及び脳脊髄炎, 詳細不明	12	G049

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	12,409人	年間外来新患者数	1,569人
年間入院患者数	19,695人	年間入院新患者数	1,028人

(2) 神経難病6疾患

	疾患名	件数(件)
1	パーキンソン病・パーキンソン症候群	82
2	多系統萎縮症	2
3	脊髄小脳変性症	4
4	筋萎縮性側索硬化症・球脊髄性筋萎縮症	7
5	重症筋無力症	4
6	多発性硬化症	8
	計	107

血液・腫瘍内科

1. 概要

血液・腫瘍内科は、造血器腫瘍（急性および慢性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など）、血液良性疾患、凝固異常症を主に対象としている。

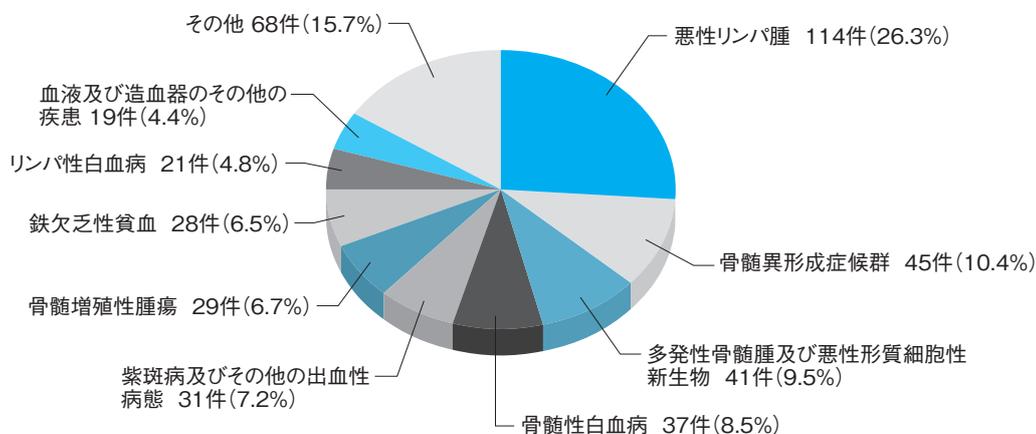
本年度も東三河全域や静岡県西部などから、多くの患者が来院された。2019年は6から8名のスタッフにて、1日平均約45名の入院と、同様に約75名の外来患者に対する診療を行った。入院患者数はここ数年であまり変化がないが、入院期間短縮や化学療法の外来への移行などもあり、外来患者数は少しずつ増加している。

疾患のほとんどは造血器腫瘍であるが、化学療法で治癒や深い奏功を目指せる疾患も多く、若年者のみならず高齢者においても積極的に化学療法を行っている。同種造血幹細胞移植に関しても、血縁のみならず非血縁、臍帯血、HLA半合致移植など、あらゆるドナーからの移植を適切な時期に行えるよう、体制を整えている。造血幹細胞移植や高齢者の化学療法などにおいては、治療の合併症が比較的起きやすいが、多領域専門職種とのチーム医療を行うことで、生活の質を下げずに速やかに外来治療に移行できるよう、本年も取り組んだ。

(部長 倉橋 信悟)

2. 新規登録疾患

総数：433件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
悪性リンパ腫	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	45	C833
	節外性粘膜関連リンパ組織辺縁帯B細胞性リンパ腫 [MALTリンパ腫]	10	C884
骨髄異形成症候群	骨髄異形成症候群, 詳細不明	38	D469
多発性骨髄腫及び悪性形質細胞性新生物	多発性骨髄腫	22	C900
	意義不明の単クローングロブリン血症(MGUS)	18	D472
骨髄性白血病	急性骨髄性白血病	23	C920・C924・C928
	慢性骨髄性白血病	14	C921・C922
紫斑病及びその他の出血性病態	特発性血小板減少性紫斑病	28	D693
骨髄増殖性腫瘍	真性赤血球増加症	11	D45
	本態性(出血性)血小板血症	10	D473
鉄欠乏性貧血	鉄欠乏性貧血, 詳細不明	28	D509
リンパ性白血病	B細胞性慢性リンパ球性白血病	10	C911
血液及び造血器のその他の疾患	続発性赤血球増加症	16	D751

3. 活動報告

(1) 患者状況

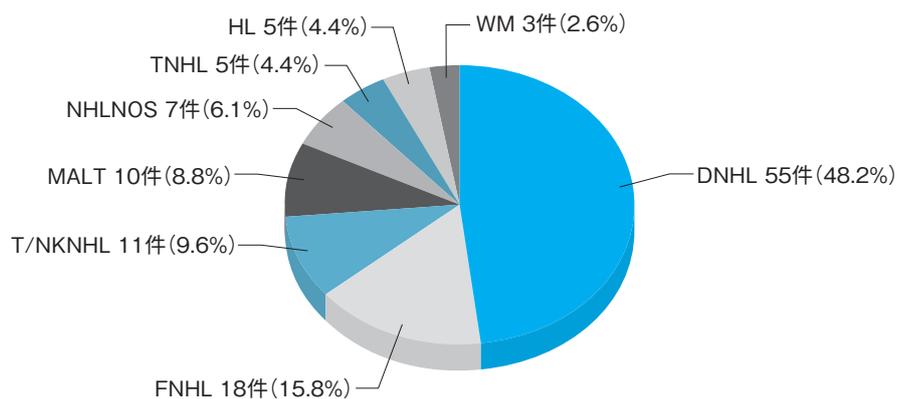
年間外来患者数	17,809人	年間外来新患者数	552人
年間入院患者数	16,311人	年間入院新患者数	749人

(2) 造血幹細胞移植

種 類			件 数 (件)
自家移植			8
同種移植	血縁者間	同胞	4 (骨髄:3 末梢血:1)
		半合致	0
	非血縁者間	骨髄バンク	3
		臍帯血バンク	6

(3) 悪性リンパ腫の組織分類 (ICD-10 C81-85)

総数：114件



略語	疾患名
DNHL	びまん性非ホジキンリンパ腫
FNHL	ろ胞性 [結節性] 非ホジキンリンパ腫
T/NKNHL	T/NK細胞リンパ腫のその他の明示された型
MALT	MALTリンパ腫
NHLNOS	非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型
TNHL	末梢性及び皮膚T細胞リンパ腫
HL	ホジキン病
WM	ワルデンシュトレームマクログロブリン血症

一般外科・小児外科・肛門外科

1. 概要

(1) 一般外科・小児外科

2019年の手術総数は1,797件で、2018年の1,724件と比べ若干の増加であった。そのうち15歳以下の小児手術は169件、全緊急手術は339件(339/1,797、19%)でこれは2018年の22%(総数372件)と比べ若干減少した。しかし、このうち鏡視下手術は118件(118/339、35%、昨年101件30%)で昨年より増加していた。

全症例について総覧すると対象疾患は、虫垂炎やヘルニアといった日常的な疾患から甲状腺(38件)・消化器・乳腺(136件)まで幅広い。腹腔鏡下手術は、胃癌手術32件(32/98、32%、昨年28%、一昨年32%)、大腸癌切除109件(109/224、48%、昨年33%、一昨年34%)、肝部分切除14件(14/29、48%、昨年58%、一昨年50%)、膵体尾部切除1件(1/15、6.7%)に対し行われ、特に大腸癌手術において全体の件数は変化ないものの鏡視下手術の割合が増加している。虫垂や成人鼠径ヘルニアに対してもさらに積極的に腹腔鏡を導入し、虫垂炎手術で69件(69/108、63%、昨年40%、一昨年30%)、鼠径ヘルニア手術31件(31/192、16%、昨年16%、一昨年8%)と減少することなく経過している。最近では腹壁癒痕ヘルニアに対しても腹腔鏡下Tension free repairを用い、2019年にも1件(1/17件、14.3%)に行った。

2014年11月より直腸癌に対するロボット支援下手術を臨床研究として開始し一昨年までは順調に症例を伸ばしたが、他科とのロボット機器の枠の調整の影響もあって近年は伸び悩んでおり、2018年は7件、2019年には12件に留まっている。一方、2015年4月から早期胃がんに対して行っているロボット支援手術は、症例に恵まれ2019年は17件行った。乳癌手術は131件(昨年138件、一昨年144件)であった。乳房温存手術は86件(86/131、65%、昨年41%、一昨年43%)、センチネルリンパ節生検陰性は97件で、昨年とほぼ同様の傾向であった。肝切除は40件で、疾患別内訳は、原発性肝癌15件、転移性肝癌20件、胆道癌1件、その他4件。膵頭十二指腸切除は26件行い、すべて亜全胃温存で行われた。この疾患別内訳は、膵癌14件、胆嚢・胆管癌7件、乳頭部癌1件、IPMN2件、その他2件。食道悪性腫瘍は6件に根治手術が行われ、すべて3領域郭清であった。上部消化管潰瘍穿孔16件のうち非手術的保存療法は7件(44%)だった。腸閉塞入院は146件のうち36件(25%)に手術が施行された。小児外科手術は169件あり、名古屋大学小児外科と連携し治療に当たっており、新生児手術は3件であった。一般外科全体の入院総数は2,353人と昨年の2,310人より1.8%増加し、平均入院期間は9.8日で昨年の10.6日よりわずかに減少し、昨年に引き続き連続して減少し続けている。

(第一部長 平松 和洋)

(2) 肛門外科

“肛門外科”は当院移転新設に伴い、単科標榜された。現在は厚生労働省の標榜指導にて『肛門外科』だが、診療・治療は一般外科と共同で運営している。外科外来診療における統計では、悪性疾患治療を除くと痔核を筆頭とした肛門疾患、肛門に関する症状にて受診される患者が多い。多くの施設がそうであるように外科外来当番医が対応していることもあるが、肛門というデリケートな部分で専門性を必要とするため、やはり専門家での診療・治療を希望される方も多い。当院肛門外科は、近隣の診療施設から併存症を有する患者の紹介も多い。肛門外科標榜での診療日は木曜日の一日だけであるが、常勤で外科診療に携わっている利点から、日々時間が許す限り診察や治療に当たっている。外来診察の際は、患者は「恥ずかしい」との思いを持たれている、また専門性を求めて来られる方が安心して受診できるよ

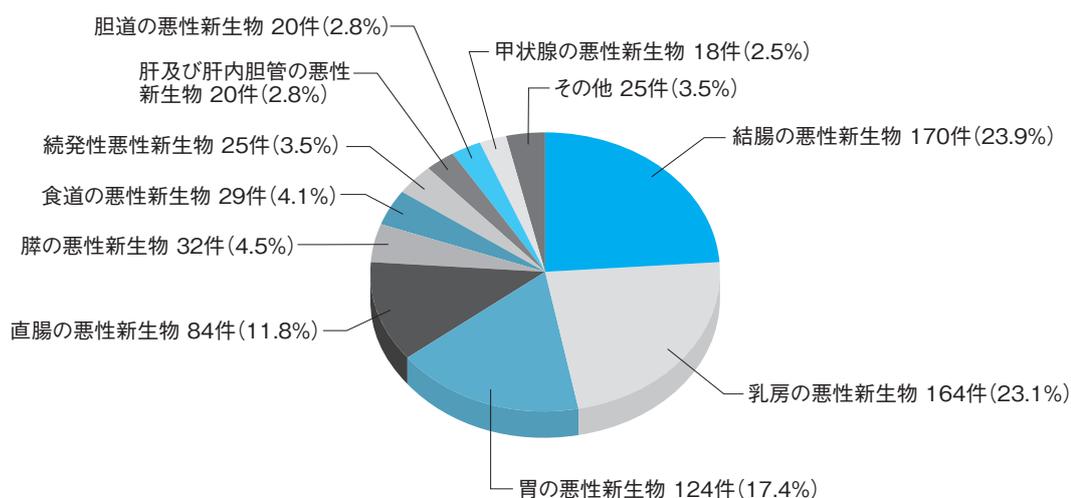
うな対応・環境整備（看護師同席・カーテン）を心掛け、診察で不自由・不快な思いを持たれないように努力している。外来処置や生活指導・薬物療法など保存治療に重きを置き、症状によって手術適応を決めている。近年大腸がんも増加傾向にあり、肛門症状で受診された患者には大腸検査を受けていただくようにしている。専門外来として“ストーマ外来”を認定看護師とともに行っている。

（部長 柴田 佳久）

2. 新規登録疾患

(1) 悪性新生物

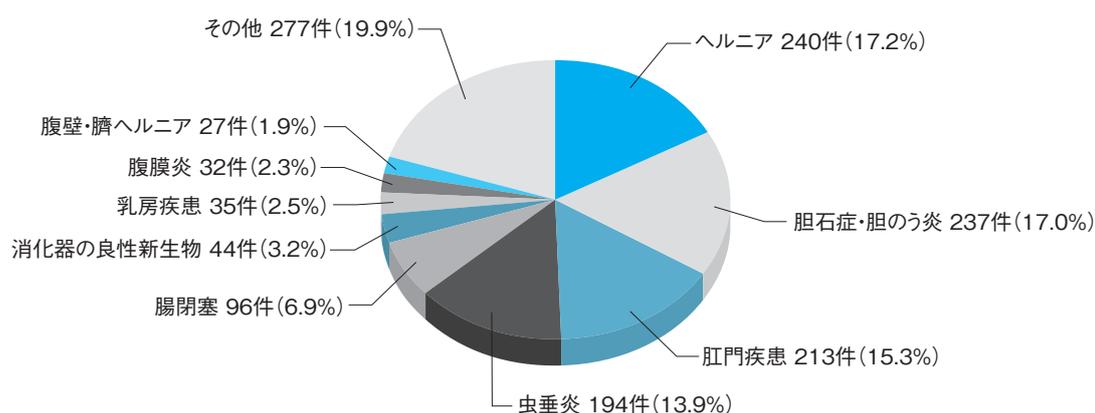
総数：711件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
結腸の悪性新生物	結腸の悪性新生物, 上行結腸	52	C182
	結腸の悪性新生物, S状結腸	52	C187
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房, 部位不明	79	C509
	乳房の悪性新生物, 乳房上外側4分の1	44	C504
胃の悪性新生物	胃の悪性新生物, 胃, 部位不明	104	C169
直腸の悪性新生物	直腸の悪性新生物	84	C20
膵の悪性新生物	膵の悪性新生物, 膵, 部位不明	13	C259
	膵の悪性新生物, 膵頭部	11	C250
食道の悪性新生物	食道の悪性新生物, 胸部食道	11	C151
統発性悪性新生物	肝及び肝内胆管の統発性悪性新生物	16	C787
肝及び肝内胆管の悪性新生物	肝及び肝内胆管の悪性新生物, 肝細胞癌	16	C220
胆道の悪性新生物	その他及び部位不明の胆道の悪性新生物,肝外胆管	14	C240
甲状腺の悪性新生物	甲状腺の悪性新生物	18	C73

(2) 悪性新生物以外

総数：1,395件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
ヘルニア	一側性又は患側不明のそけいヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	213	K409
	両側性そけいヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	10	K402
胆石症・胆のう炎	胆のう炎を伴わない胆のう結石	135	K802
	急性胆のう炎	52	K810
肛門疾患	痔核, 詳細不明	112	K649
	裂肛, 詳細不明	22	K602
虫垂炎	急性虫垂炎, その他及び詳細不明	141	K358
	詳細不明の虫垂炎	27	K37
腸閉塞	閉塞を伴う腸癒着[索条物]、イレウス, 詳細不明	32	K565、K567
	その他及び詳細不明の腸閉塞	30	K566
消化器の良性新生物	口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物, その他の消化器	17	D377
乳房疾患	乳房の良性新生物	35	D24
腹膜炎	急性腹膜炎	30	K650
腹壁・臍ヘルニア	癒痕ヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	13	K432
	臍ヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	11	K429

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	40,048人	年間外来新患者数	2,372人
年間入院患者数	24,814人	年間入院新患者数	2,236人

(2) 2019年1月～12月入院概要（全2,353人、平均入院期間9.8日、未退院4名除く）

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院 期間(日)
イレウス	手術	36	9.2
	保存療法	110	15.2
外傷	手術	8(2医原)	6.7
	IVR	5	19
	保存療法	13	8.5
血管系緊急 (塞栓・解離など)	手術	0	-
	IVR	1	39
	保存	5	7.6
合併症治療 (感染性)	保存療法	11	18.5
合併症治療 (出血性)	IVR	1	13
	保存療法	3	7.3
合併症治療 (その他)	保存療法	4	15.8
抗がん剤有害事象	保存療法	33	9.4
	緩和療法	1	35
その他	IVR	1	3
	保存治療	25	9.1
	予定手術	22	5.2
	緊急手術	0	-
その他/悪性	保存治療	3	15.7
	緊急手術	1	1
	放射線治療	0	-
その他/悪性	予定手術	13	14.8
	手術	19	5.5
甲状腺/悪性	手術	19	5.0
副腎良性	予定手術	1	5
新生児	緊急手術	1	445
非新生児	手術	133(1)	3.0
	保存療法	16	3.9
腹腔内癌再発	手術	7	42.1
	保存・緩和療法	2	34
腹膜炎	手術	35	26.2
	保存療法	31	9.1
ヘルニア	手術	224	3.1
	保存療法	7	5.0
痔核・痔瘻	手術	19	5.5
	保存療法	2	3

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院 期間(日)
虫垂	手術	116	4.2
	保存療法	35	6.5
胃十二指腸/ 良性	緊急手術	9	10.9
	予定手術	7	37.7
	保存治療	7	10.3
肥満症	予定手術	3	13.7
胃十二指腸/ 悪性	手術	121	19.5
	化学療法	27	3.8
	放射線治療	2	45.0
	緩和療法	6	13.3
肝胆膵脾	保存療法	39	11.4
	手術	330	8.7
	保存療法	60	13.3
	緩和療法	5	18.4
肝胆膵脾	化学療法	0	0.0
	放射線療法・IVR	5	29.8
	手術	276(1)	15.4
	化学療法	3	2.0
小・大腸/悪性	保存療法	79	14.3
	緩和療法	25	13.6
	放射線治療・IVR	2	19.0
	手術	43	13.3
小・大腸/良性	保存療法	6	5.7
	手術	1	8.0
食道/良性	保存療法	1	10.0
	手術	5	32.0
食道/悪性	保存療法	14	18.4
	化学/放治	14	10.1
	緩和療法/放射線	4	37.3
乳腺/その他	手術	5	2.6
乳腺/悪性	手術	139	7.6
	保存療法	37	14.5
	緩和療法	8	24.8
	化学/放治	8	26.3
CVポート関連	保存療法	2	4.5
	手術	39	3.3
術後後遺症その他	保存療法	53	13.5

() : 未退院の数

(3) 一般外科・小児外科手術数 (2019年) 1,797例

①一般外科	1,797	(a)小腸切除	19(X)
全身麻酔	1,446	(b)腸瘻造設	9
脊髄麻酔	62	(c)腸瘻閉鎖	24
局部麻酔	289	(d)腸吻合	2
(ア)甲状腺	38	(e)結腸直腸切除	14(4)
a 良性疾患		(f)大腸亜全摘	3
(a)部分切除	0	(g)癒着剥離	22(X)
(b)葉切、亜全摘、全摘	19	(h)経肛門／経仙骨	0
b 悪性疾患		(i)単開腹／その他	7(X)
(a)部分切除、亜全摘、他	12	b 悪性疾患	
(b)全摘	6	(a)腸瘻造設	21(X)
(c)その他	1	(b)腸吻合	1
(イ)乳 腺	142	(c)小腸切除	5
a 良性疾患 摘出	4	(d)結腸切除	147(64)
腺管区域切除	1	(e)直腸切除(高位、低位) …	57(34、ロボットX)
b 悪性疾患	137	(f)直腸切斷	17(11、ロボットX)
(a)定型乳切	0	(g)経肛門／仙骨的切除	0
(b)非定型乳切(Bt+Ax)	38	(h)骨盤内臓全摘	3
(c)Bt±SLNB	51	(i)大腸亜全摘	0
(d)乳房温存手術±SLNB	46	(j)単開腹／その他	1
(e)Tm他	2	(カ)虫垂炎(虫垂／回盲部切除)	108(69)
(ウ)食 道	6	(キ)肝/胆/膵/脾	
a 良性疾患	1	(a)肝部分切除	29(14)
b 悪性疾患		(b)肝区域／葉切除	10
(a)胸部食道切除	5	(c)胆嚢床切除	1
(b)その他	0	(d)開腹胆嚢摘出術	12
(エ)胃・十二指腸		(e)腹腔鏡下胆嚢摘出術	232
a 良性疾患		(f)開腹胆管切開術	2
(a)胃切除、胃全摘	2	(g)胆管消化管吻合	0
(b)体網充填	17	(h)胆管切除	1
b 悪性疾患		(i)膵頭十二指腸切除(PD)	0
(a)幽門側胃切除	68(25、ロボットX)	(j)亜全胃温存PD	26
(b)胃全摘	30(7、ロボットX)	(k)膵体尾部切除	17(X)
(c)噴門側胃切除	0	(l)膵全摘	1
(d)胃腸吻合	5	(m)膵部分切除	0
(e)楔状切除／十二指腸切除	7(4、LECSX)	(n)膵管空腸吻合	0
(f)PD	0	(o)脾摘	3(2)
(g)試験開腹／その他	5	(p)胃腸吻合	0
(オ)小腸・大腸		(q)単開腹／その他	4
a 良性疾患			

(ク)内分泌	(セ)腹腔内癌再発…………… 17(X)
(a)副甲状腺…………… 0	(ソ)その他…………… 28(X)
(b)副腎…………… 1(1)	②小児外科(全例全身麻酔)…………… 169
(ケ)ヘルニア	(ア)新生児手術…………… 3
(a)鼠径大腿…………… 192(X)	(イ)鼠径ヘルニア…………… 72(X)
(b)腹壁・臍・閉鎖孔など…………… 27(X)	(ウ)虫垂切除…………… 27(21)
(コ)痔核痔瘻…………… 20	(エ)精巣固定…………… 15(X)
(カ)局麻手術	(オ)臍形成…………… 10
(a)摘出、生検…………… 33	(カ)幽門筋切開…………… 2
(b)その他…………… 120	(キ)その他…………… 40(X)
(シ)外傷／医原性…………… 7	
(ス)腹膜炎…………… 58(X)	()内はその内の鏡視下手術件数、ロボット支援手術

呼吸器外科

1. 概要

当科は、東三河地区の重要な基幹病院として、肺癌などの悪性疾患、気胸のような良性疾患、胸部外傷など、地域医療に必要とされる胸部外科疾患を幅広く取り扱い、体への負担が少ない低侵襲手術を積極的に実施している。

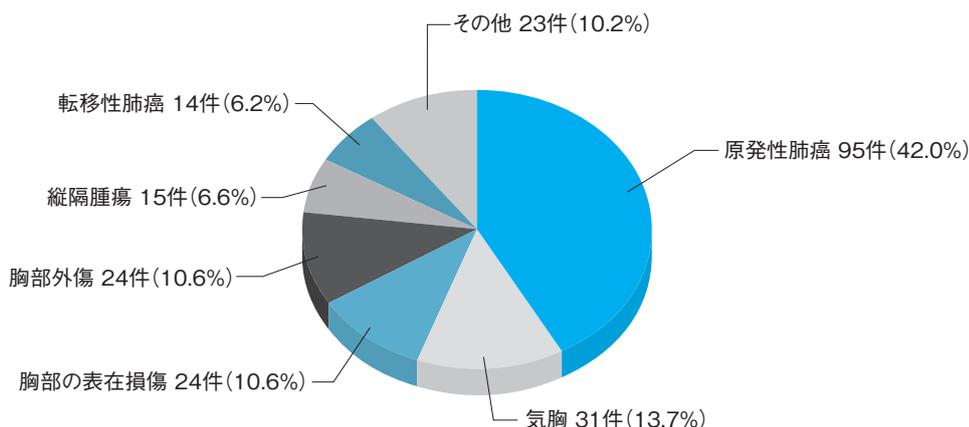
早期肺癌の標準術式は肺葉切除だが、ごく早期の肺癌もしくは低肺機能の患者には、より切除範囲が小さく呼吸機能を温存できる肺区域切除や部分切除を検討する。また、肺葉切除に関しても、従来行われてきた標準的な開胸手術や胸腔鏡下手術だけでなく、できるかぎり体に負担の少ない低侵襲手術を適応することができるか十分に検討し、治療を提案している。

毎週定期的に開催するカンファレンスでは、呼吸器内科や放射線科とともに症例検討を行い、各症例に応じた治療を複合的に検討している。

(部長 成田 久仁夫)

2. 新規登録疾患

総数：226件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
原発性肺癌	気管支及び肺の悪性新生物, 気管支又は肺, 部位不明	91	C349
気胸	自然気胸	18	J931
	続発性気胸	11	J938
胸部の表在損傷	胸部の挫傷	24	S202
胸部外傷	外傷性血気胸	10	S272
	外傷性気胸	6	S270
縦隔腫瘍	中耳, 呼吸器及び胸腔内臓器の性状不詳又は不明の新生物, 縦隔	8	D150
	その他及び部位不明の胸腔内臓器の良性新生物, 胸腺	5	D383
転移性肺癌	肺の続発性悪性新生物	14	C780

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	2,926人	年間外来新患者数	319人
年間入院患者数	2,055人	年間入院新患者数	204人

(2) 手術症例

総件数：168件

病名	件数(件)
原発性肺癌	95
転移性肺癌	11
縦隔腫瘍	7
その他	55
計	168

心臓外科・血管外科

1. 概要

先天性心疾患：NMCにおいて1kgに満たない小さな子たちに救命的な手術を行っている。以前より一貫して将来を見越した胸筋温存による手術を行っており、この術式を取り入れている施設は全国でもごくわずかである。それ以外の症例については他院へお連れして手術を行っている。

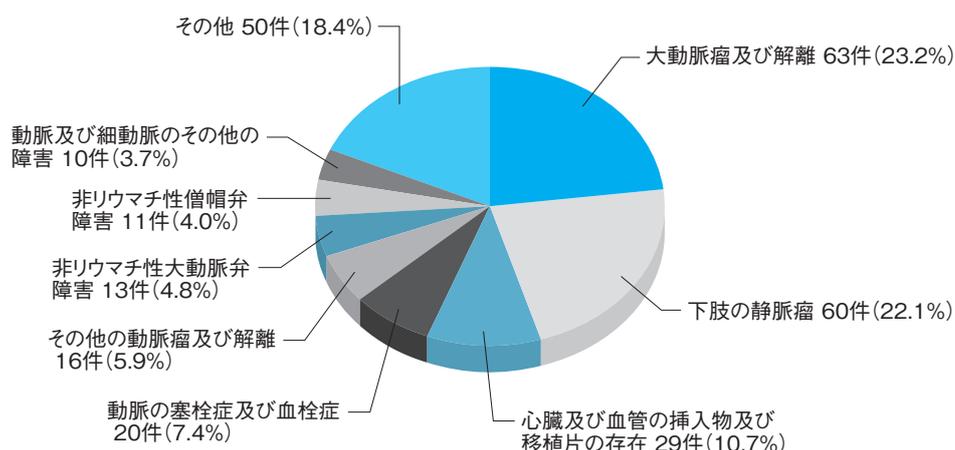
成人心疾患：症例数が少なく、チームの練度が上がらないのが現状であるが、日々のカンファレンスを充実させ一步一步進んでいる。

血管外科：2019年度から腹部大動脈瘤に対するステント治療を開始し、症例数も増加してきている。80歳代後半の患者さんも術後早期に自宅退院され、我々もその優位性を実感している。今後もより安全で早期回復を目指した手術を行うよう、スタッフともども進めていく所存である。

(部長 中山 雅人)

2. 新規登録疾患

総数：272件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
大動脈瘤及び解離	腹部大動脈瘤, 破裂の記載がないもの	35	I714
	大動脈の解離 [各部位]	16	I710
下肢の静脈瘤	潰瘍又は炎症を伴わない下肢の静脈瘤	52	I839
心臓及び血管の挿入物及び移植片の存在	その他の心臓及び血管の挿入物及び移植片の存在	27	Z958
動脈の塞栓症及び血栓症	詳細不明の動脈の塞栓症及び血栓症	11	I749
その他の動脈瘤及び解離	部位不明の動脈瘤及び解離	10	I729
非リウマチ性大動脈弁障害	大動脈弁閉鎖不全 (症)	9	I351
非リウマチ性僧帽弁障害	僧帽弁閉鎖不全 (症)	11	I340
動脈及び細動脈のその他の障害	動脈の狭窄	9	I771

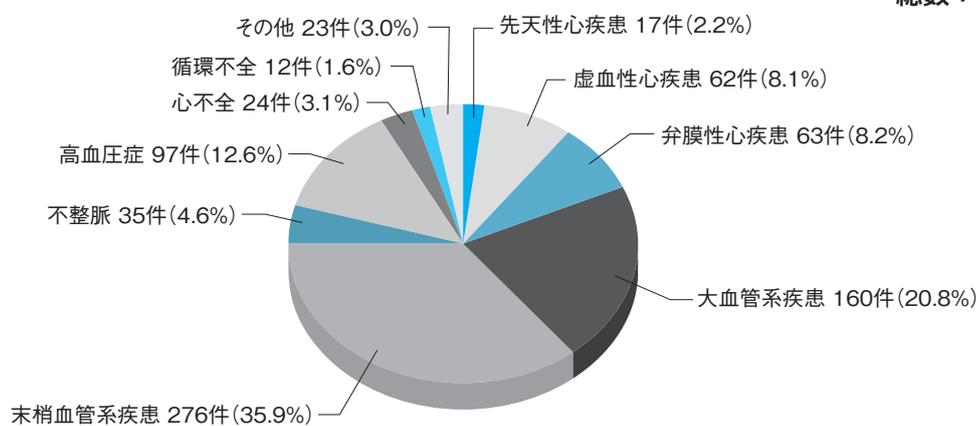
3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	3,117人	年間外来新患者数	191人
年間入院患者数	2,967人	年間入院新患者数	164人

(2) 疾患別頻度

総数：769件



移植外科

1. 概要

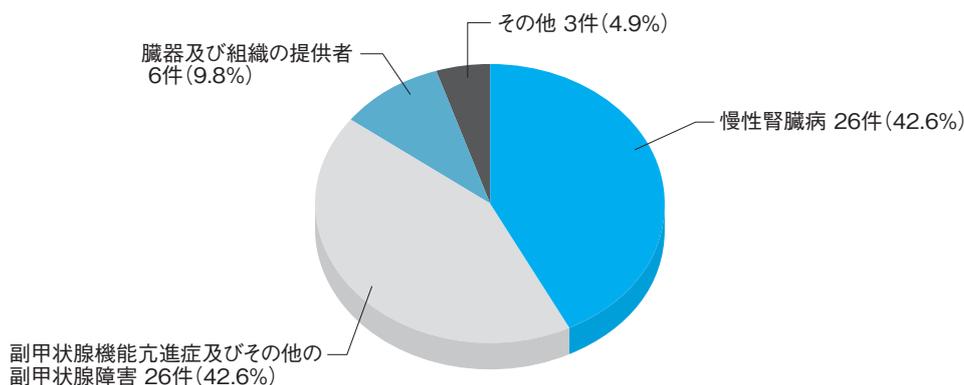
2010年4月より移植外科が標榜されて以来、移植外科医2名体制であったが、2012年5月に大塚聡樹（15年間勤務）が異動となり、移植外科医は1名となった。2012年10月からは東三河において唯一の腎移植認定施設となってしまったため、当地域の献腎移植登録患者の待機期間中のフォローアップは当院のみで行っている。また、他院で移植された腎移植患者や肝移植患者の定期通院も受け入れており、東三河だけでなく全国の移植施設との間で病診連携がなされている。生体腎移植目的の紹介患者は年々増加しており、今後、腎移植症例はさらに増えてゆくものと思われる。また、高カルシウム血症に伴い尿路結石や骨折を繰り返す原発性副甲状腺機能亢進症や、長期透析に伴う二次性副甲状腺機能亢進症に対する副甲状腺手術（2019年：23例）も年々増加しており、近隣透析施設との病診連携も密に行われている。

長坂隆治が、第21回臓器移植推進国民大会（2019年10月19日開催）にて「厚生労働大臣感謝状（個人の部）」を受賞した。

（部長 長坂 隆治）

2. 新規登録疾患

総数：61件



3. 活動報告

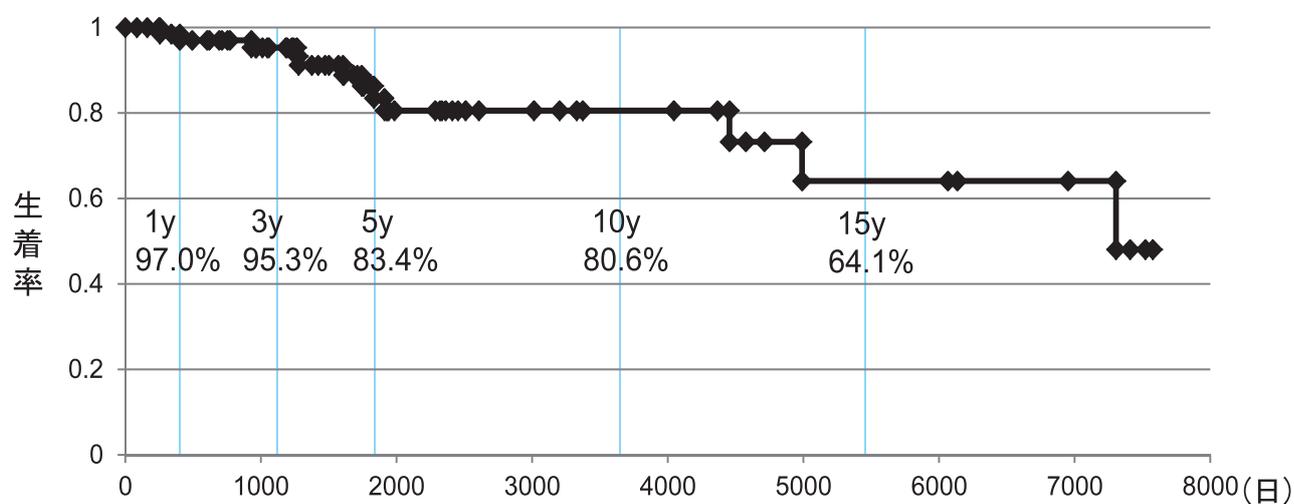
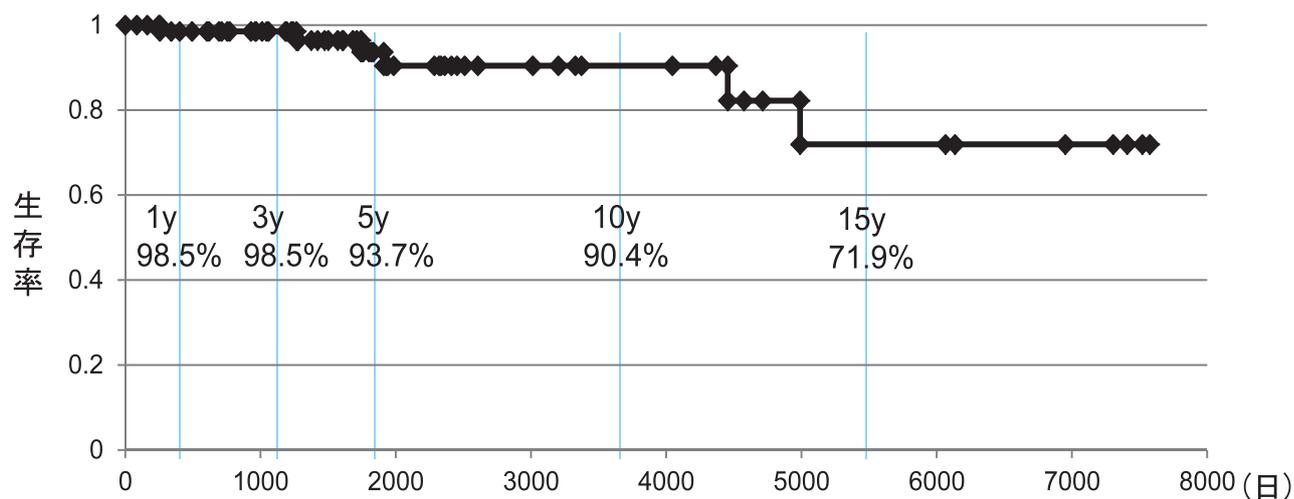
(1) 患者状況

年間外来患者数	1,391人	年間外来新患者数	46人
年間入院患者数	559人	年間入院新患者数	58人

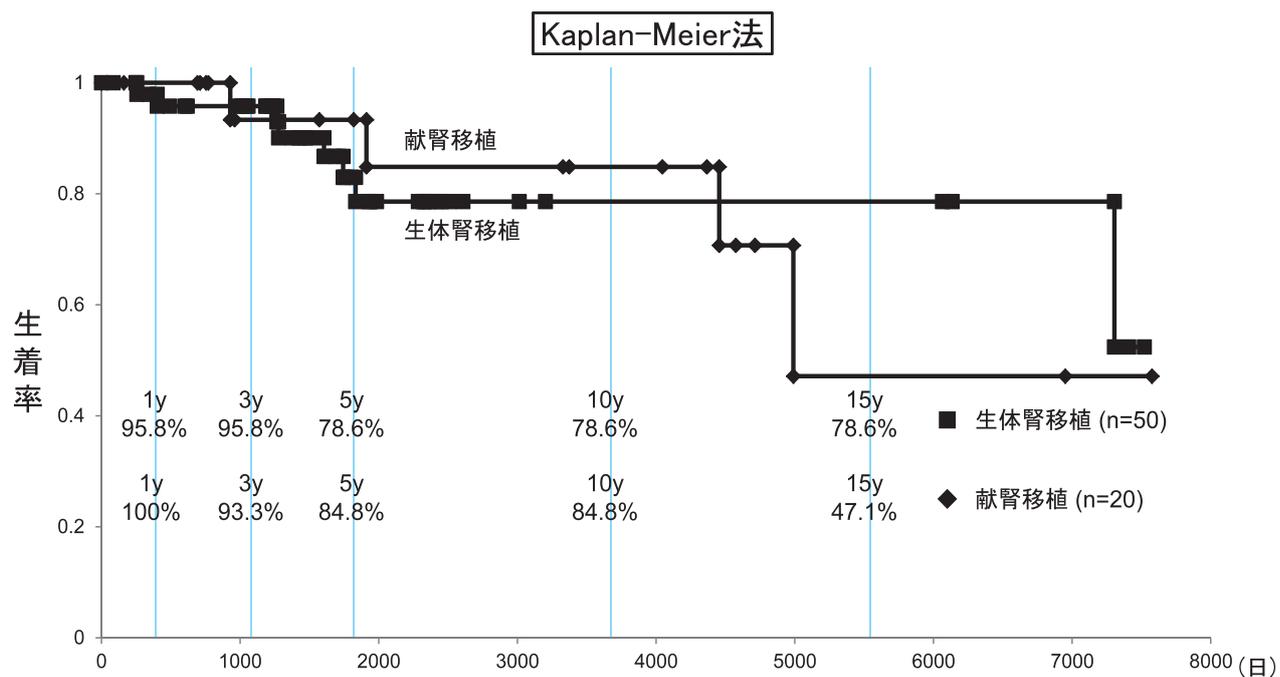
(2) 外来患者の状況 (2020年3月31日現在)

	外来種別	患者数 (人)		外来種別	患者数 (人)
1	腎移植後	86	5	副甲状腺手術後	45
2	肝移植後	9	6	生体移植ドナー術後 (肝臓、腎臓、膵臓)(当院外患者)	12
3	膵移植後	1			
4	献腎移植登録外来	101		計	254

(3) 当院腎移植症例の生着率と生存率 (2020年3月現在, N=70)



(4) 当院腎移植症例の生着率（生体腎移植 vs 献腎移植）（2020年3月現在, N=70）



整形外科

1. 概要

2019年12月31日時点での構成は常勤医（山内健一、藤田護、三矢聡、武田真輔、三矢未来（休職中）、福井順）と専攻医（川崎成美、桑原悠太郎）である。

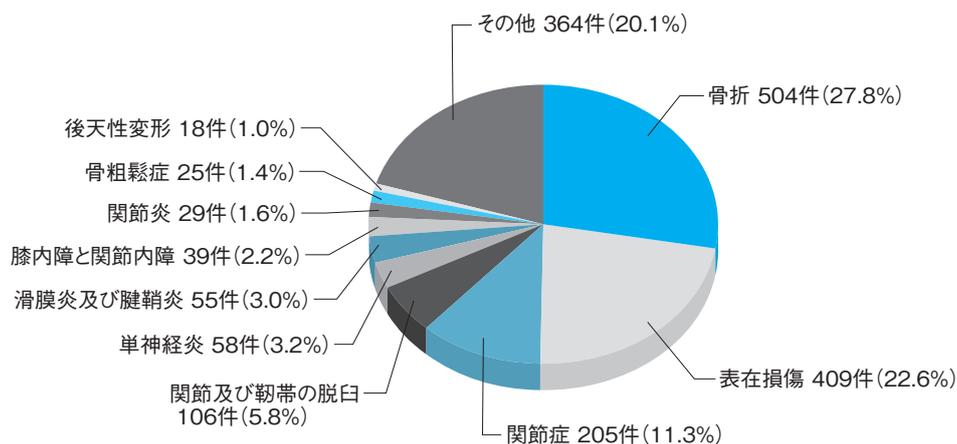
専門外来は股関節（山内）、膝・肩関節（藤田、福井）、上肢、骨盤外傷（三矢聡）、上肢（武田）が担当している。小児整形を担当していた古橋範雄は12月31日をもって退職し、2020年1月より代務として引き続き小児分野を担当していただくことになった。腫瘍については全員で診療をおこない、毎月第2月曜日に名古屋大学整形外科腫瘍グループに骨軟部腫瘍外来をご協力いただいている。

年2回（2月、8月）豊橋整形外科研修セミナーを主催、また毎月東三河整形外科医会に参加し研修、および近隣の医療機関の医師との交流に努めている。

（部長 山内 健一）

2. 新規登録疾患

総数：1,812件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
骨折	転子貫通骨折	58	S7210
	大腿骨頸部骨折	56	S7200
表在損傷	頸部の表在損傷, 部位不明	94	S109
	下背部及び骨盤部の挫傷	34	S300
関節症	その他の原発性膝関節症	82	M171
	股関節症, 詳細不明	68	M169
関節及び靭帯の脱臼	膝の(前)(後)十字靭帯の捻挫及びストレイン	25	S835
	半月裂傷, 新鮮損傷	22	S832
単神経炎	手根管症候群	31	G560
	尺骨神経の病変	16	G562
滑膜炎及び腱鞘炎	ばね指	24	M6534
	滑膜炎及び腱鞘炎, 詳細不明	13	M6599
膝内障と関節内障	膝内障, 詳細不明	16	M2399
関節炎	化膿性関節炎, 詳細不明	6	M0096
骨粗鬆症	骨粗しょう症, 詳細不明	6	M8199
後天性変形	指の変形	11	M200

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	27,050人	年間外来新患者数	4,362人
年間入院患者数	21,499人	年間入院新患者数	1,249人

(2) 骨折頻度

	部 位	件 数 (件)		部 位	件 数 (件)
1	肩及び上腕	87	5	手首及び手	63
2	大腿骨	129	6	足(足首を除く)	29
3	前腕	80	7	その他	51
4	下腿(足首を含む)	65		計	504

(3) 手術実績

- ①手術症例件数 1,309件
 ②麻酔別症例件数(重複あり)

名 称	件 数 (件)
全身麻酔	217
腰椎麻酔	554
伝達麻酔	504
局所麻酔	405
その他	126
計	1,806

③分野別症例件数（重複あり）

(ア)関節外科

a 人工関節

名 称	件 数 (件)
人工股関節	84
人工骨頭股関節	48
人工膝関節	37
人工肩関節	0
人工肘関節	1
計	170

b 関節形成術

名 称	件 数 (件)
股関節	7
膝関節	1
肩関節	1
足関節	1
計	10

c 関節鏡視下手術

名 称	件 数 (件)
手関節	59
膝関節	48
肩関節	6
足関節	2
計	115

a + b + c 295件

(イ)手の外科

名 称	件 数 (件)
肘・前腕	119
手指	185
手関節	52
マイクロサージャリー	15
足趾、多合指（趾）	5
計	376

(ウ)骨軟部外傷

名 称	件 数 (件)
骨盤	10
大腿骨近位部	150
大腿	9
膝	36
下腿	69
足関節－足	65
鎖骨－上腕	58
抜釘	180
計	577

(エ)切断術（手指を除く） 48件
 (オ)骨髄炎・感染症 42件
 (カ)腫瘍 27件
 (キ)その他 108件
 計 1,473件

リウマチ科

1. 概要

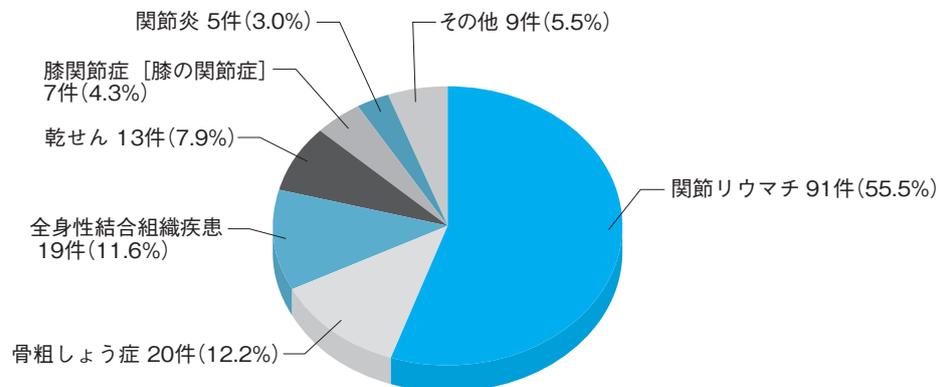
当科は内科的治療を基本としているが、整形外科より発展したため外科的治療も行っている。当科の診療の4本柱について記す。2019年は平野（1-12月）、紀平（1-6月）、小杉山（7-12月）、大石（代務医師：1-12月）で診療を行ってきた。2名のリウマチ科常勤医を中心に、代務医師、研修中の整形外科若手医師、他院勤務医師の助けも借りて診療を行った。

- ① 関節リウマチ（RA）の薬物治療：MTXを中心とした古典的抗リウマチ薬を早期から使用し、効果不十分例には生物学的製剤やJAK阻害剤を導入し関節破壊の防止に努めている。新薬の治験も行っている。
- ② 各種リウマチ性疾患（強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、リウマチ性多発筋痛症、SAPHO症候群、分類不能の脊椎関節炎、RS3PE症候群、炎症性腸疾患関連関節炎、好酸球性筋膜炎）：比較的珍しい疾患群であるが対応し、疾患ごとの適切な治療を行っている。
- ③ 骨粗鬆症の診療：古典的薬剤に加え、新規薬剤（テリパラチド、デノスマブ、ロモソズマブ）が出現し、パラダイムシフトが起こっている。骨折診療の潮流は治療から予防に向かっている。
- ④ RAの外科的治療：長期罹病RA患者には外科的治療が必要であり、薬物治療とのコンビネーションこそが最高の結果をもたらす。人工関節置換術、関節固定術、関節形成術を行っている。

（部長 平野 裕司）

2. 新規登録疾患

総数：164件



3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	12,053人	年間外来新患者数	201人
年間入院患者数	542人	年間入院新患者数	25人

(2) 実績

関節リウマチ患者背景		
症例数(例)		1,010
新患者数(各年)(人)		82
性別	男(人)	244
	女(人)	766
	女性率(%)	75.8
平均年齢(歳)		66.6
平均罹病期間(年)		13.7
罹病期間分類(%)	2年以下	14.1
	3年～9年	29.9
	10年以上	56.0
Stage(%)	I	28.8
	II	8.6
	III	27.2
	IV	35.3
Class(%)	1	44.6
	2	43.5
	3	10.0
	4	1.9
RF陽性率(%)		76.1
ACPA陽性率(%)		78.4

関節リウマチ薬物治療	
MTX 投与者(例)	623
MTX 投与率(%)	61.7
投与例の平均 MTX 投与量(mg/w)	7.6
GST 投与者(例)	19
GST 投与率(%)	1.9
SASP 投与者(例)	186
SASP 投与率(%)	18.4
TAC 投与者(例)	165
TAC 投与率(%)	16.3
IGU 投与者(例)	144
IGU 投与率(%)	14.3
BUC 投与者(例)	13
BUC 投与率(%)	1.3
PSL 投与率(%)	14.1
投与例の平均 PSL 投与量(mg/day)	4.2
生物学的製剤経験者	406
生物学的製剤経験率(%)	40.2

手術件数	
人工膝関節全置換術(件)	7
人工膝関節単顆置換術(件)	2
人工股関節置換術(件)	0
足趾形成術(件)	3
RA 手関節手術(件)	0
足関節固定術(件)	1
その他(件)	2
合計手術件数	15

関節リウマチ患者の骨粗鬆症治療		
骨粗鬆症治療の施行(例)	あり	448
	なし	562
骨粗鬆症治療の施行率(%)		44.4
ビタミンD製剤(例)	エディロール	224
	ワークミン	52
	ロカルトロール	0
	デノタス	57
ビスホスホネート製剤(例)	アクトネル	69
	ボノテオ	150
	ボナロンゼリー	11
	ボンビバ	11
SERM(例)	リクラスト	33
	エビスタ	11
PTH製剤(例)	ビビアント	8
	フォルテオ(投与中)	3
抗 RANKL抗体(例)	フォルテオ(延べ数)	80
	プラリア(投与中)	81
抗スクロステチン抗体(例)	プラリア(延べ数)	114
	イベニティ(投与中)	8
その他(例)	イベニティ(延べ数)	8
	グラケー	1

※通院中の患者数

関節リウマチ以外の患者の骨粗鬆症診療	
閉経後骨粗鬆症(例)	67
ステロイド性骨粗鬆症(例)	42
性腺機能不全による骨粗鬆症(例)	10
妊娠後骨粗鬆症(例)	3
男性骨粗鬆症(例)	5
計	127

関節リウマチ臨床成績		
平均CRP(mg/dl)		0.61
平均DAS28(ESR)		2.84
DAS28(ESR)疾患活動性分類(%)	High	3.7
	Moderate	26.9
	Low	26.1
	Remission	43.2
平均SDAI		4.8
SDAI疾患活動性分類(%)	High	1.2
	Moderate	9.8
	Low	35.5
	Remission	53.5
Boolean4(%)		44.4
平均mHAQ		0.324
mHAQ<0.5(%)		74.0

関節リウマチ患者の通院中断		
死亡(例)		18
連絡無く通院中断(例)		12
他医紹介	通院困難(例)	7
	関節リウマチ以外の病気の転院に伴って(例)	11
	遠方への転居(例)	8
	患者希望で紹介(転居通院困難以外)(例)	9
関節リウマチから他疾患に診断変更(例)		7
寛解などで終了(例)		0
その他・分類不能(例)		4
計		76

脊椎外科

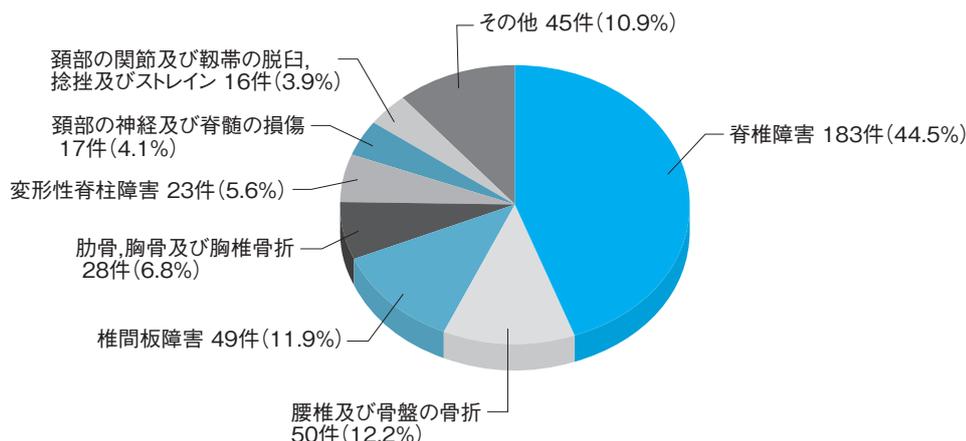
1. 概要

脊椎外科は2005年4月1日より院内標榜科として新設された。現在、脊椎外科医は吉原永武（部長）、岡田裕也2名であり、整形外科スタッフの協力を得ながら診療を行っている。年間200件程の手術治療を行っているが、頸髄症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアが脊椎外科における3大疾患であり、手術例のほとんどを占める。稀な疾患においては、名古屋大学整形外科脊椎グループと連携をとりながら、治療を行っている。2014年から手術室にO-arm CTとナビゲーション機器を導入し、より安全性を向上させた手術が可能となっている。近年、高齢化に伴う骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折に対するセメント治療（BKP）が全国的に行われるようになり、当院でも導入を始めた。全身麻酔が必要であるため、手術枠の問題で、まだ数は少ないが、今後積極的に行っていく治療になると考える。

（部長 吉原 永武）

2. 新規登録疾患

総数：411件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
脊椎障害	脊柱管狭窄（症）	80	M4806
	その他の脊椎症	51	M4782
腰椎及び骨盤の骨折	腰椎骨折	50	S3200
椎間板障害	その他の明示された椎間板ヘルニア	41	M512
肋骨、胸骨及び胸椎骨折	胸椎骨折	28	S2200
変形性脊柱障害	脊椎すべり症	13	M4316
頸部の神経及び脊髄の損傷	頸髄のその他及び詳細不明の損傷	17	S141
頸部の関節及び靭帯の脱臼、捻挫及びストレイン	頸椎の捻挫及びストレイン	14	S134

3. 活動報告

(1) 主な対象疾患

腰椎椎間板ヘルニア 腰部脊柱管狭窄症 頸椎症性頸髄症 腰椎迂り症・分離症 頸椎椎間板ヘルニア 後縦靱帯骨化症・黄色靱帯骨化症・黄色靱帯石灰化症 リウマチ脊椎 透析脊椎 脊髄腫瘍・脊椎腫瘍 脊椎感染症 脊椎外傷 その他

(2) 手術実績

術式	件数(件)
頸椎椎弓形成術	50
頸椎椎間孔拡大術	6
頸椎前方除圧固定	4
頸椎後方固定術	9
胸椎除圧固定	1
胸椎椎弓切除	10
椎間板ヘルニア摘出	26
椎弓切除（腰椎除圧術）	58
脊椎固定術	37
胸腰椎前方固定	0
胸腰椎後方固定	7
胸腰椎前方後方同時固定	1
脊椎脊髄腫瘍	5
その他	17
計	231

脳神経外科

1. 概要

当科では新生児から超高齢者まで脳神経外科疾患のほぼ全ての領域を対象に、高侵襲な手術から、血管内治療や神経内視鏡手術などの低侵襲かつ最先端の治療を導入して可能な限り当院にて治療が完結できるよう努めている。手術件数は年々増加し、2019年に初めて400件を超えた。特に同年はhybrid手術室の新設により難易度の高い脳血管障害を中心とした手術も開始され、今後もその適応疾患の拡大が期待される。

当科の該当疾患は、脳血管障害、脳腫瘍、外傷、先天性疾患、感染など多岐にわたるが、その中で脳卒中に於いては2019年に「脳卒中・循環器病対策基本法（略）」の施行に合わせて、脳神経内科と連携・協力して脳卒中ケアユニットを設置した。また2020年度からは一次脳卒中センターが開設される。診療体制の充実を図るべく専門医1名の増員を予定しており、さらなる高度医療の提供に努めたい。

また地域医療では東三河地域の関連施設と一緒に構築してきた「穂の国脳卒中連携パス」を今後も検討・改訂しながら、急性期から回復期および維持期医療への円滑な地域連携を引き続き図っていききたい。

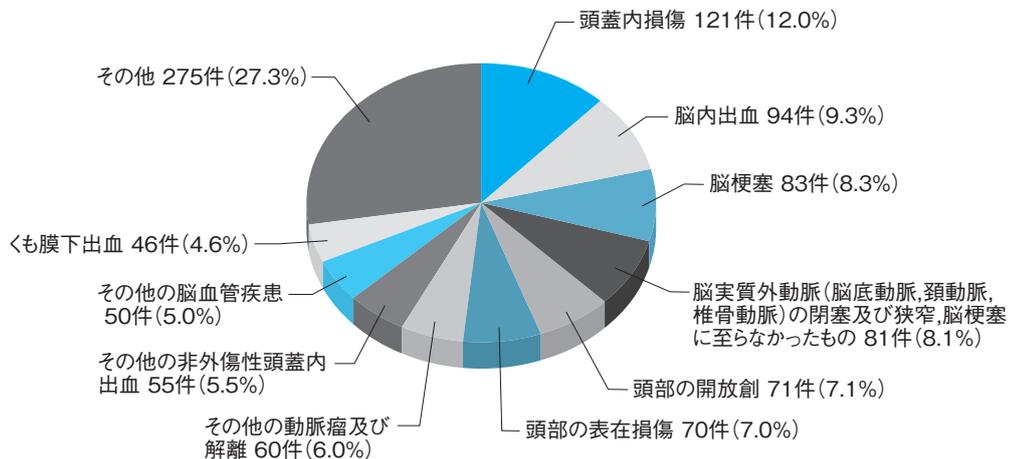
少子高齢化時代の中で、スタッフ一同、迅速・安全・確実な診療を心掛け、地域の皆様に信頼され広く親しまれる病院を目指して努力する所存である。

（第一部長 雄山 博文）

（文責 第二部長 若林 健一）

2. 新規登録疾患

総数：1,006件



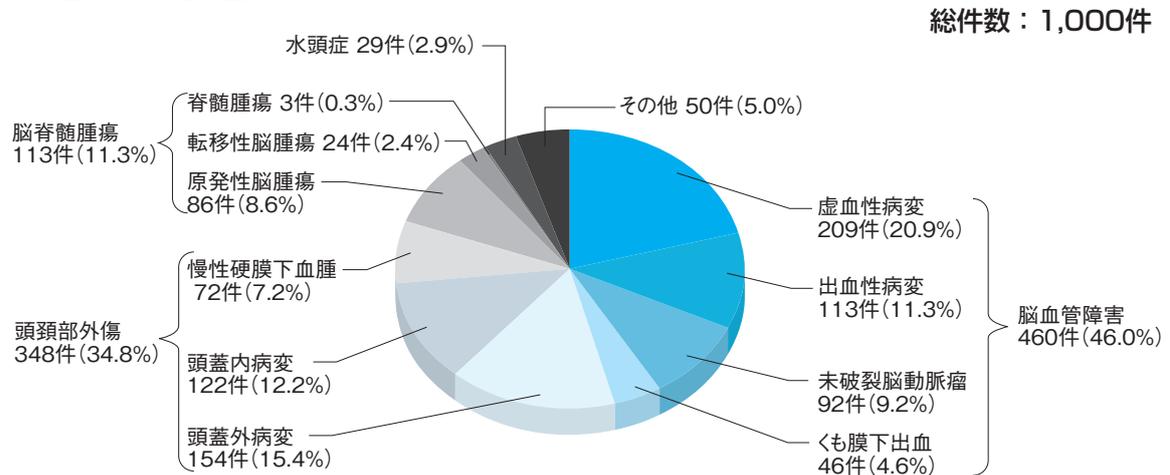
疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
頭蓋内損傷	外傷性硬膜下出血	50	S065
	外傷性くも膜下出血	22	S066
脳内出血	(大脳)半球の脳内出血, 皮質下	74	I610
	脳内出血, 詳細不明	11	I619
脳梗塞	脳梗塞, 詳細不明	37	I639
	脳動脈の塞栓症による脳梗塞	20	I634
脳実質外動脈(脳底動脈, 頸動脈, 椎骨動脈)の閉塞及び狭窄, 脳梗塞に至らなかったもの	頸動脈の閉塞及び狭窄	76	I652
頭部の開放創	頭皮の開放創	68	S010
頭部の表在損傷	頭皮の表在損傷	69	S000
その他の動脈瘤及び解離	頸動脈瘤及び解離	32	I720
	椎骨動脈の動脈瘤及び解離	24	I726
その他の非外傷性頭蓋内出血	硬膜下出血(急性)(非外傷性)	55	I620
その他の脳血管疾患	脳動脈瘤, 非破裂性	32	I671
くも膜下出血	前交通動脈からのくも膜下出血	11	I602

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	13,596人	年間外来新患者数	1,994人
年間入院患者数	16,295人	年間入院新患者数	735人

(2) 疾患群別に見た症例数



(3) 血管内手術件数

術式	件数(件)
経皮的血管形成術	43
急性期再開通療法	35
脳動脈瘤塞栓術	39
硬膜静脈瘻塞栓術	9
脳動静脈奇形塞栓術	6
その他の血管内手術	25
計	157

小児科

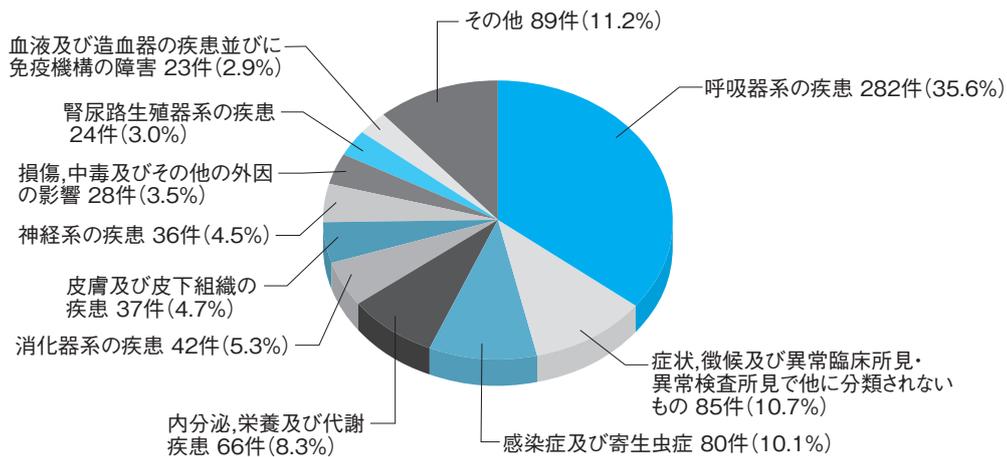
1. 概要

当小児科病棟スタッフは皆、東三河地域の最後の砦を担うという誇りと緊張感を持って日夜対応している。サブスペシャリティとしてはアレルギー疾患、神経疾患、循環器疾患、腎疾患、内分泌疾患、血液腫瘍疾患をカバーし、高度特殊医療を除けば各分野ともに専門施設と比べても引けを取らない医療レベルを提供できている。また、患者には最善の医療を提供すべく、各分野で対応困難な症例については惜しみなく専門施設との連携をとって対応している。このような体制を維持する意義は、極力地域で医療が完結することが患者家族への最高のサービスの一つとなることにある。特に長期入院を必要とする場合、月に何度も専門外来にかかる必要がある場合には切実な問題である。一方で、周囲の一次医療、二次医療、休日夜間診療所の業務、健診医療の充実に支えられてこそ当院が二次、三次医療に集中することが可能であるということも忘れてはならない。

(第二部長 伊藤 剛)

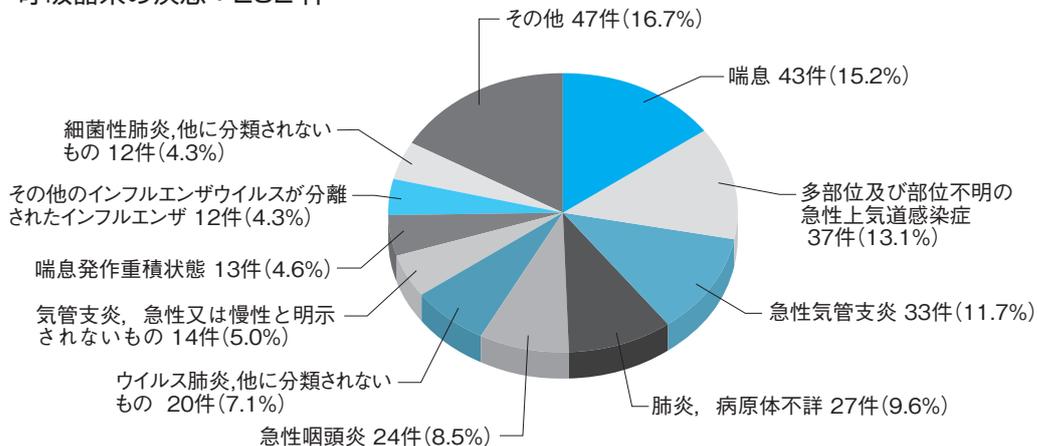
2. 新規登録疾患

総数：792件

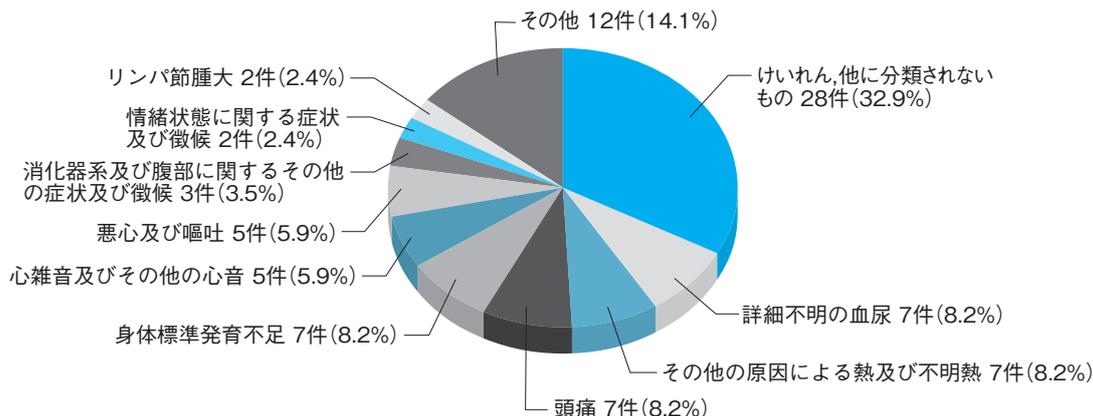


上位3位の詳細

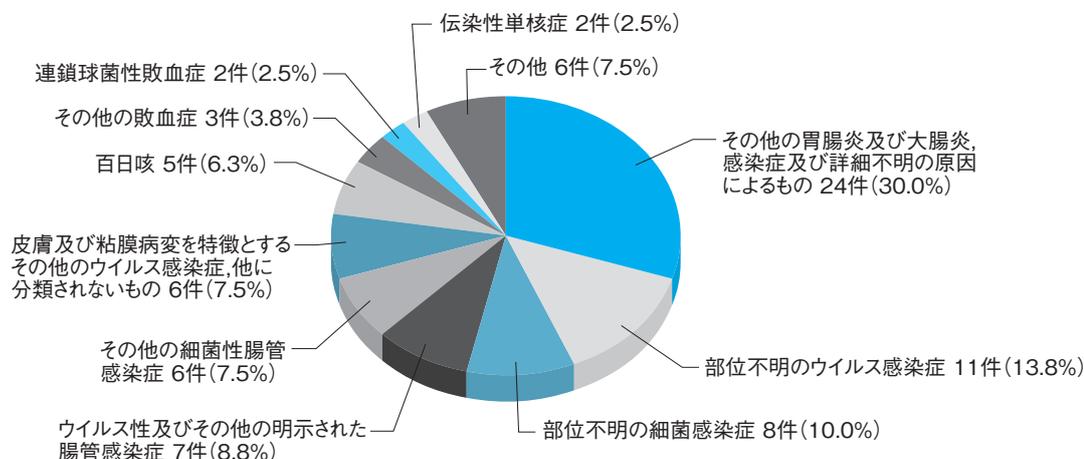
(1) 呼吸器系の疾患：282件



(2) 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの：85件



(3) 感染症及び寄生虫症：80件



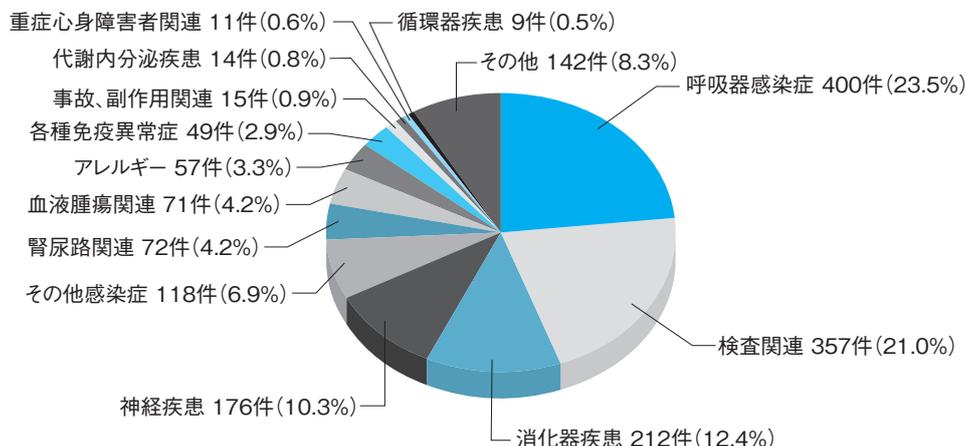
3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	30,130人	年間外来新患者数	2,911人
年間入院患者数	18,366人	年間入院新患者数	1,995人

(2) 入院患者疾患別頻度

総数：1,703件



小児科（新生児部門）

1. 概要

豊橋市民病院新生児医療センターは、東三河地区唯一の総合周産期母子医療センターに指定されている。

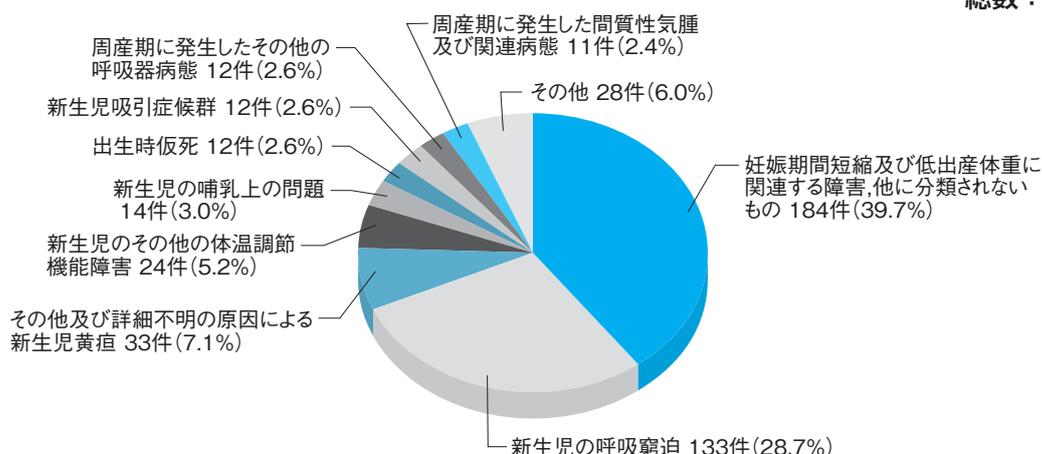
2019年の入院数は434で内303例は院内出生であった。131例の院外出生例においては医師が救急車に同乗して搬送しており、診察依頼があった全ての新生児に24時間体制で高度の医療を迅速に提供している。一部の外科的治療が必要な例は他施設への搬送を要する例もあるが、その場合も医師が同乗し責任をもって搬送にあたっている。2019年の死亡例は5例であった。新生児期の医療面のみではなく、患児発達支援や、両親の心のサポートを医師、看護師、理学療法士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカーが共同して提供している。近隣産科医院への出張を含めた新生児蘇生講習会を定期開催し、地域の周産期医療レベルの向上にも努めている。

当センターは周産期（新生児）専門医の基幹研修施設に指定されており、若手医師の教育、専門医の育成にも尽力している。

（第二部長 杉浦 崇浩）

2. 新規登録疾患

総数：463件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
妊娠期間短縮及び低出産体重に関連する障害, 他に分類されないもの	その他の早産児	98	P073
	その他の低出産体重(児)	66	P071b
新生児の呼吸窮迫	新生児一過性頻呼吸	117	P221
	新生児呼吸窮迫症候群	15	P220
その他及び詳細不明の原因による新生児黄疸	新生児黄疸, 詳細不明	33	P599
新生児のその他の体温調節機能障害	新生児の体温調節機能障害, 詳細不明	24	P819
新生児の哺乳上の問題	新生児嘔吐	10	P920
出生時仮死	重度出生時仮死	7	P210
	軽度及び中等度出生時仮死	3	P211
新生児吸引症候群	新生児の胎便吸引	12	P240
周産期に発生したその他の呼吸器病態	新生児のその他の無呼吸	12	P284
周産期に発生した間質性気腫及び関連病態	周産期に発生した気胸	11	P251

産婦人科

1. 概要

周産期部門では、産後2週間健診や産後ケア事業を助産師とともに拡充し、増加するメンタルや社会的にハイリスクの妊婦への対応を行った。地域の出生数の減少に伴い、分娩数の低下傾向は続いているが、早産を含めたハイリスク分娩、母体搬送数はほぼ横ばいとなっておりハイリスク症例については当院への集約化が進んでいると考えられた。2017年より開始したNIPT（新型出生前診断）は検査数100を超え、高年適応での羊水検査がほぼNIPTに移行した。

婦人科手術については、ロボット手術の保険適応が良性疾患にも拡大され、症例数が飛躍的に増加した。また、症例見学施設としても多くの見学者を受け入れた。薬物療法もコンパニオン診断としての遺伝子診断が保険適応となり個別化治療が進むことにより予後改善が見込まれる。

子宮筋腫、子宮内膜症をはじめとした良性疾患については挙児希望のある患者については、総合生殖センターと連携し生殖～周産期へと一貫した治療を目指し、患者のQOLやファミリープランニングを念頭に治療選択に患者自身の積極的関与を促す方法を取り入れている。必要に応じ不妊治療の前に周産期リスクについてカウンセリングを行うプレコンセプションケアも行っている。

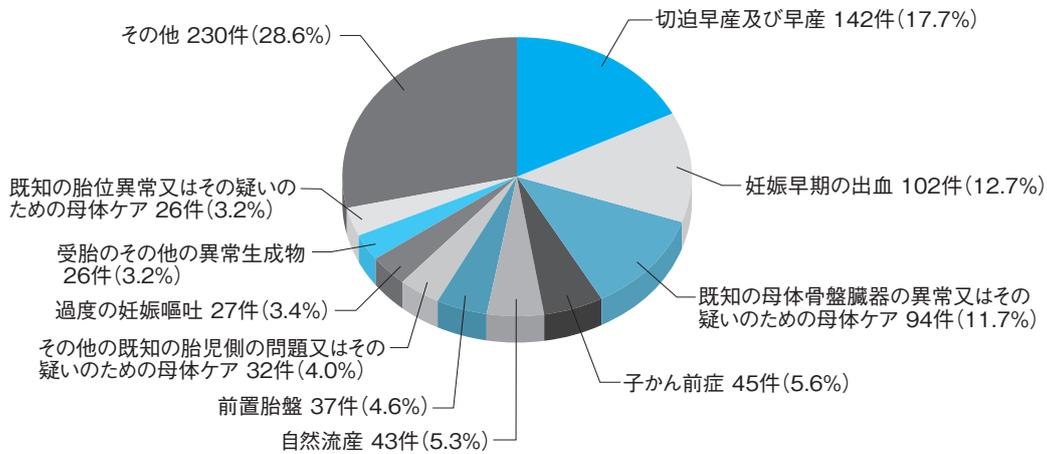
産婦人科（生殖医療含む）医師は2020年4月現在17名、うち産婦人科専攻医5名（うち新専門医制度受け入れ2名）。当院の特徴である周産期、腫瘍、生殖、女性ヘルスケアの産婦人科主要4分野プラス内視鏡について充実した研修体制を提供することで専攻医にとって魅力あるプログラムを提供していきたい。

（第二部長 岡田 真由美）

2. 新規登録疾患

(1) 産科（分娩を除く）

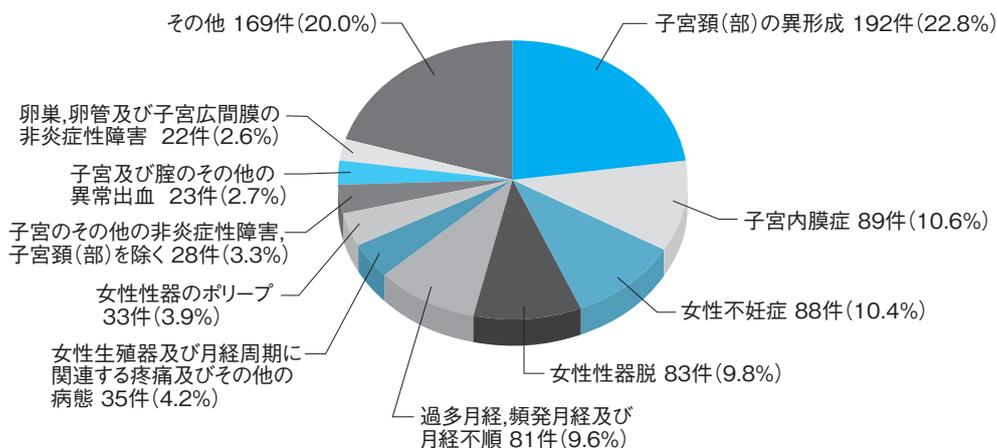
総数：804件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
切迫早産及び早産	切迫早産	140	O600
妊娠早期の出血	切迫流産	99	O200
既知の母体骨盤臓器の異常又はその疑いのための母体ケア	既往手術による子宮瘢痕による母体ケア	85	O342
子かん前症	重症子かん前症	22	O141
	子かん前症, 詳細不明	18	O149
自然流産	自然流産, 完全流産又は詳細不明の流産, 合併症を伴わないもの	38	O039
前置胎盤	出血を伴う前置胎盤	37	O441
その他の既知の胎児側の問題又はその疑いのための母体ケア	Rh因子同種免疫のための母体ケア	14	O360
	子宮内胎児死亡のための母体ケア	10	O364
過度の妊娠嘔吐	軽度妊娠悪阻	22	O210
受胎のその他の異常生成物	稽留流産	26	O021
既知の胎位異常又はその疑いのための母体ケア	骨盤位のための母体ケア	26	O321

(2) 婦人科

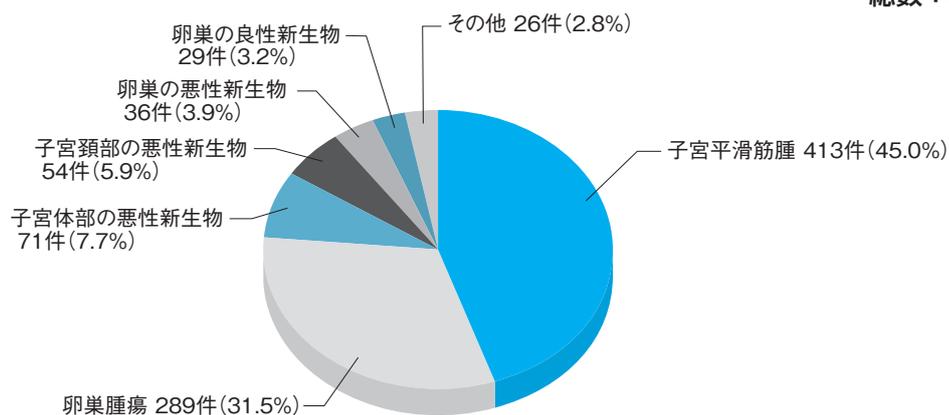
総数：843件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
子宮頸(部)の異形成	子宮頸(部)の異形成, 詳細不明	135	N879
	高度子宮頸(部)の異形成, 他に分類されないもの	48	N872
子宮内膜症	子宮の子宮内膜症	43	N800
	子宮内膜症, 詳細不明	32	N809
女性不妊症	女性不妊症, 詳細不明	85	N979
女性性器脱	子宮腔脱, 詳細不明	31	N814
	不(完)全子宮腔脱	20	N812
過多月経, 頻発月経及び月経不順	不規則周期を伴う過多月経及び頻発月経	33	N921
	規則的周期を伴う過多月経及び頻発月経	31	N920
女性生殖器及び月経周期に関連する疼痛及びその他の病態	月経困難症, 詳細不明	26	N946
女性性器のポリープ	子宮頸(部)ポリープ	22	N841
子宮のその他の非炎症性障害, 子宮頸(部)を除く	子宮内膜腺様のう胞性増殖症	15	N850
子宮及び腔のその他の異常出血	子宮及び腔の異常出血, 詳細不明	23	N939
卵巣, 卵管及び子宮広間膜の非炎症性障害	卵巣, 卵管及び広間膜のその他の非炎症性障害	17	N838

(3) 新生物

総数：918件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
子宮平滑筋腫	子宮平滑筋腫, 部位不明	402	D259
	粘膜下子宮平滑筋腫	11	D250
卵巣腫瘍	女性生殖器の性状不詳又は不明の新生物,卵巣	289	D391
子宮体部の悪性新生物	子宮体部の悪性新生物, 子宮体部, 部位不明	50	C549
	子宮体部の悪性新生物, 子宮内膜	17	C541
子宮頸部の悪性新生物	子宮頸部の悪性新生物,子宮頸(部),部位不明	54	C539
卵巣の悪性新生物	卵巣の悪性新生物	36	C56
卵巣の良性新生物	卵巣の良性新生物	29	D27

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	41,218人	年間外来新患者数	2,608人
年間入院患者数	19,782人	年間入院新患者数	2,360人

(2) 実績

分娩統計 (2019.1-12) (件)	
正常	331
選択帝王切開	211
緊急帝王切開	161
超緊急帝王切開	4
死産緊急帝王切開	2
鉗子分娩	4
吸引分娩	30
死産	3
自宅分娩	1
車中分娩	2
未受診正常	7
双胎選択帝王切開	22
双胎緊急帝王切開	20
双胎超緊急帝王切開	1
双胎一児IUID・超緊急帝王切開	1
双胎一児IUID・正常分娩	3
品胎選択帝王切開	1
計	804
中期中絶	19
中期流産	10
双胎流産D & C	1
双胎流産	1
双胎一児IUID中絶	1
計	32
母体搬送	239

産婦人科悪性腫瘍治療症例数 (2019.1-12) (件)	
◎子宮頸部CIN2	計13例
①円錐切除	10
②TLH	3
◎子宮頸部CIN3	計64例
①円錐切除	45
②TLH	14
③ロボット支援下TLH	5
◎子宮頸癌	計54例
①子宮頸癌初回手術	40
I A1期	4
I A期	3
I B1期	20
I B2期	8
II A1期	1
AIS	4
②CCRT (同時化学放射線療法 放射線科 と共同治療)	11
I B2期	1
II B期	4
III B期	1
IV B期	5
③放射線療法 (主に放射線科で治療)	3
II A1期	1
IV B期	2
◎子宮体癌初回手術 (癌肉腫含む)	計67例
I A期	47
I B期	5
II 期	5
III A期	4
III B期	1
III C1期	2
III C2期	2
IV B期	1
◎子宮内膜異型増殖症手術	計4例

◎卵巣癌手術	計26例
I A期	3
I C1期	4
I C2期	2
I C3期	3
II A期	2
II B期	1
III A期	2
III B期	1
III C期	6
IV A期	1
IV B期	1

◎卵巣境界悪性腫瘍手術	計10例
I A期	3
I C1期	6
I C2期	1

◎STUMP 計2例

◎子宮肉腫 計2例

化学療法

卵巣癌	71人	延べ422コース
子宮頸癌	59人	延べ248コース
子宮体癌	41人	延べ198コース
腹膜癌	7人	延べ 50コース
子宮肉腫	2人	延べ 10コース
卵管癌	1人	延べ 2コース
原発不明癌	1人	延べ 2コース

計 182人に対してのべ932コース施行
(内服抗がん剤は除く)

手術総件数 (2019.1-12) (件)

産科

帝王切開術	398
前置胎盤を伴う帝王切開術	26
分娩後子宮全摘	3
会陰部裂傷縫合・膣壁血腫除去術	7
子宮内反整復術	1
子宮頸管縫縮術	17
その他	1

開腹術 (良性)

単純子宮全摘出術 (膣上部含む)	54
筋腫核出術	12
子宮付属器手術	37
異所性妊娠手術	1
その他	9

開腹術 (悪性)

子宮悪性腫瘍手術	40
うち広汎子宮全摘術	18
うち拡大子宮全摘術	8
子宮付属器悪性腫瘍手術	33
その他 (試験開腹術含む)	9

経膣的・外陰部手術

膣式子宮全摘術 (前後会陰形成術含む)	15
経膣的子宮筋腫核出術	3
円錐切除術 (蒸散含む)	77
子宮内膜全面搔把術	17
子宮内容除去術 (流産手術)	20
子宮内容除去術 (人工妊娠中絶術)	18
胞状奇胎娩出術	8
その他	20

内視鏡手術

子宮鏡手術	12
腹腔鏡 (補助) 下子宮悪性腫瘍手術	16
うち子宮頸癌	10
うち子宮体癌	6
うち広汎子宮全摘術	7
うち拡大子宮全摘術	5
腹腔鏡 (補助) 下子宮全摘術 (良性)	124
腹腔鏡 (補助) 下子宮筋腫核出術	19
腹腔鏡 (補助) 下子宮付属器手術	113
腹腔鏡下異所性妊娠手術	21

腹腔鏡下仙骨腔固定術	22
腹腔鏡下手術（その他）	1
ロボット支援下手術	110
うち良性疾患	74
うち子宮頸癌	4
うち子宮体癌	32
うち広汎子宮全摘	3
うち拡大子宮全摘	1
計	1,264

産婦人科（生殖医療）

1. 概要

当院の表看板でもある体外受精などの生殖補助医療（ART）におけるタイムラプス胚培養も13年目となった。2018、19年に新機種に刷新して全国に先駆け全受精卵に対して実施可能となった。ART新時代においては、医師をはじめとしたスタッフの臨床知識・スキルのみならず、成績向上や患者サービス向上に直結する次世代医療機器を選定するかが重要になってきている。1996年から4半世紀にわたる改善の積み重ねが実を結んでいる。収益性重視と一言でいうが、安定した患者数や現場スタッフの努力のみならず、歴代の豊橋市長・市民病院院長らの生殖医療への理解と投資があったからこそ、20年以上にわたり先端的なARTを実現できた。

当院では、様々な最新医療技術でもすんなり妊娠いただけない患者の共通点を探しだしていき、粘り強く成功に導く努力も毎年重ねてきた。健康長寿に向けて生活習慣の質的向上が重要視されてきたのと同じように、生殖医療もまた、35歳以上での妊娠・出産という過度の身体負荷がかかる状態に耐えることができる健康状態に導きつつ治療を行っていくことが重要なことが明らかになってきた。

2019年は食事、運動、睡眠、心理的ストレスの4つのテーマで生活習慣を見直してもらい、生殖現象のみならず味覚や感染防御に重要な亜鉛欠乏に対し、本格的に取り組みを開始した。何人の子どもを望み、最後の子どもを西暦何年・何歳で出産するかを目標を明確にし、そこから逆算して実際の治療プランを立てるファミリープランニングを意識した生殖医療を最新技術と両輪で推進している。原稿執筆時（2020年春）における新型コロナウイルス（COVID-19）への対応も同じ方向性であり、地元東三河在住患者のみの受け入れや最後の子どもの分まで胚凍結を行う治療方針など、新型コロナウイルス感染拡大の影響等でおれることのない生殖医療を継続している。

（部長 安藤 寿夫）

2. 活動報告

(1) 生殖補助医療

2019年	刺激周期数	体外受精数	内、顕微授精	新鮮胚移植	妊娠	融解胚移植	妊娠
1月	15	12	4	5	1	6	1
2月	19	15	10	6	4	7	2
3月	18	16	10	11	3	8	5
4月	14	13	8	3	2	2	1
5月	14	14	7	4	1	10	5
6月	15	11	8	4	1	2	1
7月	14	12	9	7	5	9	3
8月	16	15	7	9	4	5	2
9月	7	7	2	3	0	8	4
10月	14	14	7	8	2	6	1
11月	13	13	6	6	3	9	3
12月	10	10	5	2	0	12	4
計	169	152	83	68	26	84	32
妊娠率					38.2%		38.1%

単胚移植率 100%。多胎 0 例。

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられている。

(2) 不妊症妊娠例（カッコ内は多胎妊娠例）

区分	件数
体外受精 - 新鮮胚移植	26 (0)
融解胚移植	29 (0)
排卵誘発	5 (0)
人工授精	3 (0)
習慣流産	6 (0)
タイミング法・その他	14 (0)
計（重複例を除く）	73 (0)

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられている。

3. 受賞

第 19 回日本生殖工学会優秀発表賞

ヒト射出精液培養検査：タイムラプス胚培養での ART 反復不成功例で疑う細菌の関与
受賞者：安藤 寿夫

女性内視鏡外科

1. 概要

産婦人科における手術治療のうち、主に腹腔鏡下手術やロボット支援下手術に関わる診療を担当している。従来の開腹術と比べ、早期退院、社会復帰が可能であり患者にとって負担が少ない手術法である。2019年度には、約400件の腹腔鏡下手術と120件のロボット支援下手術を行った。良性疾患だけでなく、悪性腫瘍疾患に対しても積極的に本術式を導入し、子宮体癌や子宮頸癌に対する低侵襲手術を行った。

2018年度には愛知県で初めて、子宮頸癌におけるロボット支援下広汎子宮全摘術を先進医療として開始した。また、日本で4か所目のロボット支援下手術認定証発行施設であり、全国から多くの医師が手術見学のため来院する。当院は、東三河唯一の産婦人科内視鏡技術認定医研修施設であり、多くの若手医師が技術認定医を目指して日々修練している。技術認定医の資格を得るには数多くの腹腔鏡下手術の件数やビデオ審査があるが、直近3年間で当院から6名の合格者を輩出している。

現在、腹腔鏡下手術やロボット支援下手術の指導者として全国多岐にわたり、講演や手術技術指導を行っており、今後もさらなる低侵襲化手術の普及に努める。

(部長 梅村 康太)

耳鼻いんこう科

1. 概要

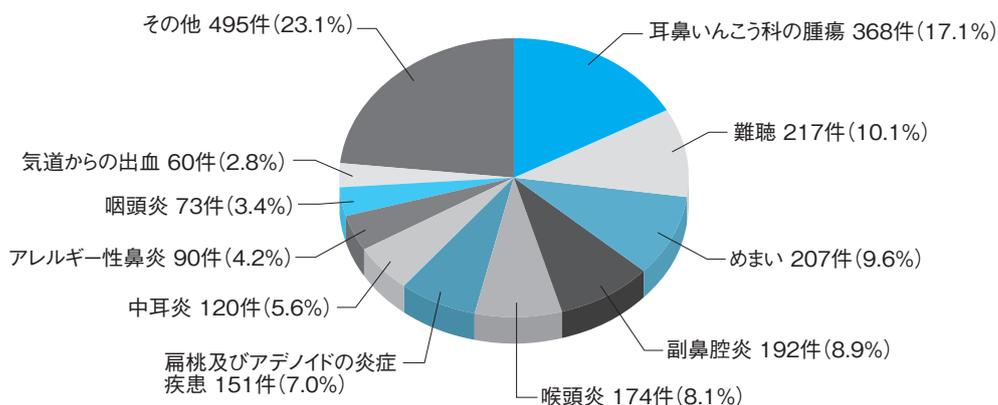
中耳炎、めまい、難聴、顔面神経麻痺に対して投薬治療を行い、改善を認めない場合は当院にて外科的治療を行っている。また、耳鳴り専門外来を設置し、専門的な治療を行っている。

アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、鼻中隔湾曲症に対して、患者の病態や希望にあった治療（手術療法や投薬治療）を行った。慢性扁桃炎や睡眠時無呼吸症候群に対して、口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術を行った。また鼻出血、急性扁桃炎、喉頭蓋炎等の救急疾患については、重症度に合わせて入院治療を行った。咽頭・喉頭・甲状腺・唾液腺等の良性腫瘍に対しては、適応を定めて手術療法を行った。悪性腫瘍に対しては、それぞれの患者の状況に合わせて、根治と機能温存のバランスを取り、手術療法、化学療法、放射線療法の3者を組み合わせて治療を行った。再建を必要とする様な症例も積極的に当院で行った。

(部長 小澤 泰次郎)

2. 新規登録疾患

総数：2,147件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
耳鼻いんこう科の腫瘍	内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物, 甲状腺	83	D440
	口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物, 口唇, 口腔及び咽頭	82	D370
難聴	感音難聴, 詳細不明	119	H905
	老人性難聴	33	H911
めまい	その他の末梢性めまい	179	H813
	メニエール病	23	H810
副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎, 詳細不明	183	J329
喉頭炎	慢性喉頭炎	174	J370
扁桃及びアデノイドの炎症疾患	扁桃肥大	58	J351
	急性扁桃炎, 詳細不明	50	J039
中耳炎	非化膿性中耳炎, 詳細不明	53	H659
	中耳炎, 詳細不明	52	H669
アレルギー性鼻炎	アレルギー性鼻炎, 詳細不明	90	J304
咽頭炎	急性喉頭咽頭炎	56	J060
	急性咽頭炎, 詳細不明	14	J029
気道からの出血	鼻出血	58	R040

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	27,153人	年間外来新患者数	3,623人
年間入院患者数	7,410人	年間入院新患者数	890人

(2) 入院患者の状況

①主な救急疾患（入院加療を要した）

疾患名	件数(件)
急性扁桃炎・扁桃周囲の腫瘍	59
急性喉頭蓋炎・喉頭炎	21
めまい	15
顔面神経麻痺	13
突発性難聴	11
鼻出血	8
計	127

②主な手術療法（手術室使用）

術式	件数(件)
口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術	250
内視鏡下副鼻腔手術	85
甲状腺腫瘍手術	64
鼓膜チューブ留置術	55
リンパ節摘出術	37
気管切開術	33
耳下腺腫瘍手術	25
頸部郭清術	24
喉頭微細手術	15
咽頭悪性腫瘍手術	13
喉頭全摘術	5
顎下腺摘出術	4
計	610

眼科

1. 概要

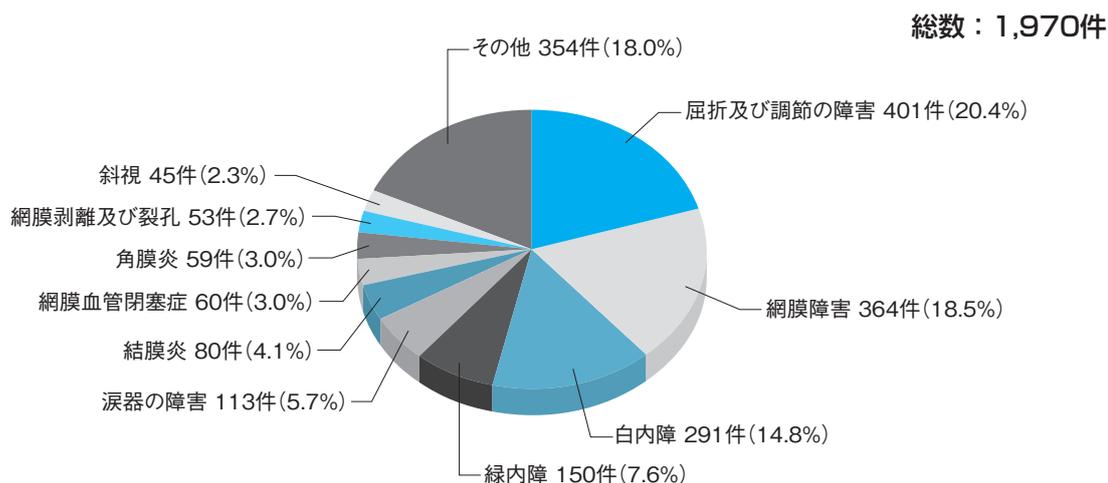
白内障手術においては、+1.5D 加入眼内レンズおよびトーリック眼内レンズ（乱視矯正用眼内レンズ）の使用が増加した。今後、多焦点眼内レンズも使用開始予定である。また、日帰りで外来白内障手術が新たに開始となった。今後、白内障手術については順次、入院手術から外来手術への移行を図る予定である。

緑内障手術については MIGS の適応が拡大し、マイクロフックを用いた線維柱帯切開術の手術件数が増加した。硝子体手術とともに、低侵襲手術化がすすんでいる。

手術室において看護師・臨床工学士と協力してさらなる業務の効率化を検討中である。眼科外来においては、新しいレーザー装置の導入により、従来の網膜光凝固に加え、パターンレーザーが施行可能となった。今後、閾値下レーザーも開始予定である。

（部長 佐川 宏恵）

2. 新規登録疾患



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
屈折及び調節の障害	乱視	386	H522
網膜障害	詳細不明の糖尿病, 眼合併症を伴うもの	169	E143
	黄斑及び後極の変性	116	H353
白内障	乳児, 若年及び初老期白内障	114	H260
	老人性白内障, 詳細不明	61	H259
緑内障	緑内障, 詳細不明	77	H409
	原発開放隅角緑内障	35	H401
涙器の障害	涙腺のその他の障害	96	H041
	涙道の狭窄及び不全	11	H045
結膜炎	結膜炎, 詳細不明	52	H109
	急性アトピー性結膜炎	26	H101
網膜血管閉塞症	その他の網膜血管閉塞症	51	H348
角膜炎	角膜潰瘍	20	H160
	角膜炎, 詳細不明	18	H169
網膜剥離及び裂孔	網膜剥離, 網膜裂孔を伴うもの	26	H330
	網膜裂孔, 剥離を伴わないもの	18	H333
斜視	間欠性斜視	11	H503

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	20,434人	年間外来新患者数	1,615人
年間入院患者数	3,778人	年間入院新患者数	780人

(2) 入院時の疾患内訳

疾患名	人数(人)	疾患名	人数(人)
白内障	523	斜視	5
黄斑前膜	56	網膜下出血	4
緑内障	56	網膜裂孔	3
糖尿病網膜症	40	眼窩蜂窩織炎	2
網膜剥離	37	眼内炎	2
黄斑円孔	12	外傷・眼球破裂	1
増殖硝子体網膜症	11	角膜潰瘍・角膜炎	1
硝子体出血・混濁	8	硝子体黄斑牽引症候群	1
視神経症	6	硝子体脱出	1
角膜穿孔	5	網膜中心動脈閉塞症	1
眼内レンズ脱臼	5	計	780

(3) 手術・検査数

①外来手術数

術式	件数(件)
硝子体注射・テノン嚢下注射	527
網膜光凝固術 (PHC)	248
レーザー後発白内障切開術 (YAG)	103
レーザー虹彩切開術 (LI)	35
涙点プラグ挿入	12
睫毛電気分解	7
レーザー線維柱帯形成術 (LTP/SLT)	6
霰粒腫摘出術	3
計	941

②外来特殊検査件数

検査名	件数(件)
光干渉断層撮影 (OCT)	10,240
動的量的視野検査	823
静的量的視野検査	574
蛍光眼底撮影	409
眼鏡処方	219
計	12,265

③手術センター手術数

術式	件数(件)
白内障手術	682
硝子体茎顕微鏡下離断術	161
流出路再建術	53
翼状片手術	20
縫着レンズ挿入	8
霰粒腫摘出術	7
斜視手術	7
増殖性硝子体網膜症手術	7
硝子体切除術	6
眼窩内腫瘍摘出術	5
結膜肉芽腫摘除術	5
角膜・強膜縫合術	3
眼瞼下垂症手術	3
結膜縫合術	3
硝子体注入・吸引術	2
眼瞼腫瘤切除術	2
前房、虹彩内異物除去術	2
内反症手術	2
濾過胞再建術	2
角膜・強膜異物除去術	1
眼窩内容除去術	1
結膜下異物除去術	1
計	983

皮膚科

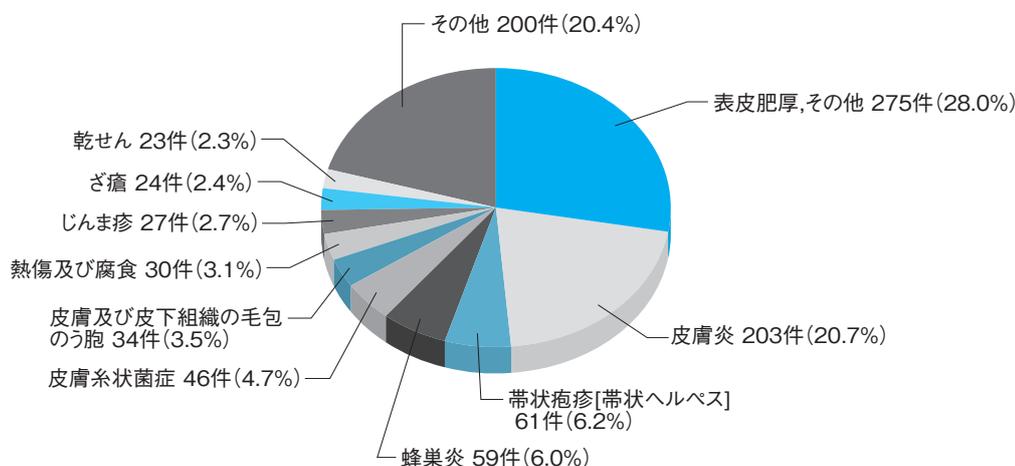
1. 概要

2019年の皮膚科は山田、藤城、花村、山下、大田の5名体制に戻った。外来患者数が徐々に増加してきているが、2019年は2018年とほぼ同数であったように思われた。外来診療時間は相変わらず伸びている印象がある。入院患者数は大きな変化がなかったように思われる。蜂窩織炎や褥瘡感染などの感染症が多かった。また、2019年は悪性腫瘍の中で乳房外パジェット病が突出して多かった。重傷熱傷は2018年と同じく少なかった印象がある。

(部長 山田 元人)

2. 新規登録疾患

総数：982件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
表皮肥厚, その他	皮膚乾燥症	143	L853
	皮膚の慢性潰瘍, 他に分類されないもの	47	L984
皮膚炎	皮膚炎, 詳細不明	92	L309
	アトピー性皮膚炎, 詳細不明	38	L209
帯状疱疹 [帯状ヘルペス]	帯状疱疹, 合併症を伴わないもの	56	B029
蜂巣炎	(四) 肢のその他の部位の蜂巣炎	25	L031
	蜂巣炎, 詳細不明	24	L039
皮膚糸状菌症	爪白せん	19	B351
	足白せん	19	B353
皮膚及び皮下組織の毛包のう胞	表皮のう胞	34	L720
熱傷及び腐食	部位不明の熱傷, 程度不明	24	T300
じんま疹	じんま疹, 詳細不明	22	L509
ざ瘡	尋常性ざ瘡	21	L700
乾せん	尋常性乾せん	21	L400

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	28,321人	年間外来新患者数	3,107人
年間入院患者数	4,791人	年間入院新患者数	302人

(2) 悪性新生物

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	有棘細胞癌	43	5	バジエット病	10
2	基底細胞癌	49	6	その他	17
3	悪性黒色腫	10		計	129

(3) 良性腫瘍、熱傷、膠原病

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	良性腫瘍	1,056	6	全身性エリテマトーデス	16
2	熱傷	110	7	シェーグレン症候群	9
3	血管炎	61	8	混合性結合組織病	3
4	全身性強皮症	18		計	1,332
5	皮膚筋炎	59			

泌尿器科

1. 概要

2019年、東三河地区における当院への一極集中状況に大きな変化はなく、相変わらず忙しい日々を送っている。泌尿器悪性腫瘍に対する低侵襲手術は小切開手術、腹腔鏡手術を中心に相変わらず月単位の手術待機をお願いする状況である。

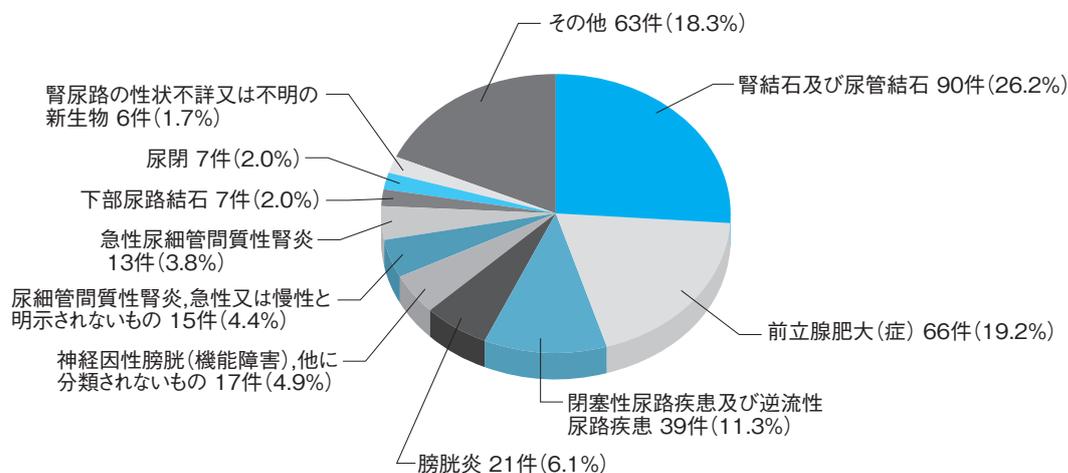
ロボット支援手術は、前立腺癌手術では標準手術となり、腎癌に対する腎部分切除、膀胱癌に対する膀胱全摘術も順調に症例数を伸ばし、当科における日常的な手術の一つとなっている。前立腺癌に対しては、スパーサー注入術も開始となり、前立腺癌治療のもう一つの柱である放射線治療に関してもより効果的な治療が行われるようになった。分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤等の新規薬剤を含むがん薬物療法の症例も増加の一途をたどるなど、泌尿器科悪性腫瘍の分野においてよりよい医療を提供する努力を引き続き続けている。良性疾患に対しては、排尿ケアチームの活動の成果も現れ、病院全体の排尿排泄管理意識の向上が見受けられるようになってきている。結石に対する内視鏡治療など、一般泌尿器科診療を含め、さらなる高みを目指し続けた一年であった。

(副部長 寺島 康浩)

2. 新規登録疾患

(1) 悪性新生物以外

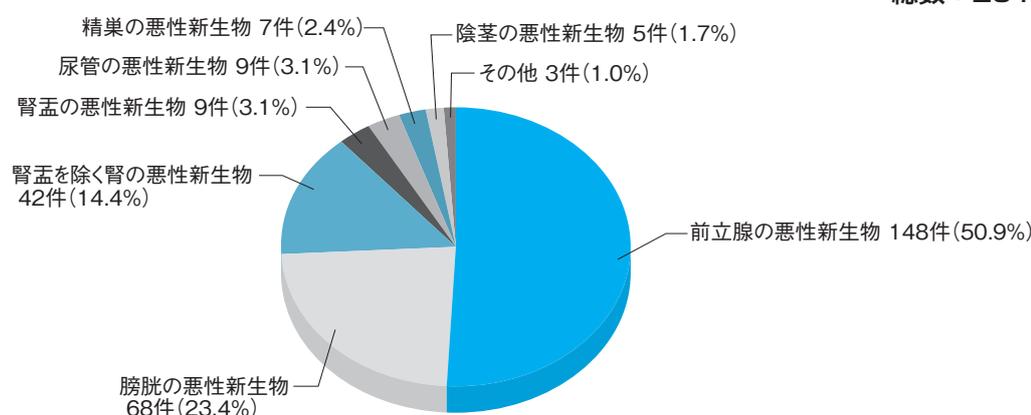
総数：344件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
腎結石及び尿管結石	尿管結石	59	N201
	尿路結石, 詳細不明	14	N209
前立腺肥大(症)	前立腺肥大(症)	66	N40
閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	腎結石性及び尿管結石性閉塞を伴う水腎症	17	N132
	尿管狭窄を伴う水腎症, 他に分類されないもの	12	N131
膀胱炎	急性膀胱炎	11	N300
	その他の膀胱炎	5	N308
神経因性膀胱(機能障害), 他に分類されないもの	神経因性膀胱(機能障害), 詳細不明	16	N319
尿管間質性腎炎, 急性又は慢性と明示されないもの	尿管間質性腎炎, 急性又は慢性と明示されないもの	15	N12
急性尿管間質性腎炎	急性尿管間質性腎炎	13	N10
下部尿路結石	膀胱結石	7	N210
尿閉	尿閉	7	R33
腎尿路の性状不詳又は不明の新生物	腎尿路の性状不詳又は不明の新生物, 腎	5	D410

(2) 悪性新生物

総数：291件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
前立腺の悪性新生物	前立腺の悪性新生物	148	C61
膀胱の悪性新生物	膀胱の悪性新生物	68	C679
腎盂を除く腎の悪性新生物	腎盂を除く腎の悪性新生物	42	C64
腎盂の悪性新生物	腎盂の悪性新生物	9	C65
尿管の悪性新生物	尿管の悪性新生物	9	C66
精巣の悪性新生物	精巣の悪性新生物	7	C629
陰茎の悪性新生物	陰茎の悪性新生物	5	C609

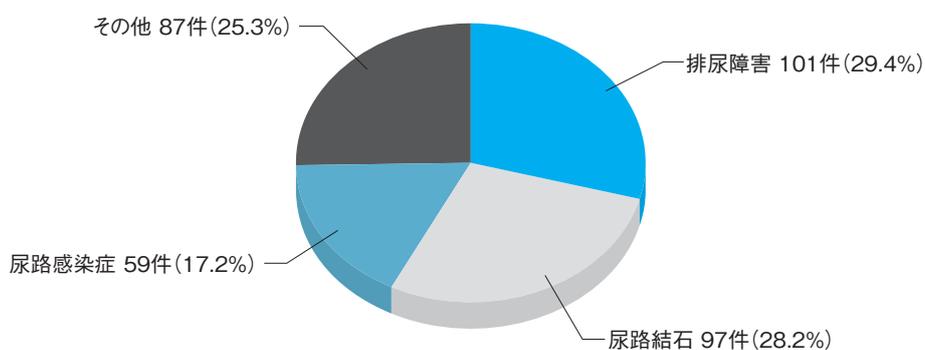
3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	27,106人	年間外来新患者数	1,835人
年間入院患者数	11,838人	年間入院新患者数	1,258人

(2) 悪性新生物以外の疾患別頻度

総件数：344件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
排尿障害	前立腺肥大(症)	66	N40
	神経因性膀胱(機能障害), 詳細不明	16	N319
尿路結石	尿管結石	59	N201
	尿路結石, 詳細不明	14	N209
尿路感染症	尿細管間質性腎炎,急性又は慢性と明示されないもの	15	N12
	急性尿細管間質性腎炎	13	N10

放射線科

1. 概要

2019年1月には石原部長、高田部長、石口医長、島本医員、山田医員の5名であったが、4月に石口医長の異動、馬越医長の赴任があり、2019年12月には石原、高田、馬越、島本、山田の5名で診療している。画像診断は高田、馬越、島本の3名、放射線治療は石原、山田の2名が担当している。

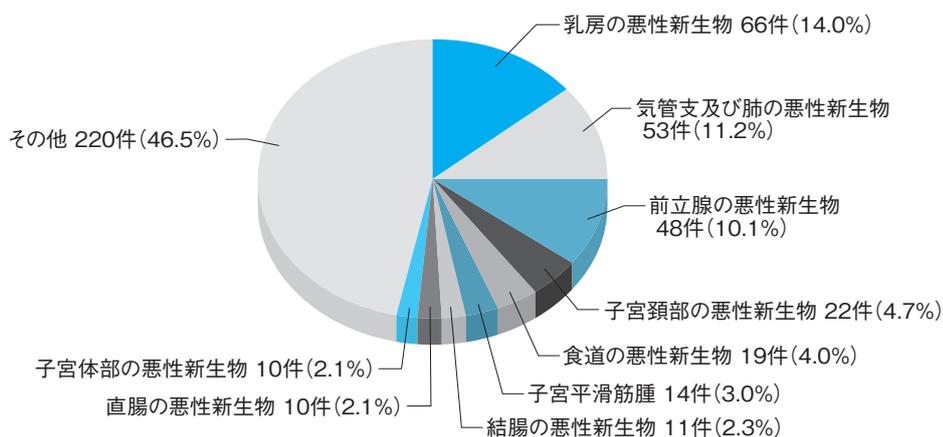
2019年4月からハイブリッド手術室が稼働し、心臓外科・血管外科、循環器内科と共同で腹部大動脈瘤のステントグラフト治療を開始した。

2019年の業務実績は、読影が36,545件（CT 25,464件、MRI 8,843件、アイソトープ 1,018件、PET-CT 1,220件）であった。その他、血管造影・IVR 144件、甲状腺機能亢進症に対するヨード内用療法9件、去勢抵抗性前立腺癌の骨転移に対する塩化ラジウム治療3件、放射線治療の新患493件であった。

（第一部長 石原 俊一）

2. 新規登録疾患

総数：473件



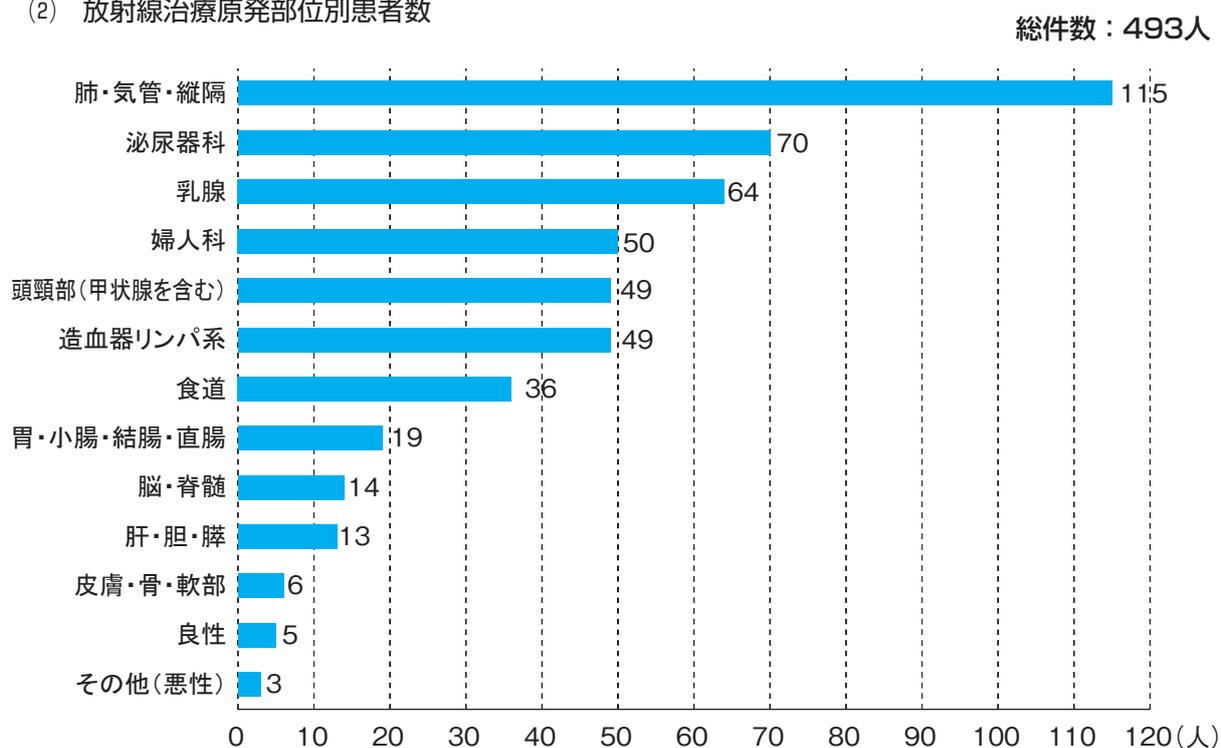
疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房上外側4分の1	24	C504
	乳房の悪性新生物, 乳房上内側4分の1	18	C502
気管支及び肺の悪性新生物	気管支及び肺の悪性新生物, 上葉, 気管支又は肺	22	C341
	気管支及び肺の悪性新生物, 下葉, 気管支又は肺	20	C343
前立腺の悪性新生物	前立腺の悪性新生物	48	C61
子宮頸部の悪性新生物	子宮頸部の悪性新生物, 子宮頸(部), 部位不明	22	C539
食道の悪性新生物	食道の悪性新生物, 胸部食道	12	C151
子宮平滑筋腫	子宮平滑筋腫, 部位不明	14	D259
結腸の悪性新生物	結腸の悪性新生物, 結腸, 部位不明	5	C189
	結腸の悪性新生物, S状結腸	4	C187
直腸の悪性新生物	直腸の悪性新生物	10	C20
子宮体部の悪性新生物	子宮体部の悪性新生物, 子宮体部, 部位不明	9	C549
	子宮体部の悪性新生物, 子宮内膜	1	C541

3. 活動報告

(1) 患者状況

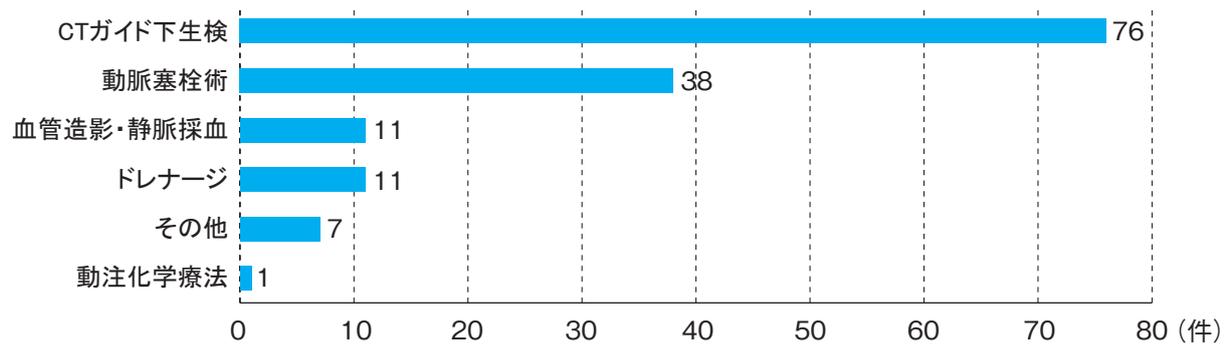
年間外来患者数	16,156人	年間外来新患者数	877人
年間入院患者数	0人	年間入院新患者数	0人

(2) 放射線治療原発部位別患者数



(3) 血管造影・IVR 手技別件数

総件数：144件



こころのケア科

1. 概要

当院こころのケア科の現在の主な業務は、1) 入院中の患者のメンタル面に関連した副科業務 2) 緩和ケアチームの一員として、精神的ケアが必要な患者へのメンタル面でのサポートである。最も多いのがせん妄への対応であるが、他にも不眠・抑うつ・不安などに対しても依頼があれば対応している。自殺企図によって入院となった患者への入院中の診察、退院後の通院先の紹介等の対応も行っている。

また、もともと精神疾患のある方が、身体疾患治療のため当院入院となった場合の診察・処方調整・かかりつけ医への報告などの対応も行っている。緩和ケアチームの業務としては、週1回のカンファレンスと回診、それ以外でも依頼があれば随時対応する。

昨年度までは当科には精神科常勤医がおらず、週1日の非常勤医師勤務によってこれらの業務が維持されてきたが、2019年4月より常勤医師が赴任し、より切れ目のない対応が可能となった。今後、入院患者のメンタルサポート、精神疾患を有する患者の退院後のクリニックへの紹介等、院内院外の各部門部署との連携を深めていく予定である。

(部長 古水 克明)

2. 活動報告

2019年度の副科初診診察は299人であった。院内のほぼすべての診療科より依頼を受けている。

保険診療委員会主催学術講演会 不安不眠に関する研修会

開催日：	2019年9月12日（第1回） 「主な不安症の特徴と薬物療法 ～BZD受容体作動薬の適正使用に向けて～」 講師 可知記念病院医局長 桑原高史
開催日：	2019年10月17日（第2回） 「依存症を防ぐための睡眠薬の使い分け」 講師 こころのケア科部長 古水克明

麻酔科（ペインクリニック）

1. 概要

2019年には産休育休取得者が1名いたが4月より復帰した。また他院から4月に専攻医1名の赴任があったが、8月と9月に医員が1名ずつ他院へ異動したため、麻酔科担当症例は若干の増加にとどまった。

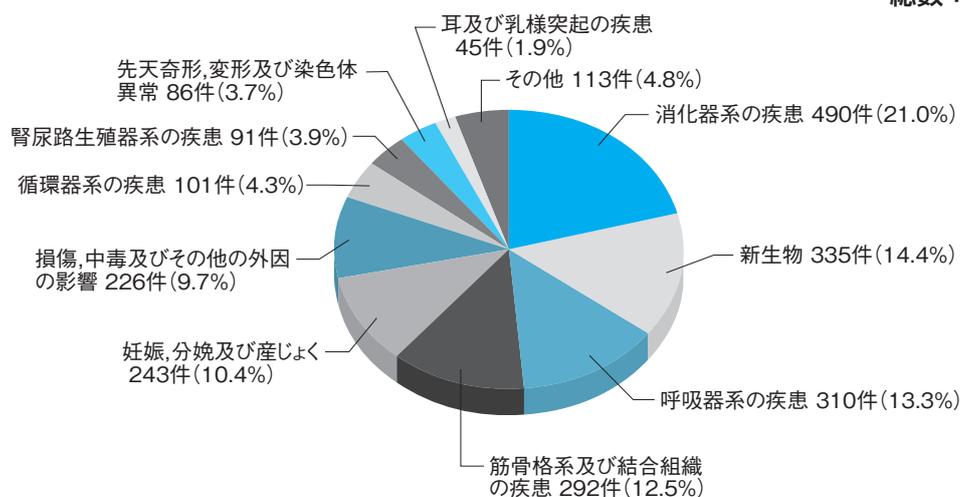
年間の総手術件数は8,291件であり、全身麻酔件数は4,132件であった。麻酔科管理症例は2,970件であり、そのうち麻酔科管理の全身麻酔は2,732件であった。麻酔科管理の緊急症例は469件あった。麻酔科の監視装置のモニタを4台に増やしたため、常時各部屋の状況把握を把握することができるようになった。挿管困難対策機器を更新することで挿管の安全性を高めることができた。また手術室3部屋増設により、1部屋を超緊急手術用の部屋として固定でき、手術室運営が大いに好転した。新しい麻酔関連機器や薬剤を整備でき、全国的にも誇れる麻酔環境が整った。2020年には4月から当院専攻医が1人入局するため、麻酔科担当症例は若干増加すると推測される。

（第一部長 寺本 友三）

2. 新規登録疾患

(1) 悪性新生物以外

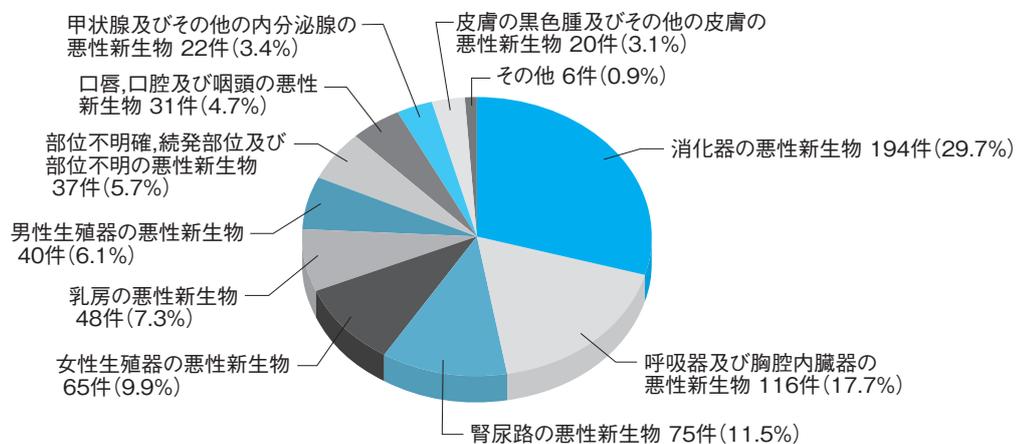
総数：2,332件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
消化器系の疾患	口腔、唾液腺及び顎の疾患	172	K00-K14
	ヘルニア	91	K40-K46
新生物	性状不詳又は不明の新生物	176	D37-D48
	良性新生物	159	D10-D36
呼吸器系の疾患	上気道のその他の疾患	249	J30-J39
	胸膜のその他の疾患	39	J90-J94
筋骨格系及び結合組織の疾患	脊柱障害	140	M40-M54
	関節障害	123	M00-M25
妊娠、分娩及び産じょく	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題	100	O30-O48
	分娩の合併症	66	O60-O75
損傷、中毒及びその他の外因の影響	頭部損傷	48	S00-S09
	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	34	T80-T88
循環器系の疾患	脳血管疾患	43	I60-I69
	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	37	I70-I79
腎尿路生殖器系の疾患	女性生殖器の非炎症性障害	49	N80-N98
	男性生殖器の疾患	13	N40-N51
先天奇形、変形及び染色体異常	唇裂及び口蓋裂	27	Q35-Q37
	生殖器の先天奇形	19	Q50-Q56
耳及び乳様突起の疾患	中耳及び乳様突起の疾患	43	H65-H75

(2) 悪性新生物

総数：654件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
消化器の悪性新生物	直腸の悪性新生物	40	C20
	結腸の悪性新生物, S状結腸	23	C187
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	気管支及び肺の悪性新生物, 上葉, 気管支又は肺	56	C341
	気管支及び肺の悪性新生物, 下葉, 気管支又は肺	46	C343
腎尿路の悪性新生物	腎盂を除く腎の悪性新生物	36	C64
	膀胱の悪性新生物, 膀胱, 部位不明	20	C679
女性生殖器の悪性新生物	子宮頸部の悪性新生物, 子宮頸(部), 部位不明	23	C539
	子宮体部の悪性新生物, 子宮内膜	21	C541
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房上外側4分の1	20	C504
男性生殖器の悪性新生物	前立腺の悪性新生物	40	C61
部位不明確, 続発部位及び部位不明の悪性新生物	肺の続発性悪性新生物	11	C780
口唇, 口腔及び咽頭の悪性新生物	舌のその他及び部位不明の悪性新生物, 舌, 部位不明	7	C029
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物	甲状腺の悪性新生物	22	C73
皮膚の黒色腫及びその他の皮膚の悪性新生物	皮膚のその他の悪性新生物, 皮膚の悪性新生物, 部位不明	9	C449

リハビリテーション科

1. 概要

リハビリテーション科の診療は、リハビリテーションセンターと院内各病棟のベッドサイドで行っている。

外来診療は、市内の病院・医院では行っていない小児の運動・言語発達遅滞及び神経難病が主な対象疾患である。また、当院入院中のリハビリを外来で継続する場合もある。

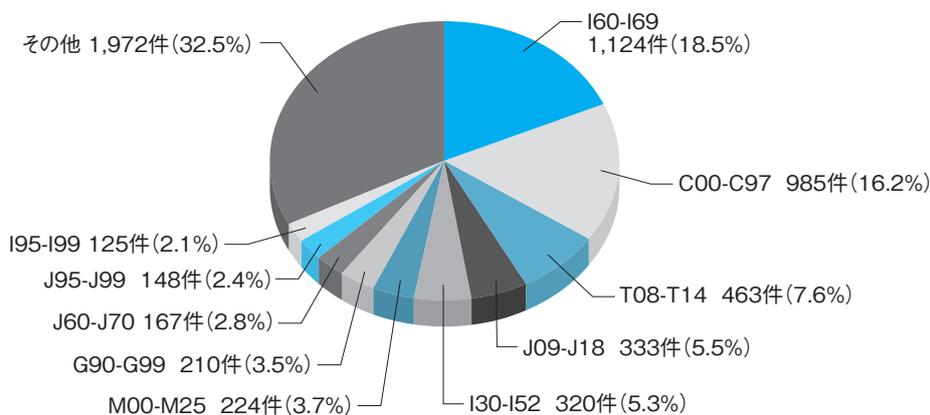
入院診療では、脳卒中、頭部外傷、脳神経・脊髄神経疾患の脳血管リハビリ、骨・関節の外傷や疾患への運動器リハビリ、虚血性心疾患や心不全に対する心大血管リハビリ、肺炎・慢性閉塞性肺疾患等の呼吸器リハビリ、嚥下障害への嚥下リハビリを行っている。また、がん治療の入院患者に行う、がん患者リハビリにも対応している。当院の診療は急性期リハビリが中心であり、地域連携パスを通じて回復期リハビリ病棟を持つ病院に転院できるシステムが整えられている。

2019年からICUにおける早期離床・リハビリテーションへの参加・実施を開始した。

(部長 石川 知志)

2. 新規登録疾患

総数：6,071件



ICD-10 中間分類項目
I60-I69：脳血管疾患
C00-C97：悪性新生物
T08-T14：部位不明の体幹もしくは（四）肢の損傷または部位不明の損傷
J09-J18：インフルエンザ及び肺炎
I30-I52：その他の型の心疾患
M00-M25：関節障害
G90-G99：神経系のその他の障害
J60-J70：外的因子による肺疾患
J95-J99：呼吸器系のその他の疾患
I95-I99：循環器系のその他及び詳細不明の障害

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	6,852人	年間外来新患者数	44人
年間入院患者数	0人	年間入院新患者数	0人

病理診断科

1. 概要

病理診断科は生検や手術検体の病理組織診断、術中迅速診断、細胞診検査、病理解剖を行っている。また病理診断科を選択した研修医の実習・教育および臨床各科から依頼された学術報告への協力、院内カンファレンスへの参加も同時に行っている。これらの業務を常勤病理医1名と非常勤病理医7名で行った。非常勤病理医は浜松医大から3名、名古屋大学から2名、藤田医科大学から1名、愛知医科大学から1名派遣された。

2019年の病理組織検査の依頼件数は12,582件で、そのうち術中迅速診断は537件であった。病理解剖は18件で、定期的にCPCを開催し、臨床各科を交えて、症例の診断・治療、病態・死因についての詳細な検討を行った。CPCは研修医の教育の場としても重要で、研修医が一例以上を担当し、症例の発表・報告を行った。提示症例は貴重例が多く、教育的効果は大きいものがあった。さらに剖検診断結果は日本病理学会が刊行している日本病理剖検輯報に掲載され、広く医学に貢献している。

浜松医科大学と名古屋大学の6年次生の臨床実習を引き受けており、浜松医科大学から3名と名古屋大学から1名を受け入れた。

(部長 前多 松喜)

臨床検査科

1. 概要

2012年8月より臨床検査科が開設され、検体検査管理加算（Ⅰ）・（Ⅳ）算定の許可を受けている。2014年度に日本臨床検査医学会 臨床検査管理医を取得している。急性期医療・高度医療に対応する、精度が高く、かつ信頼性のある臨床検査サービスを、検査を利用する関係者に安全に提供し、診療の質の向上に貢献することを目的としている。

2019年3月15日付で、臨床検査室に特化した、品質と能力に関する国際規格であるISO15189の認定施設となった。この認定の取得により、当院の臨床検査室の検査報告書は国際的に通用することを意味することとなり、国際標準検査管理加算の算定が可能となった。

臨床検査の精度の維持・向上のため、内部精度管理、外部精度管理の充実を行っている。外部精度管理として日本医師会・日本臨床衛生検査技師会・愛知県臨床検査技師会の精度管理調査に参加している。

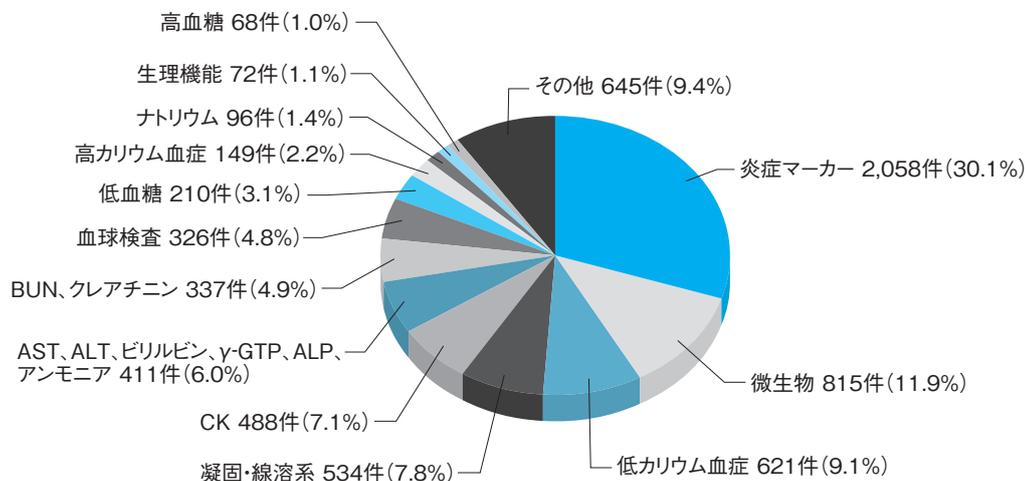
また、検体検査に基づいたパニック値や重大な結果等は直ちに臨床側に報告され、迅速で適切な対応に協力している。

(副部長 出井 里佳)

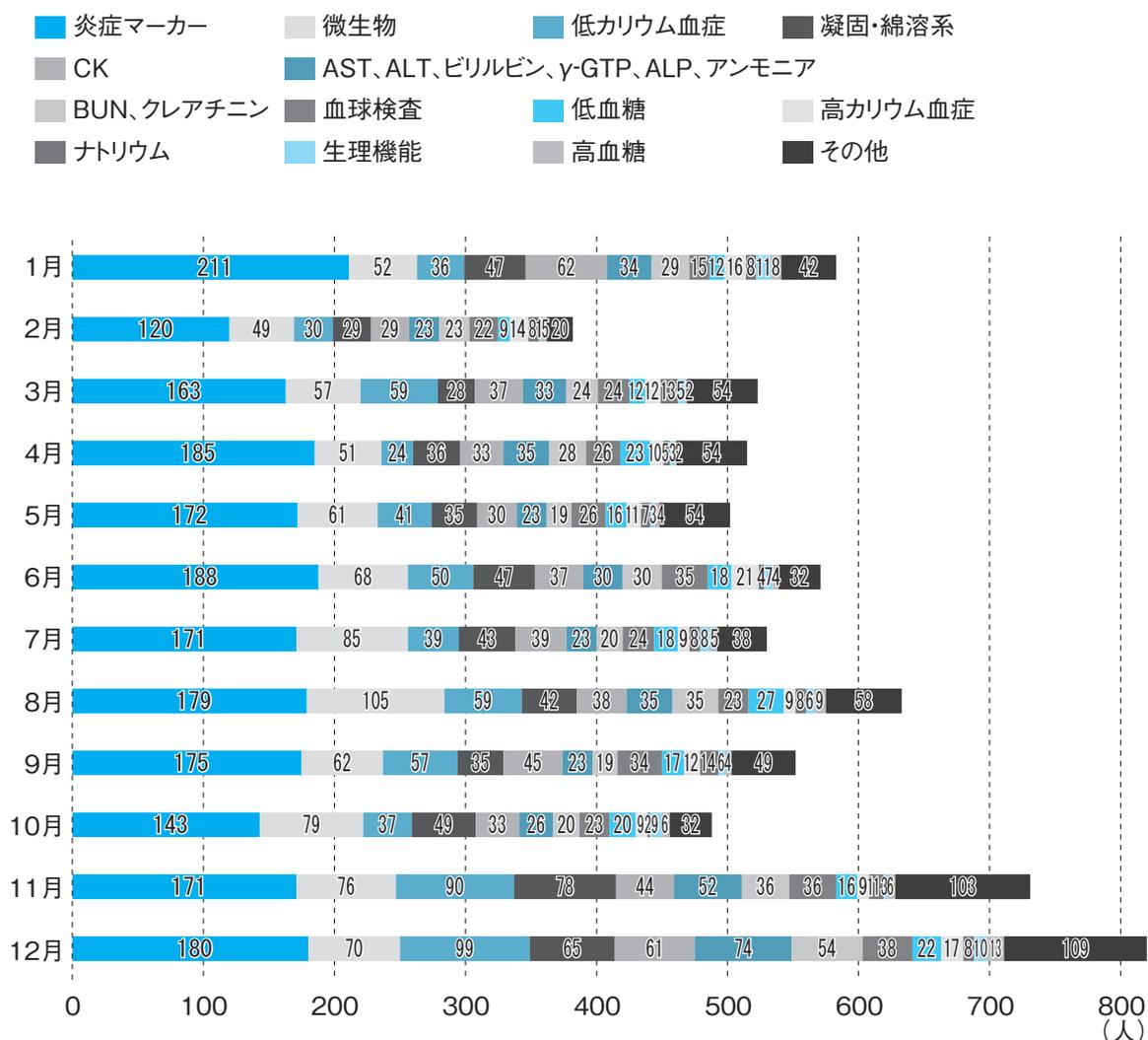
2. 活動報告

(1) パニック値頻度

計：6,830件



(2) 月別パニック値報告



歯科口腔外科

1. 概要

当科は地域医療支援病院の中の口腔外科としての役割を果たすため、密な病診連携の下、豊橋市内外の医科や歯科から多くの紹介をいただきながら、顎口腔領域及び歯科領域の外科治療、ならびに周術期口腔機能管理を行っている。本年も口腔外科的疾患の各分野においてほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。

顎顔面外傷においては、早期対応をモットーに関連各科との医療連携により質の高い医療を提供し、早期治療・早期社会復帰を心掛けている。

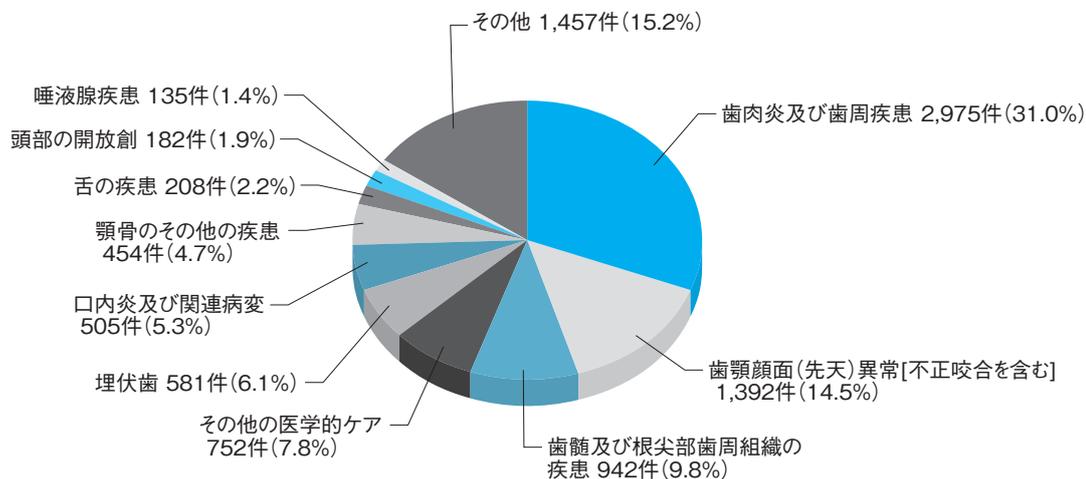
口腔がん治療ではEBMを重視し、根治と機能温存の両面から手術を中心に他科とのカンファレンスのもと集学的治療を提供している。さらに個々の患者の状況に合わせQOLの維持・向上を視野に入れた対応も行っている。

歯科的分野においては、以前にも増して院内患者の周術期等口腔機能管理の依頼件数が増加している。診療報酬改定でその適応範囲がさらに拡大されたこともあり、今後もさらなる増加が見込まれると予想される。2020年4月には入退院支援センター内に歯科衛生士による支援業務が加わり、より必要度の高い患者様へのきめ細かな対応ができるよう体制を整備している。周術期における口腔の合併症予防のためにも密でシームレスな医療連携を基本に、今後も進めていく予定である。

(第一部長 嘉悦 淳男)

2. 新規登録疾患

総数：9,583件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
歯肉炎及び歯周疾患	慢性歯周炎	2961	K053
歯顎顔面（先天）異常 [不正咬合を含む]	歯の位置異常	993	K073
	顎関節障害	369	K076
歯髄及び根尖部歯周組織の疾患	慢性根尖性歯周炎	855	K045
	歯根のう胞	38	K048
その他の医学的ケア	その他の明示された医学的ケア	752	Z518
埋伏歯	埋伏歯	578	K011
口内炎及び関連病変	その他の型の口内炎	468	K121
	口腔粘膜炎（潰瘍性）	21	K123
顎骨のその他の疾患	炎症性顎骨病態	435	K102
	顎骨の発育性障害	17	K100
舌の疾患	舌痛	161	K146
	舌炎	27	K140
頭部の開放創	口唇及び口腔の開放創	145	S015
	頬部及び側頭下顎部の開放創	18	S014
唾液腺疾患	唾液腺粘液のう胞	73	K116
	唾液の分泌障害	45	K117

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	17,523人	年間外来新患者数	4,365人
年間入院患者数	2,636人	年間入院新患者数	529人

(2) 外来・入院症例数

①外来初診

疾患名	件数(件)
口腔管理	1737
口腔歯の形態異常	1343
一般歯科疾患	621
粘膜疾患	393
外傷	286
良性腫瘍	158
炎症感染症	136
嚢胞	127
顎関節疾患	125
神経疾患	105
唾液腺疾患	67
顎顔面の形態異常	59
悪性腫瘍	34
口腔機能疾患	17
唇顎口蓋裂	9
その他	2
計	5,219

②入院

疾患名	件数(件)
口腔歯の形態異常	287
悪性腫瘍	54
嚢胞	45
良性腫瘍	35
唇顎口蓋裂	33
外傷	32
一般歯科疾患	30
顎顔面の形態異常	15
炎症感染症	12
唾液腺疾患	7
粘膜疾患	4
顎関節疾患	1
計	555

健診科

1. 概要

健診科（予防医療センター）は、故瀬川元院長先生が東三河総合健診センターの後継的役割を果たす目的で整備・拡張された事に始まる。受診者は自治体職員や各種企業と個人等よりなる。年齢が進むにつれ、持病を持つ方も多い。

健診診察は、大橋と鳥居が担当。常勤医不在時は浦野副院長、副センター長内藤による迅速なサポートを受けている。午前診察は新しい疾患を見つけ出す事もあるが、主な業務は既往歴、現病歴、治療状況の聴取や受診者自ら選択健診コースの確認と必要時コース変更をすること、内服薬をお薬手帳で確認、安全に検査を受けていただくことである。また、診察中、全身に及ぶ質問を受ける事も多く、わかる範囲で返答、適切な専門医受診を助言している。健診一次検査とその判定は各診療科専門医が担当し、中央臨床検査室と放射線技術局の協力を得ている。二次検査とその判定、必要時の治療と経過観察関連はほぼ全科に及ぶ。

当院健診は、関係各科の忙しい診療の中、その妨げとならぬ範囲で行われ、量より質を重視し、医師を始め実に多くの院内職員の協力により成立している。その中で、有意義な健診を受診者に提供すべく予防医療センターは院内ハブ的役割を担っている。各専門医の実臨床に立脚した高い精度健診成果の一端として、最近10年間に発見されたがんは、胃がん（NET 1例、胃神経鞘腫 1例を含む）78例、大腸がん（NET 2例を含む）52例、前立腺がん 37例、肺がん 12例、食道がん 12例、乳がん 11例、腎臓がん（IgG4腎腫瘍 1例を含む）10例、血液悪性腫瘍（ML3例、CLL1例、CML1例、ATL1例）6例、十二指腸がん（乳頭部がん 1例、NET1例を含む）5例、子宮がん 3例、肝臓がん 3例、膀胱がん 2例、転移性肝臓がん（上腕平滑筋肉腫 1例、GIST 1例）2例、縦隔腫瘍 2例、尿管がん 1例、胆のうがん 1例、胆管がん 1例、膵がん 1例、後腹膜腫瘍 1例、甲状腺がん 1例、副腎腫瘍 1例、転移性肺腫瘍（軟口蓋悪性腫瘍）1例の計 243例である。そのほとんどは早期で発見され、治療予後は良好である。

最後に健診受付と会計業務は受付事務員。健診に関わる団体契約、広報、個人情報データ関連等は医事課と医療情報課による支援を受けている。最終結果判定と説明は医師が実施。当センター看護師が各科との連携・調整やデータ取り寄せ、その確認と健診システム最終登録、受診者の問い合わせや精査・外来予約等の中核的業務を担っている。

（部長 大橋 信治）

経営企画室

1. 概要

経営企画室は2019年4月に組織横断的な経営方針の策定や経営改善策を企画、提案し、迅速に実施するため院長直轄の部署として新設された。副院長の室長をはじめ看護局、診療技術局、薬局からの兼務医療職6名と事務職6名の計12名で構成されている。

〔メンバー〕	室長	副院長兼務	副室長	管理課長兼務
	室長補佐	専従、医療情報課長補佐兼務、看護局師長兼務		
	主査	医事課主査兼務、放射線技師室主査兼務、中央臨床検査室主査兼務、リハビリテーション技術室主査兼務、薬局主査兼務		
	担当	専従、嘱託		

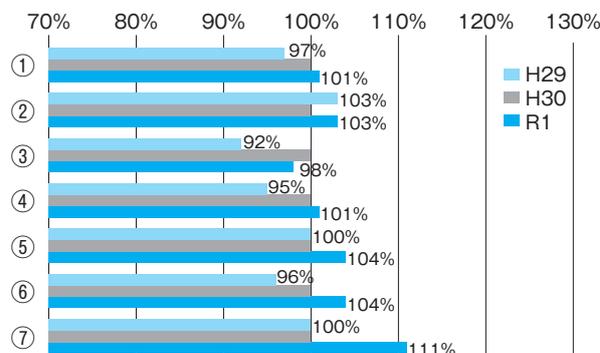
今年度は、DPC 特定病院群（大学病院本院に準ずる機能を有すると評価された病院群）の指定継続のための様々な取り組みを行い、結果として令和2年度からの2年間も指定を受けることが出来た。また、重要経営指標やDPC入院期間Ⅱの可視化に取り組み、院内全体への情報提供を行うとともに、診療科別の分析結果を基に医師等現場スタッフと意見交換を行うことで課題への相互理解や、改善に向けた積極的な協議につながった。次年度以降もこのような活動を継続し、医療・経営の質の向上を図ることにより、当院の持続的発展に寄与していきたい。

(室長 浦野 文博)

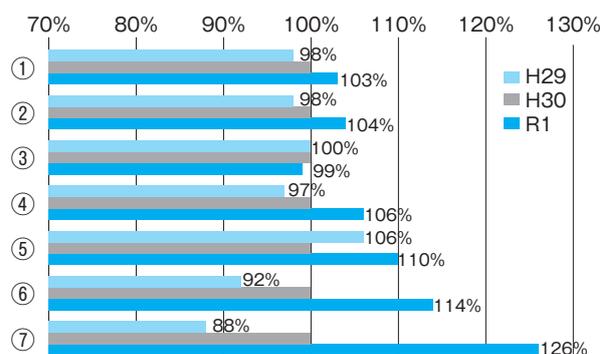
2. 活動報告

(1) 重要経営指標

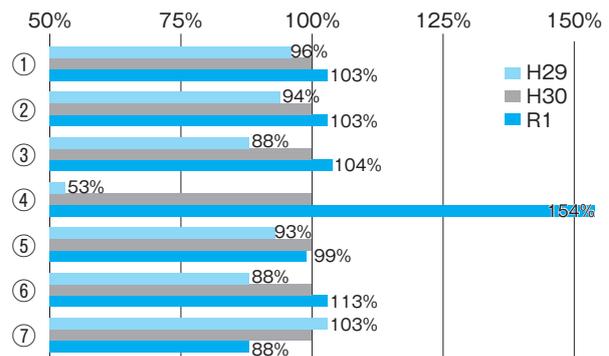
入院指標	H29	H30	R1
①新入院患者数/月(人)	1,664	1,718	1,727
②1日平均入院患者数(人)	711	690	709
③平均在院日数(日)	12.5	11.5	11.7
④DPC期間Ⅱ以内率(%)	63.9	66.9	67.7
⑤パス適用率(%)	42.0	42.0	43.5
⑥入院単価/日(円)	63,085	65,912	68,361
⑦ [⊥] 薬剤(出来高+包括)/日(円)	6,300	6,277	6,950



外来指標	H29	H30	R1
①新患者数/日(人)	178	183	188
②1日平均外来患者数(人)	1,889	1,934	2,002
③ [⊥] 新患者比率(%)	9.4	9.5	9.4
④紹介患者数/日(人)	80.0	82.7	87.6
⑤逆紹介患者数/日(人)	87.7	82.9	91.2
⑥外来単価/日(円)	19,114	20,745	23,739
⑦ [⊥] 投薬・注射/日(円)	9,488	10,737	13,527

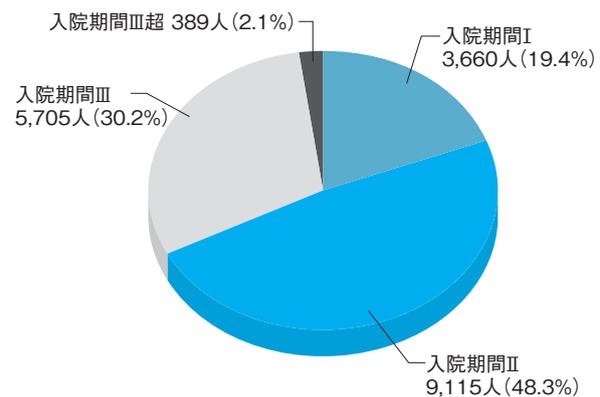


手術・外来治療センター	H29	H30	R1
①手術件数/月(人)	655	679	697
②全麻件数/月(人)	316	335	344
③内視鏡下手術/月(人)	106	120	125
④ダヴィンチ手術/月(人)	7.7	14.4	22.3
⑤外保連手術指数/手術症例	13.9	15.0	14.9
⑥外来治療センター件数(癌)/月(人)	652	745	840
⑦外来治療センター件数(他)/月(人)	157	152	134



(2) DPC入院期間比率

	H29	H30	R1
DPC症例数(人)※出来高除外	18,426	18,865	18,869
DPC平均在院日数(日)	13.2	12.5	12.8
DPC入院期間Ⅱ以内率(%)	63.9	66.9	67.7
入院期間Ⅰ(人)	3,187	3,564	3,660
入院期間Ⅱ(人)	8,582	9,064	9,115
入院期間Ⅲ(人)	6,156	5,847	5,705
入院期間Ⅲ超(人)	501	390	389
出来高症例(人)	403	499	582



(3) 定例会議題

回	日付	内容
1	4月1日	① 経営企画室の新設と業務内容 ② 平成30年度経営戦略委員会取組み事項 ③ 第2次豊橋市民病院改革プラン改訂版の説明
2	4月11日	① DPC特定病院群指定継続のための白内障手術症例の分析結果 ② 放射線技術室、中央臨床検査室、薬局からの提案
3	4月19日	① 行為分析によるクリニカルパスの見直し ② 定義副傷病名の付与率向上
4	4月25日	① 白内障手術の外来移行に向けた回復室の場所確保 ② リハビリテーション技術室からの提案
5	5月17日	① 診療密度の診療報酬改定による影響及び取組み効果の高い対象の特定と効果推計値算出に関する分析結果
6	5月22日	① クリニカルパスの修正着手報告
7	6月7日	① 白内障手術の在院日数短縮と外来移行の経過報告 ② 薬剤購入単価ベンチマークの環境整備とリッキサンによる例示 ③ DPC入院期間Ⅱ以内率と平均在院日数の関係
8	6月21日	① リハビリテーション療法士病棟専従化の成果
9	7月4日	① DPC入院期間Ⅱを基準とした在院日数の分布分析 ② 第2次豊橋市民病院改革プラン取組状況報告書の説明
10	7月18日	① 医薬品廃棄状況 ② 白内障手術外来移行の運用に関する状況報告及び検討事項

回	日付	内容
11	8月1日	① 診療科別DPC入院期間比率分析結果（4～6月分） ② 15歳未満の入院先病棟
12	8月22日	① 化学療法の間診票 ② ポータブル心エコーのオーダー入力状況
13	9月5日	① 10月の消費税及び薬価改定に伴う診療報酬影響額 ② 定義副傷病名リストの作成 ③ 経営戦略委員会取組み事項の効果測定結果（4～6月分）
14	9月19日	① 他病院視察候補の報告 ② 事後オーダーによるコスト漏れ状況報告 ③ 薬剤管理指導料実績減少要因の調査報告
15	10月3日	① 白内障手術の外来移行に関する眼科の状況報告 ② 他病院視察の行程案及び質問作成準備 ③ TAEにおける薬剤及び材料の入力漏れ状況
16	10月31日	① リッキシマブのバイオ後続品切替えによる診療密度への影響分析結果 ② 診療科別DPC入院期間比率分析結果（7～9月分） ③ TAEに関する血管撮影室の運用改善事項報告
17	11月28日	① 他病院視察報告（全体） ② 診療科別重要経営指標作成の提案 ③ 初診料算定ルール変更の影響調査結果報告
18	12月19日	① 循環器内科退院症例における心エコーのオーダー状況詳細 ② 他病院視察報告（部署別） ③ 診療科別重要経営指標に関する具体案
19	12月26日	① 他病院視察報告（部署別）
20	1月9日	① 他病院視察報告（部署別） ② 診療科別重要経営指標に関する具体案 ③ 看護必要度Ⅱ移行の影響分析結果
21	1月30日	① 診療科別重要経営指標（4～12月累計） ② 診療科別DPC入院期間比率分析結果（4～12月累計） ③ 診療科別定義副傷病付与率ベンチマーク案の報告 ④ 膀胱留置カテーテルの処置入力徹底に向けた運用改善報告 ⑤ エコー機器稼働状況報告
22	2月13日	① TAEに関する血管撮影室の運用改善効果検証結果報告 ② 不規則抗体検査に関する算定状況について ③ 脳神経外科個別分析レポート案の報告
23	2月27日	① DPC特定病院群指定継続の報告 ② ICU早期離床リハビリテーション加算の取組み効果報告 ③ 診療技術局勉強会の実施依頼 ④ 脳神経外科個別分析レポート案修正の報告
24	3月12日	① 脳神経外科を対象としたカンファレンスの実施結果報告 ② 定期状況追跡（本年度取組み事項）の報告 ③ 令和2年度診療報酬改定の新施設基準等報告
25	3月26日	① 看護必要度Ⅱ移行シミュレーション結果報告 ② 消化器内科疾患リハビリテーションの実績報告 ③ 医師の働き方改革推進に関する政府資料報告

1. 概要

2018年4月より、再任用の薬剤師1名を主査として迎え、副院長である室長を筆頭に、6名の専従職員と6名の兼務職員の計13名の組織となった。

2018年度診療報酬改定において、「医療安全対策地域連携加算」が新設され、当院も新たな加算に基づき、他施設との連携・相互チェックを実施している。医療安全対策加算1を取得している施設との相互チェックでは、他施設の医療安全管理者が何を考えどのように活動しているのか、新たな情報やそのノウハウを獲得する良い機会となっている。また、医療安全対策加算2を取得している施設訪問では、地域で尽力されている専任の医療安全管理者の活動のサポートとなるような助言に努め、地域医療の安全対策を推進することを目標に協働している。東三河の中核病院としてこの連携を活用し、自施設の医療安全体制の強化及び地域において安全な医療を提供する支援ができるように、今後も継続的に活動していきたい。

(室長 河井 通泰)

(文責 副室長 宇田あゆみ)

2. 活動報告

2019年度は、医療安全重点目標『令(きまり)を守り、和んだ笑顔で安全医療』として、①確認作業を習慣化する ②人の気づきや行動にはお礼を言おう!の2つを掲げた。結果、①については82%、②については92%の部署ができている、だいたいできていると回答した。しかしながら、アクシデント報告の件数減少にはつながらず、今後も継続的な取り組みが必要と考える。

また、当院では、厚生労働省が患者の安全を守るための医療関係者の共同行動として定めた、毎年11月25日を含む1週間の「医療安全推進週間」に合わせて、2017年度から毎年11月を医療安全推進月間と定め、それぞれの部署で医療安全推進活動に取り組んできた。安全な医療を提供するためには、チーム医療による職員の努力とともに、患者の協力が不可欠である。そこで、各部署の兼務補佐と検討を重ね、2019年度は患者・家族に確認行動への参加を呼びかけることとした。11月24日(日)～11月30日(土)の医療安全推進週間に合わせて、院内各所にポスター掲示、院内モニターへの放映を行い、職員及び患者・家族へ医療安全推進週間のアピールを行った。さらに、様々な場面での患者確認への協力依頼を記したポケットティッシュを外来受診患者及び病棟入院患者に配布し、安全確認行動への協力を依頼した。2018年度の患者間違いに関する報告は77件であったが、2019年度は113件であった。しかしアクシデントレベルの報告は増えておらず、発見者報告も多く、目標を意識した行動結果の表れとも考える。今後も職員の意識向上や患者・家族に理解を深めていただけるような活動を継続し、安全な医療の提供につなげていきたい。

(1) 医療安全管理たより（12通配信）

配信日	タイトル
5月13日	令和元年度 医療安全重点目標が決まりました
6月12日	患者確認を正しく行いましょう
6月17日	【電源設備・ライフライン】アンケート 質問にお答えします
6月17日	ドレナージ用胃管チューブの誤った使用
6月17日	栄養剤投与用チューブの選択について
6月28日	筋弛緩薬を使用する際には、筋弛緩状態をモニタリングすること
9月30日	内部監査を実施しました
10月1日	配薬時の注意について
10月9日	医療安全に関する標語募集のお知らせ
11月20日	医療安全推進週間の取り組みについて
12月16日	採血・血管確保時の神経損傷リスクについて
12月19日	医療安全に関する標語 入賞者発表

(2) 院内安全ラウンド（28回実施）

回	日付	訪問病棟
1	5月14日	東西2階
2	5月21日	東西3階
3	6月4日	東西5階
4	6月11日	東西6階
5	6月18日	東西7階
6	7月2日	東西8階
7	7月9日	東西9階
8	7月16日	病棟4階・NMC
9	7月23日	手術センター・血液浄化センター
10	8月6日	外来1階・外来2階
11	8月20日	放射線技術室・救急外来
12	8月27日	中央臨床検査室・薬局
13	9月3日	リハビリセンター・南病棟
14	9月17日	【内部監査】
15	10月1日	東西2階
16	10月8日	東西3階
17	10月15日	東西5階
18	10月29日	東西6階
19	11月5日	東西7階
20	11月19日	東西8階
21	12月3日	東西9階
22	12月10日	病棟4階・NMC
23	12月17日	手術センター・血液浄化センター
24	1月7日	外来1階・外来2階
25	1月14日	放射線技術室・救急外来
26	1月21日	中央臨床検査室・薬局
27	2月4日	リハビリセンター・南病棟
28	2月18日	【フォローアップ監査】

(3) 医療安全地域連携相互チェック

日程	チェック対象病院	チェック実施病院
令和元年 9月10日(火)	弥生病院	豊橋市民病院
令和元年10月7日(月)	豊橋市民病院	豊橋医療センター
令和元年10月28日(月)	豊橋医療センター	豊橋市民病院
令和元年12月23日(月)	長屋病院	豊橋市民病院

診療記録管理室

1. 概要

診療記録管理室は、カルテの点検、診療記録監査、紙カルテの貸出管理、院内がん登録を主な業務としており、カルテの点検では重点的に「入院時記録」「入院診療計画書」「退院時サマリ」の点検を行っている。

診療記録の質の向上を図るため、医師及び研修医の診療記録を対象に当院独自の評価基準項目により2段階で診療記録監査を行っている。年3回実施し、結果は診療記録管理委員会に報告後、監査対象者に通知している。

紙カルテ貸出管理として、平成8年から平成22年4月分までの紙カルテを管理している。電子カルテに移行後9年経過しても、診療情報提供や症例の研究・調査、診断書作成等の理由により、外来カルテは年1,400件程度、入院カルテは年200件程度、貸出の依頼がある。

当院は地域がん診療連携拠点病院に承認されているため、院内がん登録は重要な業務であり、2010年から年2,000件以上の症例を登録している。

今年度は、入院診療計画書における病名の点検や、放射線画像レポートの読影の有無の点検等、診療報酬や医療安全に寄与する記録の点検を精力的に行った。また、今年度より診療記録管理室副室長を設けたことで、さらなる活動を進めていく。

(室長 石原 俊一)

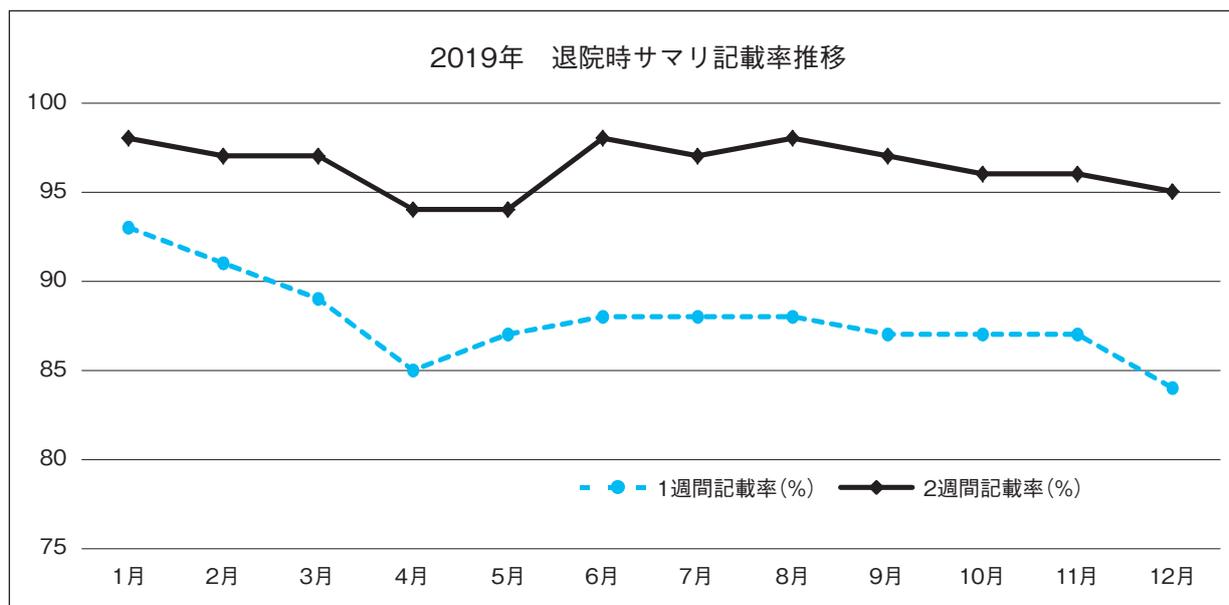
2. 活動報告

(1) 診療記録監査

(件)

		第1回		第2回		第3回	
		医師	研修医	医師	研修医	医師	研修医
平成29年度	一次監査監査対象	23	12	23	12	23	12
	二次監査監査対象	0	0	0	0	0	0
	診療記録管理委員会 <基準点60点以下報告>	0	0	0	0	0	0
平成30年度	一次監査監査対象	46	24	46	24	46	24
	二次監査監査対象	5	3	6	1	0	2
	診療記録管理委員会 <基準点60点以下報告>	5	0	5	0	0	2
令和元年度	一次監査監査対象	46	24	46	24	46	24
	二次監査監査対象	4	1	1	0	0	0
	診療記録管理委員会 <基準点60点以下報告>	2	1	1	0	0	0

(2) 退院時サマリ



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 週間記載率 (%)	93	91	89	85	87	88	88	88	87	87	87	84
2 週間記載率 (%)	98	97	97	94	94	98	97	98	97	96	96	95

臨床研究管理室

1. 概要

2019年度は室長、副室長(2名)、事務(5名)の計8名で活動した。主な業務内容は以下の5つである。

- ① 臨床研究審査書類の作成補助 ② 臨床研究審査委員会の運営
③ 実施中の臨床研究の進捗管理 ④ 重篤な有害事象の審査 ⑤ 申請様式等の管理

中でも、③進捗管理について、それまでの年1回の一斉調査に加え、各研究の終了予定日前に院内研究責任者に通知を行い、終了報告書の提出もしくは期間延長(変更申請)の手続きを求め、適正な研究管理に努めた。

また、臨床研究に関する教育の履修に対応したe-ラーニング教育「ICR臨床研究入門(ICRweb)」について、修了証発行が無料となる施設契約を行った。2年目の2019年度は対象を全講座に拡大し、さらなる教育・研修の充実を図った。

演題登録には院内での研究実施承認を必須とする学会の増加等により、申請件数は増加傾向にあるが、2020年度は臨床研究審査申請システムの導入が予定され、申請者・事務局双方の負担軽減により、より安定した臨床研究業務の遂行、より質の高い臨床研究の実施の支援ができると期待される。

(室長 河井 通泰)

2. 活動報告

(1) 書類受付実績 (件)

	新規申請			変更申請		計特定 臨床研究	計
	介入試験	観察研究	指針外	介入試験	観察研究		
平成29年度	10	52	-	11	9	-	82
平成30年度	5	61	-	8	6	13	93
令和元年度	2	61	5	2	21	13	104

(2) 審査委員会開催実績 (回)

名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度
臨床研究事前審査会	11	12	13
臨床研究審査委員会	5	6	6

(3) 実施中の臨床研究 (件)

登録前	登録中	登録終了	観察終了	計
9	131	49	10	199

令和2年3月31日時点

感染症管理センター

1. 概要

感染症管理センターは、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・事務職員と協同し、患者と医療従事者の双方を医療関連感染から守る活動を行っている院長直属の部門である。抗菌薬適正使用支援チーム（AST）と感染対策チーム（ICT）があり、活動を行っている。近年問題となっている薬剤耐性菌（AMR）対策として、ASTが抗菌薬使用状況を定期的に監視し広域抗菌薬の適正使用化をすすめており、今年度より血液培養陽性患者の早期モニタリングを開始することができた。また、抗菌薬の供給不足により手術時使用抗菌薬の代替え薬について各科との調整を行った。ICTとしては、週1回定期的に院内の巡回ラウンドを行い院内感染事例の把握を行うとともに院内感染防止対策の実施状況の把握・指導を行っている。

がん診療拠点病院として多くの手術を行っている当院は、手術部位感染（SSI）サーベイランスを実施し発生率の改善に取り組むことが課題であったが、JANISのSSI部門への登録を開始した。

COVID-19の流行が1月より始まり感染症指定医療機関として、確定患者の入院や疑似症患者の診察依頼を受けている。

（センター長 小山 典久）

（文責 伊藤 賀代子）

2. 活動報告

(1) 感染症発生動向調査

① 全数報告

(件)

類型	疾患名	2019年度	2018年度	2017年度
二類	結核	36	49	41
三類	コレラ	0	0	1
	腸管出血性大腸菌感染症	3	4	5
	パラチフス	0	0	0
四類	A型肝炎	1	2	1
	つつが虫病	1	0	0
	デング熱	1	0	1
	マラリア	0	0	0
	レジオネラ症	8	9	3
五類	アメーバ赤痢	0	0	0
	ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）	1	3	1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1	1
	急性脳炎	2	0	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	2	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	1
	後天性免疫不全症候群	2	2	3
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6	2	1
	侵襲性髄膜炎感染症	1	0	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	14	11	14
	水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る）	3	3	1
	梅毒	5	2	1
	播種性クリプトコックス症	3	1	2
	破傷風	1	0	1
	百日咳	14	3	0
	風しん	0	2	0
	麻疹	0	3	1

② 小児科定点報告

(件)

	疾患名	2019年度	2018年度	2017年度
週報	RSウイルス	134	89	135
	咽頭結膜熱	1	0	1
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	56	64	74
	感染性胃腸炎	867	903	830
	水痘	3	11	12
	手足口病	43	5	13
	伝染性紅斑	5	2	0
	突発性発疹	5	6	2
	百日咳	-	-	1
	ヘルパンギーナ	13	11	7
	流行性耳下腺炎	1	1	29

※百日咳は2018年1月1日より全数報告

③基幹定点報告

(件)

	疾患名	2019年度	2018年度	2017年度
週報	細菌性髄膜炎	3	1	4
	無菌性髄膜炎	0	1	1
	マイコプラズマ肺炎	2	0	5
	クラミジア肺炎	0	0	1
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	19	6	28
月報	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	147	133	154
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	2

④インフルエンザ定点報告

(件)

	疾患名	2019年度	2018年度	2017年度
週報	インフルエンザ	377	1,083	893

⑤インフルエンザによる入院患者報告

(件)

	疾患名	2019年度	2018年度	2017年度
週報	インフルエンザ（入院患者）	60	139	148

⑥職員の感染曝露

(件)

	2019年度	2018年度	2017年度
針刺し・切創（EPI-Net A）	67	41	60
皮膚・粘膜汚染（EPI-Net B）	16	12	11
院内結核曝露	8	7	5

⑦職員健康外来

(件)

	2019年度	2018年度	2017年度
延べ受診者数	93	49	88

※ 2017年9月末より院内職員の針刺し事故等被災者の受診基準一部変更

シミュレーション研修センター

1. 概要

2016年10月に開設されたシミュレーション研修センターの2019年度年間利用実績は、スキルスラボ315件、セミナー室671件であった。目的別としては医師対象の主なものはICLS9件、CVC8件、JNTEC6件、JPTEC3件があった。看護師やコメディカル対象の主なものとして、病棟看護師補助者研修10件、NCPR8件、BLS & AED9件等が行われた。その他には、妊婦を対象としたマタニティクラス、バースクラスが月2回程度開催された。医師のみならず、看護師やその他コメディカルの勉強する場として、より一層の運営の改善と設備の充実を目指す所存である。

(センター長 富田 崇仁)

卒後臨床研修センター

1. 概要

2019年度は、2018年度より引き続き、様々な取り組みを実施してきた。

- ① 年5日の年次有給休暇の確実な取得が義務化されたため、年休取得予定表を提出させるなど管理を徹底し、取得を促した。
- ② 循環器内科と消化器内科で行われていたエコー実習を、救急医学講座にて4月～5月に行い、研修医全員が初期段階で経験することができるようにした。
- ③ 医師臨床研修マッチングでは医科・歯科ともフルマッチとなったが、医師国家試験で2名不合格者が出てしまったため、初めて3月に2次募集を行い1名採用することができた。
- ④ 医学生への情報発信のため、InstagramとTwitterを始めた。

2020年度は、2021年度に臨床研修評価を受審予定のため、さらに整備をおこなっていく。

- ① 一般外来研修の実施
- ② エポック2の運用
- ③ 令和3年度研修の研修医募集定員に係る小児科と産婦人科のプログラム新設

(センター長 小山 典久)

2. 活動報告

(1) 定期委員会

令和元年7月～令和2年3月	研修管理委員会	*全3回
令和元年5月～令和2年2月	研修委員会	*全3回
令和元年5月～令和2年1月	研修医ミーティング	*全4回

(2) 行事

平成31年4月1日～9日	初期臨床研修医オリエンテーション
平成31年4月5日	初期臨床研修医歓迎会
平成31年4月～令和元年9月	救急医学講座 *全21講座
令和元年5月5日	東海北陸地区臨床研修病院合同説明会 *当院ブース来場者 133名
令和元年6月29日	医学生向け 病院説明会(院内) *参加者 32名
令和元年8月22日～24日	令和2年度採用初期臨床研修医採用試験 *受験者数 医科 32名 歯科 3名 *マッチング数 医科 17名 (フルマッチ) 歯科 1名 (フルマッチ)
令和元年9月20日	指導医ミーティング開催 *参加指導医数 20名
令和元年9月28日	医学生向け 院外病院説明会 *参加者 10名
令和2年1月24日	基本的臨床能力評価試験 *受験者数 1年次 16名、2年次 11名
令和2年2月18日	指導者ミーティング

令和2年3月18日

*参加指導者数 30名

令和2年度採用初期臨床研修医2次募集採用試験

*受験者数 医科 1名

*採用者数 医科 1名

令和2年3月27日

平成30年卒初期臨床研修修了

*進路 院内 医科12名、歯科1名

院外 医科5名

専門医研修センター

1. 概要

2017年度に後期臨床研修センターが発足し、各種申請等の準備を行い、2018年度に新専門医制度の開始に合わせて専門医研修センターに発展した。当院は基本19領域のうち、内科、外科、小児科、産婦人科の4領域で基幹施設として認定を受けており、その他領域では連携施設となっている。様々な病院と連携することで、高次機能病院での稀な症例をはじめ、地域病院での高齢者医療等の症例も学ぶことができ、多彩で偏りのない充実した研修が可能となっている。

当センターは、新専門医制度での専門研修がスムーズに進むように基幹の各4領域と連携を取りながら、指導者による多職種評価や内科ではJ-OSLER（Web評価システム）、外科ではNCD登録、小児科では臨床研修手帳、産婦人科では研修管理システムなどの評価ツールにおいて、専攻医の進捗状況を把握し専門医取得の手助けをしていく。

また、日本専門医機構認定共通講習を開催し、院内開催の医療倫理・感染対策・医療安全の必修講習でも受講証明書を発行可能とした。

(センター長 浦野 文博)

2. 活動報告

(1) 定期委員会

平成31年4月～令和2年3月	内科専門研修プログラム管理委員会	全2回
	外科専門研修プログラム管理委員会	全1回
	小児科専門研修プログラム管理委員会	全2回
	産婦人科専門研修プログラム管理委員会	全1回

(2) 行事

令和元年10月15日～11月15日	令和2年度4月採用専攻医（専門研修プログラム）募集
令和元年11月16日	令和2年度採用専攻医採用試験

基幹4領域	受験者数	採用者数
内科	2	2
外科	3	3
小児科	2	2
産婦人科	0	0

令和元年11月23日

JMECC 開催 受講者数6人

豊橋市民病院が基幹施設となる専門領域

領域	連携施設	募集人数	プログラム
内科	愛知厚生連渥美病院 豊橋医療センター 岡崎市民病院 刈谷豊田総合病院 名古屋大学医学部附属病院 新城市民病院（特別連携）	12人	豊橋市民病院内科専門研修プログラム
外科	JA 静岡厚生連遠州病院 中東遠総合医療センター JA 静岡厚生連静岡厚生病院 静岡済生会総合病院 愛知厚生連安城更生病院 名古屋大学医学部附属病院 愛知医科大学病院	6人	豊橋市民病院外科専門研修プログラム
小児科	名古屋市立大学病院 あいち小児保健医療総合センター 豊川市民病院 蒲郡市民病院 愛知厚生連渥美病院 【関連施設】 豊橋医療センター 新城市民病院 豊橋市こども発達センター 豊橋市保健所保健センター 豊橋市休日夜間急病診療所	5人	豊橋市民病院小児科研修医（専攻医）プログラム
産婦人科	名古屋第二赤十字病院 名古屋記念病院 刈谷豊田総合病院 豊田厚生病院 名古屋掖済会病院 津島市民病院	4人	豊橋市民病院産婦人科研修プログラム

救急外来センター

1. 概要

当院の救命救急センターは、1次から3次までの東三河のあらゆる救急患者に対応している。救命救急センターは、主に救急外来センターと重症例が入院する救急入院センター・集中治療センターに分かれ、24時間体制をとっている。病院からはドクターカーを出動させ、内因性の心肺停止や、高エネルギー外傷に対して病院前から積極的治療を展開している。またヘリポートを併設しているため、東三河全域より、ドクターヘリまたは防災ヘリにて重症救急患者を受け入れているのが特徴である。

救急外来センターでは、医学生、研修医、地域の救急救命士等に対して毎朝カンファレンスを行い、また月例のICLSコース（突然の心停止に対して直ちに行う処置）を開催しており、院内医療スタッフ、地域救急隊ともに、質の向上を目指している。

（センター長 平松 和洋）

2. 活動報告

(1) 年齢区分別救急外来受診患者数

診療科	15歳未満		15歳以上65歳未満		65歳以上		計(人)
	患者数(人)	構成比率(%)	患者数(人)	構成比率(%)	患者数(人)	構成比率(%)	
総合内科	10	0.6	1,195	66.9	581	32.5	1,786
呼吸器内科	2	0.1	558	36.5	969	63.4	1,529
消化器内科	11	0.4	1,513	49.4	1,541	50.3	3,065
循環器内科	3	0.2	406	29.5	965	70.2	1,374
腎臓内科	0	0.0	76	30.5	173	69.5	249
糖尿病・内分泌内科	0	0.0	97	40.2	144	59.8	241
神経内科	2	0.1	682	39.8	1,029	60.1	1,713
血液・腫瘍内科	0	0.0	80	25.6	232	74.4	312
一般外科	72	6.6	497	45.3	528	48.1	1,097
小児外科	12	92.3	1	7.7	0	0.0	13
肛門外科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
呼吸器外科	8	3.7	116	54.2	90	42.1	214
心臓外科・血管外科	0	0.0	18	31.6	39	68.4	57
移植外科	0	0.0	12	75.0	4	25.0	16
整形外科	413	13.7	1,557	51.6	1,046	34.7	3,016
リウマチ科	0	0.0	3	25.0	9	75.0	12
形成外科	1	25.0	3	75.0	0	0.0	4
脳神経外科	580	32.7	525	29.6	671	37.8	1,776
小児科	4,047	98.1	80	1.9	0	0.0	4,127
産婦人科	14	1.3	983	93.2	58	5.5	1,055
耳鼻いんこう科	264	15.7	922	54.8	497	29.5	1,683
眼科	66	16.1	229	55.9	115	28.0	410
皮膚科	257	17.4	831	56.3	389	26.3	1,477
泌尿器科	31	2.5	586	46.8	636	50.8	1,253
歯科口腔外科	90	29.1	147	47.6	72	23.3	309
こころのケア科	2	2.0	85	86.7	11	11.2	98
アレルギー内科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
計	5,885	21.9	11,202	41.7	9,799	36.4	26,886

救急入院センター

1. 概要

救急入院センターは2013年度より設置され、センター長 富田 崇仁（循環器内科兼任）、副センター長 中島 基晶（麻酔科兼任）、青葉 太郎（一般外科兼任）で運営し、現在に至っている。当センターはICUに隣接し、ICU 適応以外の夜間・休日の救急入院患者の受け皿として機能している。基本的に各科主治医が患者の診療を行い、センターメンバーは主に本センターの管理・運営を主体として活動している。実働病床は2013年以来、継続して12床で運営してきている。2019年4月～2020年3月までの各月の推移は以下の表のごとくである。病床利用率は昨年度より少し減少し、51%であった。今年度も引き続き入院数増加に努めている。特定救命救急病床加算算定件数においても、2018年度には1,267件であったのに対し、2019年度は1,206件と若干減少した。

例年通り本センターの当直体制はセンターのメンバーだけでなく、各科医師にも委託して行い、夜間入院患者の救急処置に当たってきたが、2019年度は特に大きな問題なく経過した。

（センター長 富田 崇仁）

2. 活動報告

(1) 年齢別受診患者数

診療科 区分	内科		外科		心臓血管・ 呼吸器外科		脳神経外科		その他		計	
	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)
80歳以上	406	27.8	187	26.1	65	14.6	198	18.8	60	10.3	916	21.5
70～79歳	444	30.4	275	38.4	176	39.6	285	27.1	99	17.0	1,279	30.1
60～69歳	195	18.4	100	14.0	116	26.1	260	24.7	107	18.4	778	18.3
50～59歳	180	12.3	69	9.6	51	11.5	143	13.6	75	12.9	518	12.2
40～49歳	107	7.3	41	5.7	6	1.3	95	9.0	40	6.9	289	6.8
30～39歳	59	4.0	26	3.6	23	5.2	36	3.4	35	6.0	179	4.2
20～29歳	51	3.5	12	1.7	8	1.8	17	1.6	68	11.7	156	3.7
10～19歳	19	1.3	6	0.8	0	0.0	13	1.2	14	2.4	52	1.2
0～9歳	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	0.6	83	14.3	89	2.1
計	1,461	105	716	100	445	100	1,053	100	581	100	4,256	100

(2) 病床利用率

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
営業日数 A	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
病床数 B	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
日数×病床数 C(A×B)	360	372	360	372	372	360	372	360	372	372	348	372	4,392

救急ベッド (12床)

	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日あたり
2017年度	在室人数 D	272	257	219	266	244	242	220	232	242	271	214	237	2,916	8.0
	利用率 D/C	75.6%	69.1%	60.8%	71.5%	65.6%	67.2%	59.1%	64.4%	65.1%	72.8%	63.7%	63.7%	66.6%	-
	特定入院料算定件数 E	112	100	75	109	107	98	93	78	81	89	71	80	1,093	3.0
	特定入院料算定率 E/D	41.2%	38.9%	34.2%	41.0%	43.9%	40.5%	42.3%	33.6%	33.5%	32.8%	33.2%	33.8%	37.5%	-
2018年度	在室人数 D	150	152	176	214	183	181	235	196	227	248	192	226	2,380	6.5
	利用率 D/C	41.7%	40.9%	48.9%	57.5%	49.2%	50.3%	63.2%	54.4%	61.0%	66.7%	57.1%	60.8%	54.3%	-
	特定入院料算定件数 E	68	82	98	127	103	98	116	100	121	143	103	108	1,267	3.5
	特定入院料算定率 E/D	45.3%	53.9%	55.7%	59.3%	56.3%	54.1%	49.4%	51.0%	53.3%	57.7%	53.6%	47.8%	53.2%	-
2019年度	在室人数 D	175	196	180	202	220	209	167	214	200	250	190	155	2,358	6.4
	利用率 D/C	48.6%	52.7%	50.0%	54.3%	59.1%	58.1%	44.9%	59.4%	53.8%	67.2%	54.6%	41.7%	53.7%	-
	特定入院料算定件数 E	89	113	85	97	127	83	63	82	117	137	101	112	1,206	3.3
	特定入院料算定率 E/D	50.9%	57.7%	47.2%	48.0%	57.7%	39.7%	37.7%	38.3%	58.5%	54.8%	53.2%	72.3%	51.1%	-

集中治療センター

1. 概要

集中治療室（ICU）に入室される患者さんは当然ながら重症の方が多い。安全な早期回復を目指すことは我々の使命である。早期回復が退院後の生活にも影響を及ぼすことが、最近明らかにされている。可能な限り早期にリハビリテーションを行うことは、早期回復の一助になることは以前より指摘されている。

当院では、その実現に向けて4年前より準備を進め、今年度より毎朝の多職種カンファレンスと早期リハビリテーション介入を開始した。統計的には明らかにできていないが、ICU入室期間や人工呼吸器管理期間の短縮が達成できている印象である。また患者さんの情報を多くのスタッフがより確実に共有できるようになり、この点でも良い方向に進むことができていると確信している。今後もより研鑽をつみ確実な医療を提供できるよう努めていきたい。

（センター長 中山 雅人）

2. 活動報告

(1) 入院患者の主病名分類

大 分 類	件数(件)
感染症および寄生虫症（A00-B99）	68
新生物（C00-D48）	459
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構障害（D50-D89）	11
内分泌、栄養および代謝疾患（E00-E90）	44
精神および行動の障害（F00-F99）	0
神経系の疾患（G00-G99）	70
眼および付属器の疾患（H00-H59）	1
耳および付属器の疾患（H60-H95）	0
循環器系の疾患（I00-I99）	400
呼吸器系の疾患（J00-J99）	153
消化器系の疾患（K00-K93）	127
皮膚および皮下組織の疾患（L00-L99）	14
筋骨格系および結合組織の疾患（M00-M99）	45
腎尿路生殖器系の疾患（N00-N99）	39
妊娠、分娩および産褥（O00-O99）	3
周産期に発生した病態（P00-P96）	4
先天奇形、変形および染色体異常（Q00-Q99）	16
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの（R00-R99）	31
損傷、中毒およびその他の外因の影響（S00-T98）	130
傷病および死亡の原因（V01-Y98）	0
健康状態に影響をおよぼす要因および保険サービスの利用（Z00-Z99）	0
計	1,615

周産期母子医療センター（母体・胎児部門）

1. 概要

東三河唯一の総合周産期母子医療センターとして新生児部門と妊娠中の母体・児の診断・管理・治療を行っている。近年の出生数の減少は当地域でも顕著であり当院の分娩数も減少傾向にあるが、多胎妊娠、ハイリスク妊娠・分娩、母体搬送数は減少していない。結果として長期管理を要するハイリスク妊娠やハイリスク分娩の割合は増加している。

また昨今問題となっている精神疾患合併妊婦についてもこころのケア科医師が着任されたことにより入院患者の併診が可能となった。助産師、ソーシャルワーカー、地域保健師と連携し、妊娠中より分娩後の児の成育まで切れ目ない支援を行っている。高年妊娠等の社会的ハイリスク妊婦では、親世代の高齢化による家族の問題など、様々な背景で産後の支援が受けられない褥婦を対象として開始された産後ケア事業も助産師主導で症例を重ねている。また、ハイリスク分娩のため児が新生児医療センターに入院となり母児同時に退院できない症例も多いため、育児不安の強い症例にもこのような制度を利用し母児の支援を行っている。

超緊急帝王切開は麻酔科・小児科医師、救急外来・手術室・産科病棟・新生児病棟スタッフなど関連部署の協力により迅速に対応できており、夜間・休日を問わず帝王切開決定から児娩出まで30分以内の目標を全例達成した。母体搬送は全例応需を原則としている。

これらの高度な要求に応えかつ高度な周産期医療体制を持続するため、当直2名体制を維持しつつ当直翌日の勤務緩和を行うなどスタッフ全員で協力している。

（センター長 岡田 真由美）

2. 活動報告

(1) 主な症例数

	令和元年度
超緊急帝王切開	11件
うち30分以内児娩出	11件
うち他施設からの搬送	5件
母体死亡	0件
母体搬送受け入れ	239件
母体搬送応需不可	3件
母体搬送応需率	98.8%

周産期母子医療センター（新生児部門）

1. 概要

当院新生児医療センターは、NICU12床を擁し、東三河唯一の総合周産期母子医療センター（新生児部門）に指定され、東三河新生児医療の中心的役割を担っている。重症な児を遠方に搬送することは児の予後に悪影響を及ぼすことから、入院依頼を受けた児は断らないことをポリシーとし、最後の砦としての役割を果たしている。

当院は、地域中核災害拠点病院に指定されており、前センター長である小山典久が周産期リエゾンとして広域災害訓練に参加するなど、災害対策にも取り組んでいる。また、地域の新生児医療のレベルアップを図ることも重要な役割と考え、地域で周産期医療に携わる医師、助産師、救急隊員等を対象に、新生児蘇生法講習会を開催している。特に小児科（新生児）第二部長の杉浦崇浩は、日本周産期・新生児医学会の新生児蘇生法普及事業ワーキンググループにおいて中心的な役割を果たし、国際蘇生連絡委員会（ILCOR）に出席して議論に加わるなど、国内外で活躍している。

（センター長 村松 幹司）

総合生殖医療センター

1. 概要

当院で体外受精などの生殖補助医療（ART）がスタートしたのは1996年6月であり、2019年は22年目を迎えた。2007年12月タイムラプスインキュベーター（TLI）の世界初全例導入後も様々な最新医療機器と共に High Quality ART に取り組んできた。2018年には胚画像情報を中心に74項目の特性を人工知能（AI）的に分析して良好胚選択を行う最新型 TLI を導入、2019年には2台目も配備が完了して AI-ART に完全移行できた。

その一方で、地域の患者さんのみを治療対象、夫婦単位での初診と ART 説明会参加を徹底、単胚移植、出産・育児の開始まで一貫して管理、そのための病的状態の是正など理想を目指した取り組みを2019年も実践してきた。“先進的で唯一無二の生殖医療を東三河に”を合言葉に、健全な家族形成を地域での医療で完結するという生殖周産期医療の理想を旗印として、生まれてくる子どものことを第一に考えた基本軸のしっかりした医療を実践すべく、難しいケースにも的確に対応できるよう日々研鑽を重ねている。

診療に関連した情報等については、「産婦人科（生殖医療）」を参照いただきたい。

（センター長 安藤 寿夫）

2. 受賞

第19回日本生殖工学会優秀発表賞

ヒト射出精液培養検査：タイムラプス胚培養での ART 反復不成功例で疑う細菌の関与

受賞者：安藤 寿夫

リハビリテーションセンター

1. 概要

リハビリテーションセンターは診療部門、理学療法部門、作業療法部門、言語聴覚療法部門で構成されており、脳血管疾患リハビリ、運動器リハビリ、呼吸器リハビリ、心大血管疾患リハビリ、がん患者リハビリに対応している。診療部門では、診察、リハビリ処方を行う。理学療法部門では、日常生活における基本的動作能力回復目的の運動療法及び呼吸器・循環器疾患や術後の機能回復を目指した運動療法を行う。また筋電図、筋力測定、心肺運動負荷試験等の身体機能を評価する。作業療法部門では、生活における動作の獲得、家事動作や職業への復帰目的の訓練・援助を行う。上肢の機能評価および高次脳機能障害の評価、訓練にも対応する。言語聴覚療法部門では、脳血管疾患や脳の外傷、あるいは発声器官の障害により生じた失語症や構音障害の患者、言語発達の遅れや口唇口蓋裂の小児に対する言語訓練を行う。また、摂食・嚥下障害の機能回復目的の訓練・指導をしている。

(センター長 石川 知志)

2. 活動報告

(1) 利用状況

区 分	令和元年度	平成30年度	平成29年度
延患者数(人)	110,992	107,073	106,823
1日平均(人)	462.5	438.8	437.8
外来開院日数	240日	244日	244日

※病院事業収支及び活動状況（報告）

血液浄化センター

1. 概要

当センターの診療内容は、一般的な透析業務（末期腎不全の透析導入、入院患者の維持透析、急性腎不全の血液浄化）のみではない。血漿交換・免疫吸着等も病態に応じて行っている。最近では、腎不全以外の膠原病・HUS/TTP・ギランバレー症候群・炎症性腸疾患等で、院内の多くの科から血液浄化の依頼が増えている。

当然、腎臓内科医だけでは業務を遂行できず、移植外科からも多大な支援を受けている。また、臨床工学技士や看護師（血液浄化センターのみならず、外来やICUをはじめとする病棟も）等のコメディカルの協力なくしては、当センターの運営が成り立たない事は言うまでもない。

入院透析患者は外来維持透析患者に比し、膨大な医療資源を費やすことから、現状では受け入れに限界があることは認めざるを得ないが、基幹病院としてその責務を果たすべく、今後もスタッフ一同最善を尽くす所存である。

（センター長 山川 大志）

予防医療センター

1. 概要

予防医療センターでは、おもに、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、眼科、口腔外科など各科専門医のもと、一般的な人間ドック（二日ドック、日帰りドック）を精度高くおこない、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病やがんなどの悪性腫瘍早期発見・早期介入に努めている。脳ドック、女性ドック（乳がん、子宮がん）、肺がん検診は、それぞれ脳神経外科、外科、産婦人科、呼吸器内科・放射線科の専門医と連携しておこなっている。さらに、PET-CT 検診が放射線科専門医の協力を得て開始され、がん早期発見環境がより整備され、乳がんが発見された。

また、就職、進学、海外留学・海外出張、免許取得、施設入所時などの健康診断、被爆者健診、企業の定期健康診断、有機溶剤等健康診断、当院職員の院内健診などさまざまな健康診断を各科と連携しながらおこなっている。

さらに、予防医療として、インフルエンザワクチン、B型肝炎ワクチン、破傷風ワクチンをはじめとする各種ワクチンの接種を実施している。

一方、当院の患者をはじめとして、広く一般の方々が、がんなどの疾患に対する知識を深め、健康増進していく一助となることを目的に、年2回、「健康教室」を開催している。

（センター長 大橋 信治）

2. 活動報告

(1) コース別受診者数

コース名	受診者数（人）
二日ドック	84
日帰り人間ドック	2,562
脳ドック	326
肺がん検診	15
胃がん検診	27
女性の健康ドック	36
PET-CT検診	23
個人健康診断	547
予防接種	345
全国健康保険協会生活習慣病予防健診 （旧 政府管掌生活習慣病予防健診）	1,662
原爆被爆者健診	47
企業団体健診（注1）	835

注1：企業団体契約、その他を含む。

(2) 受診対象者の内訳

①二日ドック

検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼底	84	7	1	0
胸部 X 線	82	2	1	1
胃部 X 線	14	4	3	0
胃カメラ	70	8	8	5
腹部エコー	84	8	5	0
安静時心電図	84	4	2	0
負荷心電図	60	4	3	0
便潜血	82	5	3	1

②日帰りドック

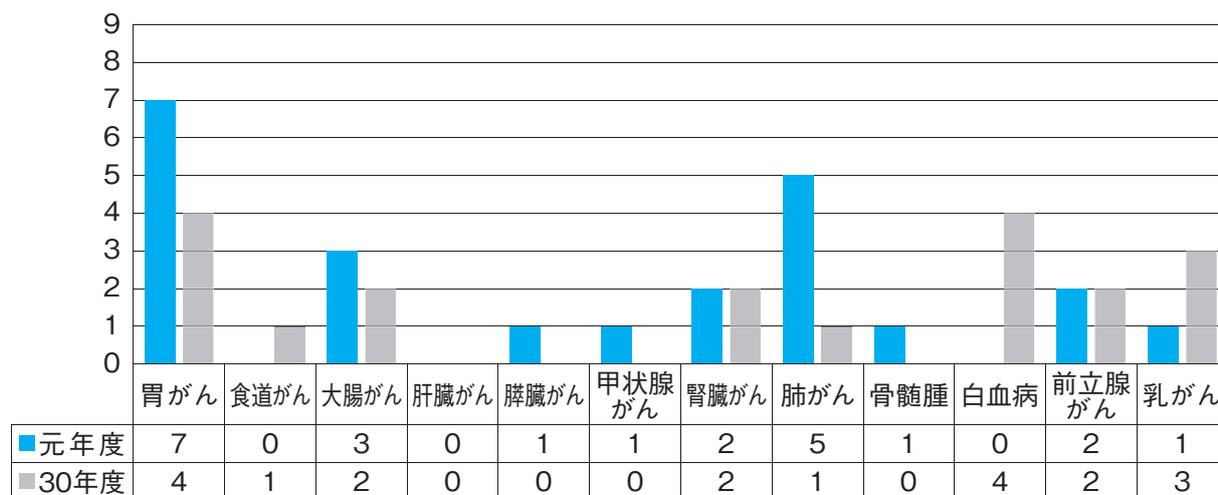
検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼底	2,559	139	56	8
胸部 X 線	2,557	83	63	2
胃部 X 線	1,490	174	116	30
胃カメラ	970	49	41	21
腹部エコー	2,384	109	72	2
安静時心電図	2,562	82	46	3
便潜血	2,520	130	81	29

③生活習慣病予防健診

検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼底	86	3	0	0
胸部 X 線	1,596	55	36	3
胃部 X 線	1,258	168	79	15
胃カメラ	237	17	7	5
腹部エコー	78	4	1	0
安静時心電図	1,606	56	19	0
便潜血	1,571	76	23	11

(3) 悪性新生物発見数

(人)



(4) メタボリック判定実施者

(人)

区 分	令和元年度	平成30年度
①基準該当	833	873
②予備軍該当	666	692
③非該当	4,299	4,280

輸血・細胞治療センター

1. 概要

輸血・細胞治療センターでは、2019年10月に自動輸血検査装置が更新された。血液型検査・不規則抗体スクリーニングに加え、交差適合試験および直接クームス試験も実施可能となり、検査の効率化や検査結果の精度向上につながった。また、装置を2台導入することでトラブル時のバックアップ体制の充実も図った。

2020年は、迅速フィブリノゲン測定機器の導入を行う。フィブリノゲン値はクリオプレシピテート投与のタイミング決定には非常に重要であり、今回の機器導入で報告時間が短縮されることにより、クリオプレシピテートの適正使用につながると考える。

今後も院内の輸血療法が安全かつ適正に行われるよう管理していく。

(センター長 倉橋 信悟)

2. 活動報告

(1) 定期委員会

輸血療法委員会開催 (2か月毎予定) * 6回実施

(2) 輸血療法院内監査

輸血療法院内監査実施 * 2回実施

臨時 輸血療法院内監査実施 * 1回実施

(3) センター業務実績

①輸血関連検査件数

検査項目	総件数(件)	前年比
血液型	21,607	1.09
不規則抗体スクリーニング	15,418	1.06
交差適合試験	6,079	1.17

②血液製剤使用状況

製剤種	総単位数(単位)	前年比
赤血球液 (RBC)	12,151	1.17
新鮮凍結血漿 (FFP)	3,924	0.97
濃厚血小板 (PC)	21,385	1.25

③アルブミン (ALB) 製剤使用状況

製剤種	総本数(本数)	前年比
ALB 25% 50mL	1,814	1.60
ALB 5% 250mL	1,377	1.80

* ALB 使用単位数 : 13,296 単位

* ALB/RBC=1.094 管理料 I 算定基準 : 2 未満

④製剤廃棄率

製剤種	廃棄率(%)	前年比
赤血球液 (RBC)	0.10	0.30
新鮮凍結血漿 (FFP)	2.97	4.30
濃厚血小板 (PC)	0.28	0.64

⑤副作用集計報告

製剤種	副作用報告件数(件)	実患者数(人)
赤血球 (RBC)	76	44
新鮮凍結血漿 (FFP)	66	23
濃厚血小板 (PC)	125	63

ゲノム診療センター

1. 概要

本センター設立の第一目的であるがんゲノム医療の分野において、当院は名古屋大学を中核とした連携施設に認定された。2019年9月には院内体制を整備し、12月に第1例目のカウンセリングおよび検査を実施、2020年1月に名古屋大学においてエキスパートパネルが開催された。今後症例の増加が見込まれる。

昨年遺伝学的検査における遺伝カウンセリング加算の施設基準を取得した。悪性腫瘍の薬剤治療の選択、いわゆるコンパニオン診断のために遺伝子検査が行われる機会が増えており、二次的に遺伝性腫瘍が指摘されることがある。昨年は遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）の判明した家系へのカウンセリングを1例、また病歴より遺伝性腫瘍が疑われる症例についてカウンセリングと確定診断を1例行った。がんゲノム医療における遺伝子パネル検査においても生殖細胞系列の変異を検出する可能性があり、その結果の解釈や家族への影響を考慮したカウンセリングも重要になってくると考えられる。

2017年より周産期分野において開始した母体血を用いた出生前遺伝学的検査（NIPT：non-invasive prenatal genetic testing）について2019年は48件のカウンセリングを行った。従前高年適応で行っていた羊水検査はほぼNIPTに移行し羊水検査数は半減した。臨床研究として開始され2019年3月をもって登録終了したが、その後の検査体制について関連学会の方針の一致が得られず、当院としては引き続き同様の適応で継続している。

（センター長 岡田 真由美）

2. 活動報告

(1) 施設認定等

施設認定	認定団体
母体血を用いた出生前遺伝学的検査に関する臨床研究施設認定	日本医学会
遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設	一般社団法人日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構

- ・生殖医療に関する遺伝カウンセリング受入れ可能な臨床遺伝専門医
- ・がんゲノム医療連携病院（名古屋大学を中核病院として）
- ・遺伝カウンセリング加算の施設基準届出済

外来治療センター

1. 概要

2019年度の年間利用者の延べ数は、11,645名（うち癌治療10,065名）で、2018年度の10,684名（同8,892名）から更に、増加傾向である。癌以外の治療数は減少しているが、それを超える勢いで癌治療数は増加している。1日の平均利用者数も、2018年度の43.8名から48.3名と、1日当たり4.5名の増加となった。

扱うレジメン数も増加しており、外来治療センターで扱うレジメン数は299となった。扱う治療の複雑性も増している。また、施行時間の長いレジメンも増加してきている。

増加する患者数・扱うレジメン数に対応する人員は、看護師11名/日、薬剤師8～9名/日である。近年の治療患者の増加は、外来治療センターベット数27床への増床（2年前に22から増床）を帳消しにする勢いである。この状況下で、治療レジメンに応じたスケジュールの組み立て、など各スタッフの努力により、安全に治療を遂行している。

各診療科の治療を円滑に遂行するためにも、将来の展望を検討する必要性を感じる。

（センター長 藤井 正宏）

2. 活動報告

(1)治療実績 月別集計表

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	
平均年齢(才)		65	65	65	65	65	64	65	64	65	65	66	65		65	
男(人)		453	441	459	524	508	477	547	486	483	500	498	502	5,878	490	
女(人)		462	460	488	530	492	473	539	490	449	465	429	490	5,767	481	
がんに関する治療(人)	内科	319	305	352	384	360	315	382	325	314	351	340	362	4,109	342	
	外科	296	286	298	323	306	287	341	313	308	296	287	284	3,625	302	
	泌尿器科	59	75	71	60	55	65	52	49	32	47	66	66	697	58	
	耳鼻いんこう科	39	30	38	52	63	55	74	67	55	48	43	48	612	51	
	婦人科	56	59	58	72	67	70	75	68	66	75	68	73	807	67	
	小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	21	21	18	21	20	18	22	22	17	11	9	15	215	18	
	小計	790	776	835	912	871	810	946	844	792	828	813	848	10,065	839	
	初回	68	76	87	69	58	76	84	69	70	68	66	66	857	71	
	内訳	乳腺	128	128	141	153	124	140	159	158	149	137	124	126	1,667	139
		大腸	126	122	117	132	152	121	151	129	127	132	130	132	1,571	131
		血液	120	117	120	131	122	87	115	110	95	112	105	128	1,362	114
		肺	133	118	143	155	152	135	148	130	124	135	142	137	1,652	138
		胆膵	65	65	75	78	63	67	86	61	67	73	65	71	836	70
		胃	39	34	42	52	44	49	56	44	53	48	53	49	563	47
		前立腺	9	11	13	15	12	15	8	13	11	12	14	11	144	12
		その他	170	181	184	196	202	196	223	199	166	179	180	194	2,270	189
がん以外の治療(人)	内科	35	44	33	50	37	54	37	44	49	45	39	47	514	43	
	整形外科	1	9	0	0	0	1	3	1	1	1	2	1	20	2	
	リウマチ科	83	69	74	86	87	81	94	83	87	84	71	92	991	83	
	皮膚科	4	3	3	5	4	3	4	4	3	5	2	5	45	4	
	その他	2	0	2	1	1	1	2	0	3	2	0	0	14	1	
	小計	125	125	112	142	129	140	140	132	143	137	114	145	1,584	132	
合計(人)	915	901	947	1,054	1,000	950	1,086	976	935	965	927	993	11,649	970		
1日平均(人)	46	47	47	48	48	50	52	49	47	51	49	47	580	48		

手術センター

1. 概要

2019年4月に、手術センター棟が開設した。これにより手術室が13室から16室体制となり、緊急手術への対応強化及び手術待ち日数の短縮に貢献している。

手術センターは、一人一人の患者さんに最良の手術が行われるよう各診療科・麻酔科医・病棟及び手術センターの看護師が連携を図っている。当センターでは、地域や患者のニーズに応えるべく以下の特徴及び設備を整えている。また、超緊急枠を設け、全科の超緊急手術に対応できるようにしている。

① 高度先進医療の施行

- a 内視鏡下手術：腹腔鏡、胸腔鏡、膀胱鏡、関節鏡、耳鼻科内視鏡、神経内視鏡
- b ロボット支援下手術（ダヴィンチ）：外科、産婦人科、泌尿器科、呼吸器外科
- c 大動脈瘤に対するステント留置術
- d O-arm透視下に行う脊椎等の整形外科手術
- e 不妊症に対する産婦人科手術
- f 移植手術：腎移植、副甲状腺移植
- g 顕微鏡下手術：脳神経外科、耳鼻いんこう科、眼科、整形外科
- h ナビゲーション支援下手術：脳神経外科、耳鼻いんこう科
- i 脳死臓器提供手術

② 総合周産期母子医療センターの要望に応じ、30分以内に開始する超緊急手術に対応

③ 心臓病、肺疾患、肝疾患、腎疾患等重い合併症を有するハイリスク患者手術に対応

④ 研修機関病院として、研修医、医学生、看護学生、救命救急士等の見学や実習

⑤ 手術診療科 18（内科、一般外科、小児外科、呼吸器外科、心臓外科・血管外科、移植外科、整形外科、リウマチ科、形成外科、脳神経外科、小児科、産婦人科、産婦人科（生殖医療）、耳鼻いんこう科、眼科、皮膚科、泌尿器科、歯科口腔外科）

⑥ 手術室 16（バイオクリーン・ルーム1室、採卵室1室、ハイブリット手術室1室、ダヴィンチ手術室1室、内視鏡手術室1室）

⑦ 空気清浄度

- a クラス100（1室）：整形外科で使用
- b クラス1000（1室）：呼吸器外科、心臓外科・血管外科で使用
- c クラス10000（14室）

⑧ スタッフ 看護師56名（2交代制で、夜勤者2名、自宅待機2名体制）

2019年度の主な実績としては、ロボット支援下手術（ダヴィンチ）を計181例施行した。また、外科・産婦人科・泌尿器科等で、大幅に手術数を増やした。2019年度から、血管撮影及びCT撮影のできるハイブリット手術室（1室）、ダヴィンチ手術室（1室）、内視鏡手術室（1室）が本格稼働している。新型コロナウイルスに感染した患者の手術にも対応できるよう体制を整えている。

（センター長 雄山 博文）

2. 活動報告

(1) 手術件数

診療科	件数(件)
一般外科	1,620
呼吸器外科	168
心臓血管外科	118
小児外科	141
移植外科	35
整形外科	1,538
リウマチ科	24
形成外科	8
脳神経外科	380
産婦人科	1,278
耳鼻いんこう科	612
皮膚科	75
泌尿器科	652
眼科	815
歯科口腔外科	487
生殖医療	301
内科	2
小児科	0
その他	3
計	8,257

麻酔別	件数(件)
全身麻酔	4,124
静脈麻酔	196
腰椎麻酔	1,068
局所麻酔	376
伝達麻酔	1,890
無麻酔	458
その他	260
計	8,372
(うち緊急手術)	1,204
(割合)	14.38%

(2) 腹腔鏡・胸腔鏡・関節鏡手術件数

診療科及び術式	件数(件)
一般外科	558
うち、ロボット支援下直腸悪性腫瘍手術	19
うち、ロボット支援下胃悪性腫瘍手術	16
呼吸器外科	96
うち、ロボット支援下肺悪性腫瘍手術	2
小児外科	80
整形外科	122
リウマチ科	1
産婦人科	487
うち、腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術(先進医療)	2
うち、腹腔鏡下広汎子宮頸部摘出術(先進医療)	1
うち、ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	37
うち、ロボット支援下腔式子宮全摘出手術	97
泌尿器科	152
うち、ロボット支援下前立腺悪性腫瘍手術	62
うち、ロボット支援下腎悪性腫瘍手術	22
うち、ロボット支援下膀胱悪性腫瘍手術	11
その他	3
計	1,499

口唇口蓋裂センター

1. 概要

当センターは口唇口蓋裂を含む口腔の先天性疾患、顎発育異常等に対する治療を担当している。豊橋市内外から多くの患者の紹介を頂いており、院内の産婦人科、小児科からの紹介も多い。

口唇口蓋裂は長期の治療期間を要するため、出生してから成人するまでそれぞれの成長発育段階における様々な病態に合わせた治療を行っている。当センターでは出生直後より小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科をはじめ関連他科の協力を仰ぎながら治療を行っている。また院内はもとより、市中の医科歯科関連の医療施設と密接に連携を保ちながら、円滑に治療が進むよう当センターが中核となってその対応を行っている。一次症例だけでなく、他院で治療を受けた二次症例でも積極的に対応しており、外来初診症例数や入院症例数は、ともにほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。

(センター長 嘉悦 淳男)

2. 活動報告

①外来初診症例数

疾患名	件数(件)
唇(顎)裂	0
口蓋裂	4
唇顎口蓋裂	3
その他の唇顎口蓋裂	2
計	9

②入院症例数

疾患名	件数(件)
唇(顎)裂	4
口蓋裂	7
唇顎口蓋裂	22
その他の唇顎口蓋裂	0
計	33

患者総合支援センター

1. 概要

2010年4月1日、副院長をセンター長として開設した当センターは、地域の医療機関や介護事業者との相互連携を図り、患者に対して効率的で質のよい医療を提供する「地域連携部門」と、医療を通じて発生する種々の問題に対して、患者に安心して治療に当たってもらえることができるよう支援を行う「医療相談部門」で構成されている。



2. 活動報告

(1) 地域連携部門

① 地域医療支援委員会

委員 29人 (院外 17人、院内 12人)

第1回 令和元年 5月 9日開催

第2回 令和元年 8月 8日開催

第3回 令和元年11月14日開催

第4回 令和 2年 2月 6日開催

② 地域連携登録医登録者数

473人 (令和2年3月末現在)

③ 豊橋市医師会・豊橋市民病院病診連携協議会

委員 10人 (豊橋市医師会 2人、豊橋市民病院 7人)

事務局 4人 (豊橋市医師会 1人、豊橋市民病院 3人)

(ア) 病診連携協議会

第85回病診連携協議会 令和元年 5月24日開催

(イ) MCRフォーラム

第45回MCRフォーラム 令和元年 6月12日開催

「上部消化管腫瘍に対する内視鏡診療の現状と将来展望」 参加人数 46人

(ウ) 病院・転床施設連携懇談会

第23回病院・転床施設連携懇談会 令和元年5月24日開催 参加：28施設 69人

平成30年度の転床入院実績報告

④ 紹介・逆紹介実績

(ア) 紹介・逆紹介率

紹介率	逆紹介率
81.9%	85.2%

(イ) 病診連携室取扱実績

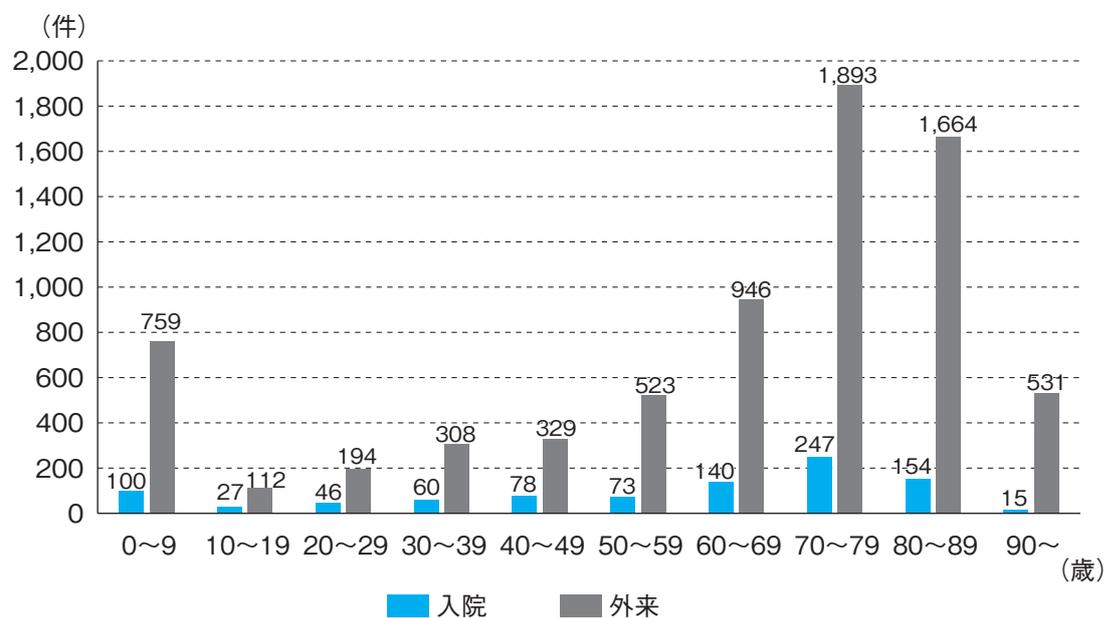
内 訳		件数(件)	
病診連携室経由の受診予約数	医 科	市 内	10,135
		市 外	3,198
	歯 科	市 内	1,330
		市 外	214
	保 健 所 保 健 セ ン タ ー		313
	そ の 他		60
	キ ャ ン セ ル		△ 523
	計		14,727
時 間 外 (再 掲)		976	
病診連携室経由の転院先状況	申 込 数		2,220
	内 訳	有 床 診 療 所	11
		病 院	1,618
		キ ャ ン セ ル	566
		転 院 予 約 中	25

(2) 医療相談部門

① 医療福祉相談件数

(ア) 新規相談患者数 入院 7,259件 外来 940件 計 8,199件

年齢別新規相談件数



(イ) 延べ相談件数 入院 23,252件 外来 7,265件 計 30,517件

② 女性相談件数 面接 4件 電話 12件 計 16件

③ がん相談件数 面接 282件 電話 90件 計 372件

入退院支援センター

1. 概要

入退院支援センターは2018年4月より開設された。それまで入院支援センターが2015年より行ってきた入院前説明と、患者総合支援センター内に所属していた退院調整看護師による退院調整を統合することにより、予約入院となる患者さんが安心して入院生活を送り、退院後も地域で安心して生活するための支援をより強力に発揮できる体制となった。入院支援では昨年度までにほぼ全診療科の予定入院の患者に対応できるようになり、さらには必要に応じて入院後の退院支援につないでいる。

入院支援、退院支援の業務は以下のとおりである。

- ① 入院や手術に対して抱えている不安を少しでも軽減し、安心して入院・手術が受けられるように援助する。
- ② リスクのある患者をスクリーニングして安全に手術が受けられるようにする。
- ③ 退院困難要因のある入院患者に早期から介入し、その人らしい暮らしに戻れるよう支援する。
- ④ 入退院に関する外来・病棟の業務を軽減する

今後は入院前からの他職種連携を目指して、より安全に安心して入退院できるよう業務を拡大する予定である。

(センター長 浦野 文博)

(文責 副センター長 伊藤 恵子)

2. 活動報告

(1) 業務内容

- ①入院前説明
- ②退院支援・退院調整→患者総合支援センター医療相談部門参照
- ③退院前訪問・退院後訪問

(2) 入院前説明患者数（令和元年度）

① 一般外科

術式	人数(人)
ヘルニア手術	191
胃手術	106
肝臓手術	24
結腸直腸手術	104
腹腔鏡下胆嚢手術	186
ダヴィンチ(腸)手術	16
乳房手術	83
乳房手術(部分切除)	28
甲状腺手術	37
虫垂切除	32
痔核手術	12
痔瘻手術	2
低侵襲手術上部手術	56
低侵襲手術下部手術	90
TAPP(腹腔鏡下ヘルニア手術)	2
胃スリーブ手術	4
腹腔鏡下結腸直腸手術	1
その他(クリニカルパス外)	86
計	1,060

② 歯科口腔外科

術式	人数(人)
抜歯(局麻)	226
抜歯(全麻)	32
小児口腔外科手術	22
その他(クリニカルパス外)	149
計	429

③ 眼科

術式	人数(人)
白内障	316
硝子体	117
緑内障	31
日帰り手術	1
小児眼科手術	3
その他(クリニカルパス外)	1
計	469

④ 耳鼻いんこう科

術式	人数(人)
扁桃切除術	50
ラリngo	16
フェンスコンホ	10
ESS	84
鼓膜・鼓室形成術(ティンパノ)	20
頸部小手術	49
頸部郭清術	5
甲状腺葉峡摘出術	42
甲状腺全摘術	14
鼻(局麻手術)	1
小児アデノイド手術	50
小児扁桃摘出術	79
小児耳鼻科小手術	51
その他(クリニカルパス外)	43
計	514

⑤ 呼吸器外科

術式	人数(人)
肺切除	99
気胸・縦隔腫瘍・部切	25
その他(クリニカルパス外)	4
計	128

⑥ 産婦人科

コース	人数(人)
婦人科 A コース	64
婦人科 B コース	103
婦人科 D コース	217
婦人科 E コース	48
腔式子宮全摘術(VTH)	12
子宮鏡下手術(TCR)	11
腹腔鏡下仙骨腔固定術	11
腹腔鏡下子宮附属器腫瘍摘出術	36
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(郭清なし)	73
腹腔鏡下子宮筋腫摘出(核出)術	4
計	579

⑦ 泌尿器科

検査・術式	人数(人)
前立腺生検	234
TUL	95
前立腺全摘除術	5
ロボット支援前立腺全摘術	66
TUR-BT	134
TUR-P	39
体外衝撃波碎石術	4
腎摘除術	59
腎部分摘除術	22
膀胱全摘・回腸導管/尿管皮膚瘻	21
精巣腫瘍摘出術	6
その他(クリニカルパス外)	106
計	791

⑧ 整形外科

検査・術式	人数(人)
ミエロ1泊2日	36
ミエロ2泊3日	6
脊椎手術	74
人工股関節手術	83
その他(クリニカルパス外)	269
計	468

⑨ 脳神経外科

検査・術式	人数(人)
脳血管造影検査	43
血管内治療	45
その他(クリニカルパス外)	61
計	149

⑩ 小児外科

検査・術式	人数(人)
2泊3日	94
その他(クリニカルパス外)	8
計	102

⑪ 循環器内科

検査・術式	人数(人)
心臓カテーテル検査(当日入院・上肢)	133
心臓カテーテル検査(当日入院・鼠径)	15
心臓カテーテル検査(前日入院・上肢)	55
心臓カテーテル検査(前日入院・鼠径)	58
ペースメーカー植え込み術	5
ペースメーカー電池交換	4
その他(クリニカルパス外)	11
計	281

⑫ 血液内科

検査・術式	人数(人)
R-CHOP 療法	6
自家末梢血幹細胞採取	4
その他(クリニカルパス外)	138
計	148

⑬ 消化器内科

検査・術式	人数(人)
胃 ESD EMR	83
腹部 AG	46
その他(クリニカルパス外)	326
計	455

⑭ リウマチ科

検査・術式	人数(人)
ミエロ 1泊2日	0
ミエロ 2泊3日	0
脊椎手術	1
人工股関節手術	0
その他(クリニカルパス外)	9
計	10

⑮ 呼吸器内科

検査・術式	人数(人)
気管支鏡検査	56
CT 下肺生検	36
化学療法(ショートハイドレーション)	7
その他(クリニカルパス外)	158
計	257

⑩ 小児科

検査・術式	人数(人)
下垂体機能検査(三者負荷)	13
下垂体機能検査(グルカゴン)	3
その他(クリニカルパス外)	2
計	18

⑪ 皮膚科

検査・術式	人数(人)
その他(クリニカルパス外)	47
計	47

⑫ 脳神経内科

検査・術式	人数(人)
その他(クリニカルパス外)	17
計	17

⑬ 腎臓内科

検査・術式	人数(人)
腎生検	12
その他(クリニカルパス外)	68
計	80

⑭ 総合内科

検査・術式	人数(人)
その他(クリニカルパス外)	3
計	3

⑮ 心臓血管外科

検査・術式	人数(人)
その他(クリニカルパス外)	32
計	32

入院説明総数 6,041

後日薬剤鑑定数 225

(3) 退院支援・退院調整→患者総合支援センター「医療相談部門」参照

(4) 退院前訪問 13件

退院後訪問 28件

診療技術局

1. 概要

診療技術局には、放射線技術室、中央臨床検査室、リハビリテーション技術室、臨床工学室、栄養管理室の5部門（7職種）で、医療関係の国家資格を有した約180名および事務職員によって構成されている。病院事業（診療・経営の質の向上）への貢献はもちろんのこと、医療技術職のステータスの向上と職種の垣根を越え、共通の方針、計画、施策の立案などにより、より効率的な運営に努めている。病院の方針の浸透と現場の意見からのボトムアップ、医療技術職の横断的意思疎通の促進がさらなる活性化につながると考えている。

また、診療技術局5部門が協力し合って勉強会を開催している。2019年度に開催した勉強会は、以下のとおりである。

- ・2019年9月「当院の災害対応マニュアルで知っておくべきこと」
- ・2019年11月「第58回全国自治体病院学会一般演題レビュー4題」
- ・2020年3月「経営企画室の1年を振り返って～経営企画室での各部門の取り組み～」

特に3月は、2019年度から新設された経営企画室担当主査による1年間の成果と課題について報告会を開催した。

東三河地域における当院の役割は、様々な勉強会や研修会を積極的に開催し、地域医療にも貢献している。8月には、未来のコ・メディカル育成を目的に、高校生向けの職場見学会（参加者70名）を開催した。

（局長 山口 育男）

放射線技術室

1. 概要

当院の医療環境の変化に伴い、跡地利用を介して腹部超音波検査室を移転した。腹部超音波室は乳腺エコーもおこなうため、同室内にX線マンモグラフィーを設置することで乳腺センター化したものが出来上がった。

また、高度放射線棟が稼働して3年が過ぎ、2台の放射線治療装置は順調に件数を増やしてきている。この先進医療技術を用いた放射線治療は体への負担、副作用が少なく治療後のQOLも担保できる時代にマッチした治療であり、これを可能にしたのがIMRT（強度変調放射線治療装置）である。これは、1mm以内の誤差で腫瘍に放射線を照射できる技術であり、放射線治療専門技師による治療計画なくしては実現できないところである。しかし、件数が増加すれば技師への負担は大きくなり、先進医療といえども人の手によって成り立っているため、今後も市民の要望に応えられるよう放射線技術室として努力していきたい。

(室長 坂口 哲基)

「在籍技師が取得している認定資格等」

資格	認定団体	資格	認定団体
第1種放射線取扱主任者	原子力安全技術センター・ 文部科学省	医学物理士	医学物理士認定機構
放射線管理士	日本放射線技師会	放射線治療専門放射線 技師	放射線治療品質管理機構
放射線機器管理士	日本放射線技師会	放射線治療品質管理士	日本核医学専門技師認 定機構
医療情報技師	日本医療情報学会	核医学専門技師	日本核医学技術学会
医療画像情報精度管理士	日本診療放射線技師会	核医学専門技術者	マンモグラフィ検診精 度管理中央委員会
診療情報管理士	四病院団体協議会	検診マンモグラフィ撮 影認定診療放射線技師	日本乳腺甲状腺超音波 診断会議
医療安全管理者	日本病院会	乳腺甲状腺超音波診断 委員会認定技師	マンモグラフィ検診精 度管理中央委員会
臨床実習指導教員	日本診療放射線技師会	乳房超音波	日本超音波医学会
X線作業主任者	安全衛生技術試験協会・ 厚生労働省	超音波検査士(健診)	日本超音波医学会
γ線透過写真撮影作業 主任者	安全衛生技術試験協会・ 厚生労働省	超音波検査士(体表臓器)	日本超音波医学会
X線CT認定技師	日本X線CT専門技師認 定機構	超音波検査士(消化器)	日本放射線技師会
血管撮影・インターベン ション専門診療放射線 技師	日本血管撮影・インター ベンション専門診療放 射線技師認定機構	医療被ばく相談員	日本カプセル内視鏡学会
日本磁気共鳴専門技師	日本磁気共鳴専門技師 者認定	小腸カプセル内視鏡読 影支援技師	日本放射線治療専門放 射線技師認定機構

2. 活動報告

(1) 放射線技術室実績

(件)

区分		平成30年度	令和元年度
一般撮影	頭部	6,201	4,268
	胸部	74,788	131,305
	腹部	15,436	13,490
	四肢	49,410	46,862
	椎体	21,681	19,032
	計	167,516	214,957
	骨塩量測定	2,115	2,260
	ポータブル	26,200	27,664

(件)

エコー室	単純	12,843	13,274
	造影	134	146
	計	12,977	13,420

(件)

C T	単純	25,467	27,311
	造影	17,570	18,657
	計	43,037	45,968

(件)

MR I	単純	10,143	10,397
	造影	5,288	5,408
	計	15,431	15,805

(件)

血管撮影	心臓	555	794
	頭頸部	253	265
	胸部	108	106
	腹部	192	194
	四肢	72	57
	計	1,180	1,416

(件)

TV	UGI (胃)	3,200	2,953
	CG (大腸)	226	198
	透視下内視鏡	1,369	1,300
	透視下検査・治療	1,948	2,239
	計	6,743	6,690

(件)

RI	核医学 SPECT	473	548
	核医学静態	165	160
	核医学動態	33	52
	核医学全身	760	699
	PET/CT	1,210	1,183
	計	2,641	2,642

(件)

放射線治療	体外照射	12,024	12,053
	定位照射	214	325
	腔内照射	41	53
	IMRT	938	1,641
	全身照射	19	38
	計	13,236	14,110

(2) 令和元年度 豊橋市民病院放射線技術研修会

	演題名	演者名	年月日
第1回	個体ファントムを用いた水吸収線量測定 ～スケーリング係数を求めよう～	谷口 裕輝	令和元年6月13日
第2回	IVR基準点での計測準備をしてみよう ～初級者向け～	山口 稔	令和元年6月20日
第3回	胃透視基準撮影法2の説明と当院TV室での被ばく低減の試み	西川 宗範	令和元年6月27日
第4回	救急CTの読影補助	磯部 晃	令和元年7月5日
第5回	EPI-DWIの基礎 ～歪みとSNRについて考える～	喜多 和真	令和元年7月12日
第6回	「骨SPECT撮像ガイドライン完全マスター ファントム調整編」	市川 肇	令和元年7月17日
第7回	乳腺超音波の基礎およびマンモグラフィの読影	山田さやか	令和元年7月25日
第8回	コニカFPDの解像特性(MTF)の評価	澤根 康祐	令和元年8月2日
第9回	核医学画像の画質評価	市川 肇	令和元年11月21日
第10回	腹部超音波の基礎	山田さやか	令和元年11月28日
第11回	胃透視基準撮影法2の説明と当院TV室での被ばく低減の試み	西川 宗範	令和元年12月5日
第12回	IVR基準点での計測準備をしてみよう ～初級者向け～	小寺 祐貴	令和元年12月12日
第13回	救急CTの読影補助	磯部 晃	令和元年12月19日
第14回	フィルムを用いた線量分布評価について ～スキャナーの平坦度補正の話を中心に～	谷口 裕輝	令和2年1月14日
第15回	EPI-DWIの基礎 ～歪みとSNRについて考える～	喜多 和真	令和2年1月23日
第16回	デジタル画像における撮影条件が与える影響(ビギナー向け)	山本 弘樹	令和2年1月30日

中央臨床検査室

1. 概要

2019年3月に「ISO15189：臨床検査における国際規格」を取得し、1年が経過した。「ISO 15189」におけるPDCAサイクルの円滑な運用が、中央臨床検査室での質の高い検査結果を提供できることと考えている。その結果、2019年度精度管理調査（3団体）において、優秀な成績を残すことができた。

また、業務件数は、3.4%増加（2018年度比）であり、生物化学分析部門において増加傾向が顕著であった。また外来採血室における採血技術の向上、待ち時間短縮に注力し、一定の効果が出てきたと感じている。

ゲノム診療センターが本格稼働し「ゲノムパネル検査」の運用が開始された。症例は少ないが臨床に貢献できたと考えている。今後の遺伝子検査は、臨床検査にとっても重要な部門になると思われる。遺伝子検査（PCR検査・ゲノム検査）の院内導入にあたっては、高額機器購入が必要であることや、人材育成の難しさなど問題も多いが、充実を図りたいと考えている。

また「認定認知症領域検査技師」などの新しい資格取得にも積極的に取り組み、現在多数の資格取得者が在籍（下表）しており、臨床に貢献していると考えている。

（室長 山口 育男）

「在籍技師が取得している認定資格」

資格	認定団体	資格	認定団体
認定血液検査技師	日本検査血液学会	超音波検査士 (体表臓器領域)	日本超音波医学会
骨髄検査技師	日本検査血液学会	認定心電検査技師	日本心電学会
認定サイトメトリー技術者	日本サイトメトリー技術者 認定協議会	ソノグラファー	日本リウマチ学会
認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	専門技師(脳波分野)	日本臨床神経生理学会
感染制御認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	体外受精コーディネーター	日本不妊カウンセリング学会
認定輸血検査技師	認定輸血検査技師制度 協議会	認定臨床エンブリオロジスト	日本臨床エンブリオロジスト 学会
認定病理検査技師	日本臨床衛生検査技師会	生殖補助医療胚培養士	日本卵子学会
細胞検査士	日本臨床細胞学会	糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士 認定機構
超音波検査士 (循環器領域)	日本超音波医学会	栄養サポートチーム専門 療法士	日本静脈経腸栄養学会
超音波検査士 (健診領域)	日本超音波医学会	遺伝子分析科学認定士	日本臨床検査医学会
超音波検査士 (消化器領域)	日本超音波医学会	緊急臨床検査士	日本臨床検査医学会
超音波検査士 (血管領域)	日本超音波医学会	認定認知症領域検査技師	日本臨床衛生検査技師会

2. 活動報告

(1) 検査実施件数

(件)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
院内検査実施件数	5,864,465	5,655,630	5,454,275
委託検査件数	124,482	117,680	104,670
検査判断料件数	428,770	422,646	411,691
輸血管理料 1	2,889	2,584	2,671
外来迅速検体検査加算件数	271,492	265,918	261,096
病理診断管理加算	15,096	15,681	15,218
検体検査管理料加算 I 件数	112,467	112,017	110,068
入院時初回加算件数	13,291	13,066	12,592
時間外緊急院内検査加算件数	11,463	12,417	12,404
採血加算件数	111,175	107,495	111,227

(2) 検査判断料件数

(件)

区 分		令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
尿・糞便等検査判断料	外来	19,029	18,339	17,456
	入院	3,567	3,560	3,722
血液学の検査判断料	外来	100,174	98,935	96,167
	入院	18,194	18,026	17,828
生化学の検査（Ⅰ）判断料	外来	100,074	98,680	95,747
	入院	18,261	18,151	17,914
生化学の検査（Ⅱ）判断料	外来	26,286	25,242	24,691
	入院	5,235	4,623	5,014
免疫学の検査判断料	外来	76,635	75,616	73,357
	入院	17,215	16,912	16,684
微生物学の検査判断料	外来	11,623	11,428	11,155
	入院	7,758	7,779	7,710
病理学の検査判断料	外来	2,176	2,179	2,084
	入院	31	36	25
呼吸機能検査等判断料	外来	4,273	4,161	3,642
	入院	664	772	736
脳波検査判断料	外来	1,046	983	986
	入院	1,043	1,267	1,267
神経・筋検査判断料	外来	406	369	363
	入院	225	183	192
組織診断料	外来	5,948	6,132	6,019
	入院	4,855	4,905	4,755
細胞診断料	外来	2,880	3,032	2,914
	入院	1,172	1,336	1,263

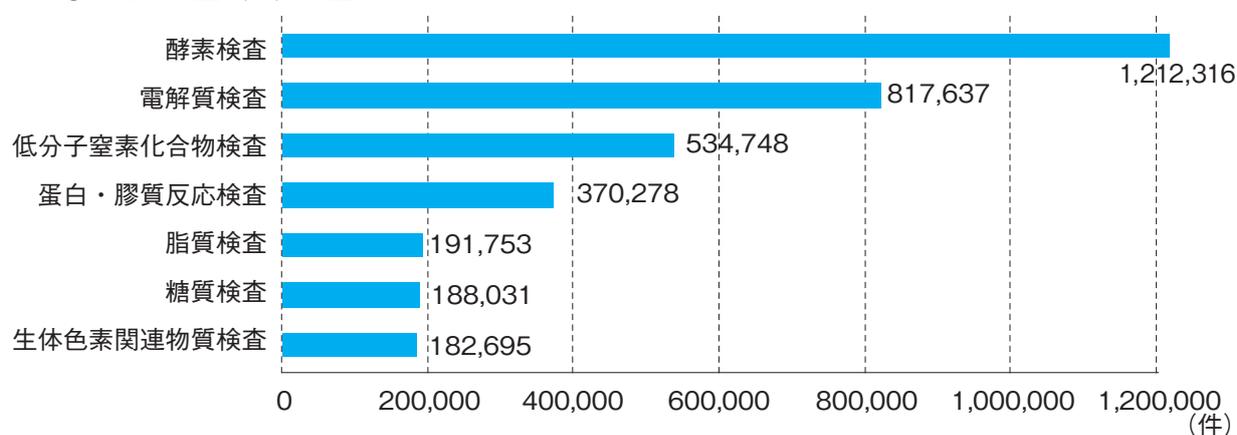
(3) 部門別実績

(件)

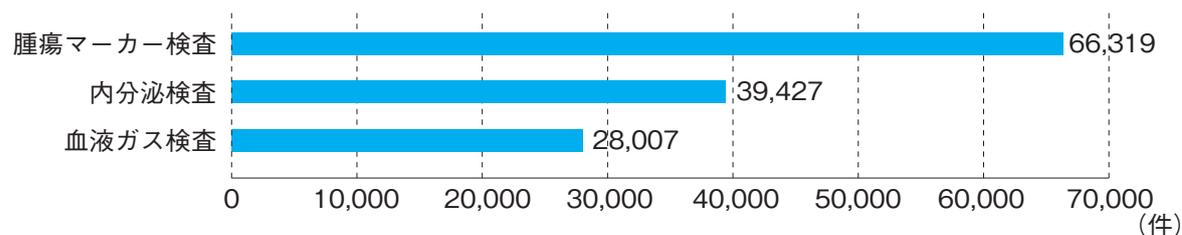
部門	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
尿・糞便等検査	114,758	112,794	108,229
血液学的検査	964,170	934,102	915,799
生化学的検査	4,134,904	3,973,743	3,814,042
免疫学的検査	401,115	392,705	379,397
微生物学的検査	95,932	92,766	93,368
輸血関連検査	65,761	60,188	55,857
生理機能学的検査	63,443	63,881	62,712
病理学的検査	23,565	24,599	23,922
生殖医療学的検査	817	852	949

(4) 生物化学分析検査

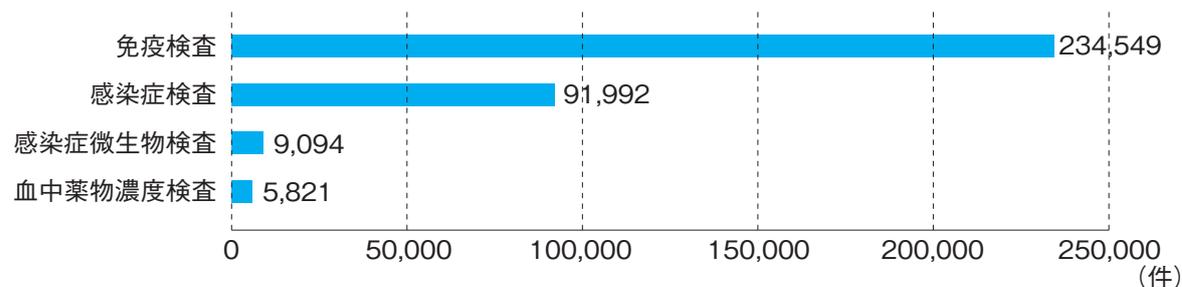
①生化学検査（Ⅰ）検査実績



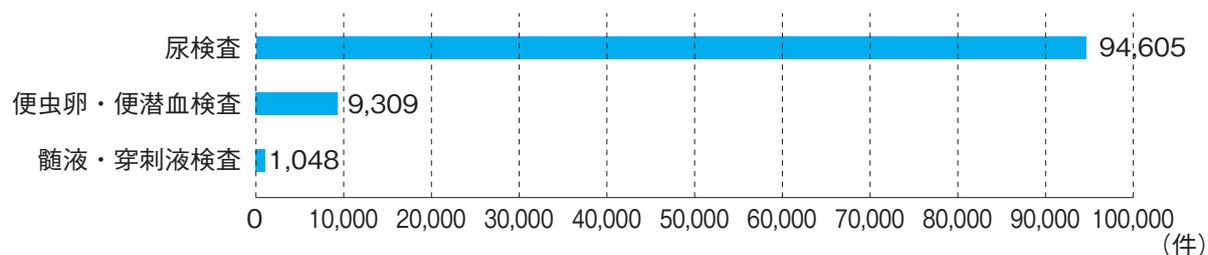
②生化学検査（Ⅱ）・血液ガス検査実績



③免疫学的・薬物検査実績



④一般検査実績



⑤患者検査説明業務実績

(件)

区 分	令和元年度	平成30年度	平成29年度
患者検査説明業務	914	963	1,030

患者説明業務とは、蓄尿、糖負荷検査（OGTT）、生理検査等の検査方法を患者に対して説明する業務である。

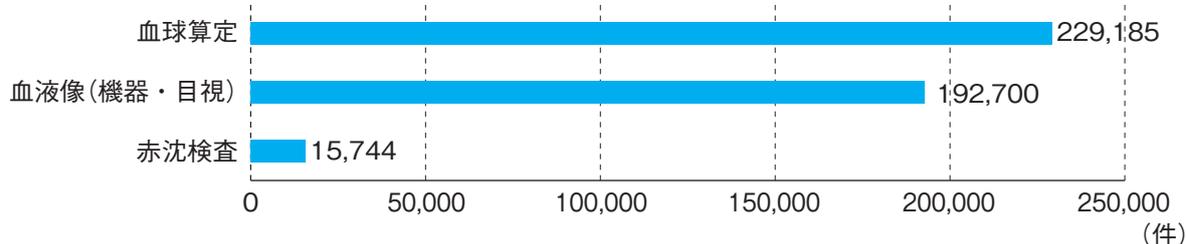
●説明検査項目

尿検査等：蓄尿・酸性蓄尿・糖負荷検査（OGTT）・クレアチニンクリアランス・早朝尿

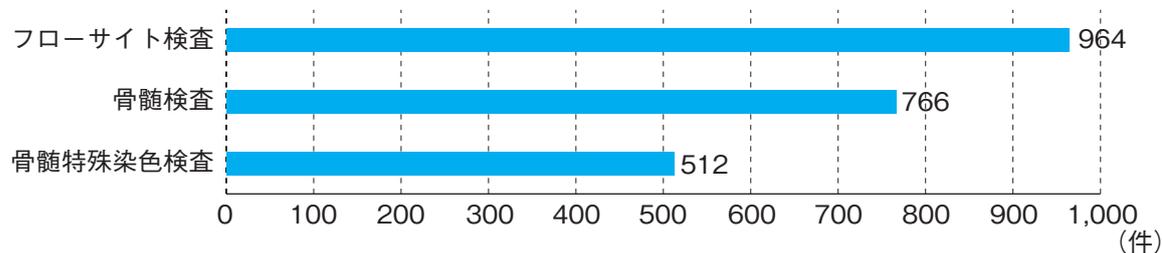
生理検査：超音波検査・ホルター心電図・トレッドミル・24時間血圧測定・負荷サーモグラフィー・吸入誘発試験・脳波・聴性脳幹反応・終夜睡眠ポリグラフィー

⑥血液学的検査実績

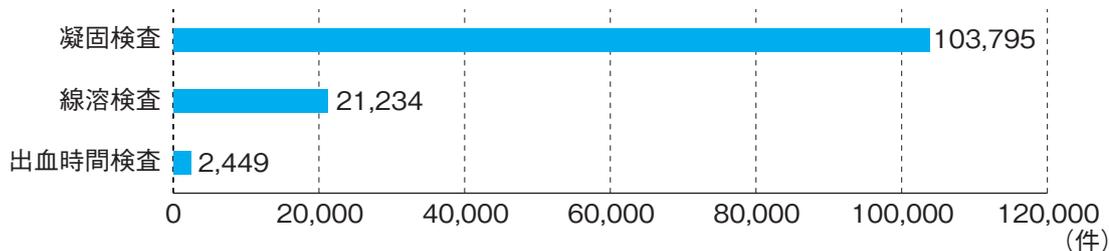
(ア)血液検査



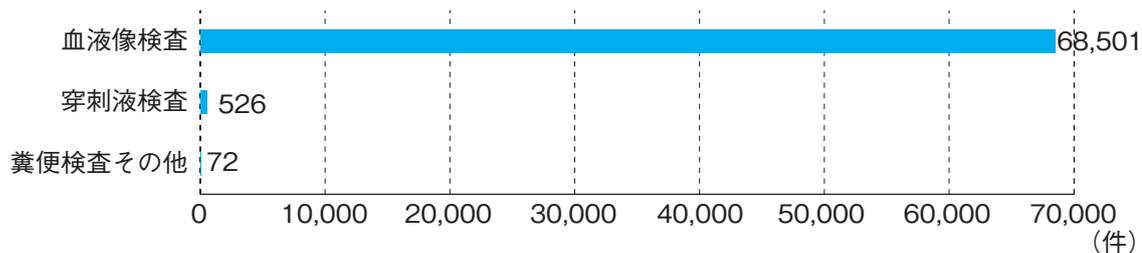
(イ)骨髄検査



(ウ)凝固・線溶検査



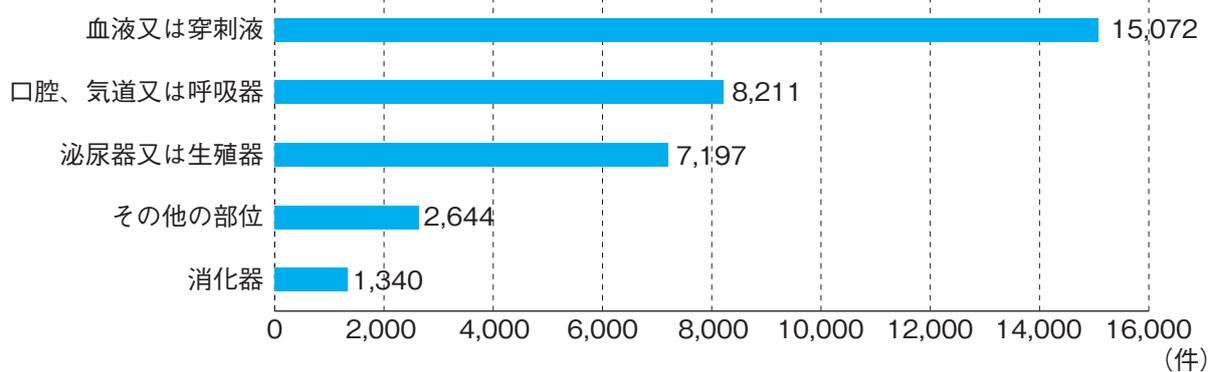
⑦顕微鏡検査実績



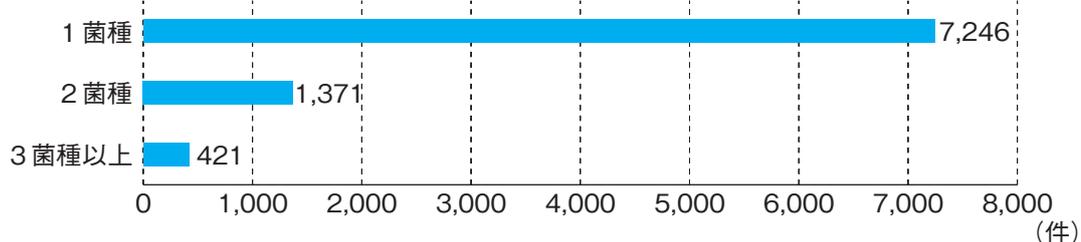
(5) 微生物・感染制御検査

①一般細菌

(ア)培養同定検査実績

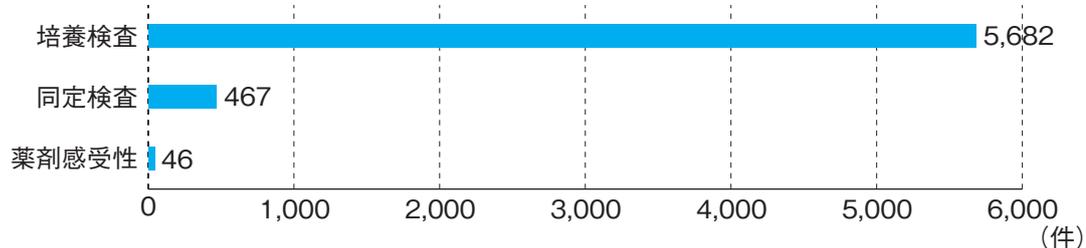


(イ)薬剤感受性検査実績

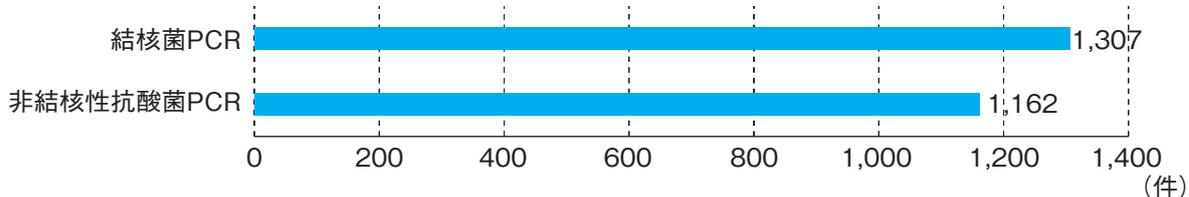


②抗酸菌

(ア)培養同定検査実績

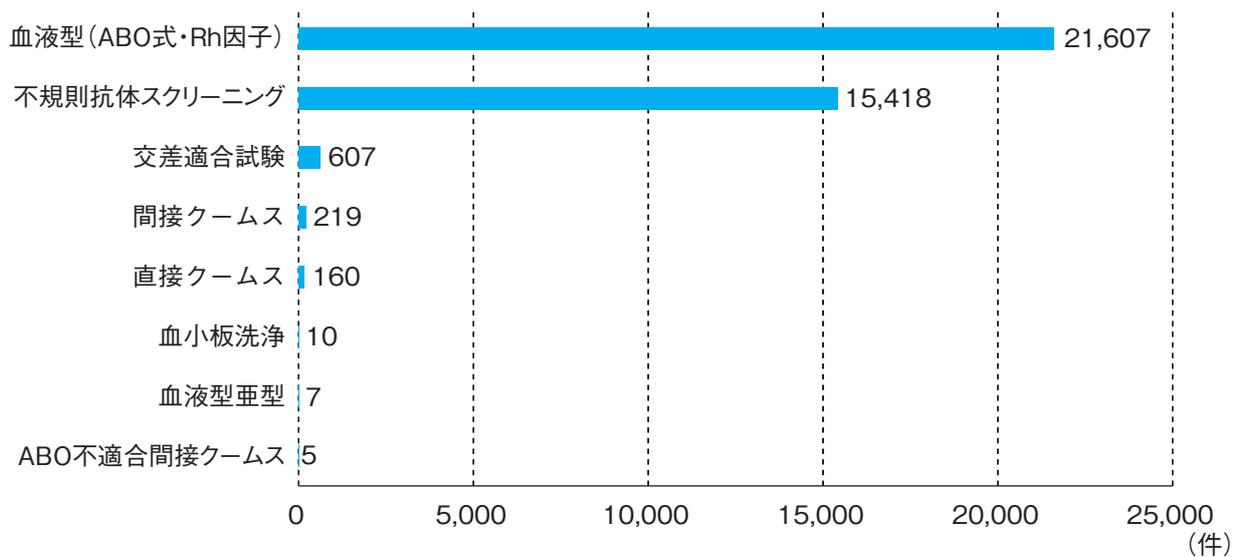


(イ)遺伝子検査(PCR)実績

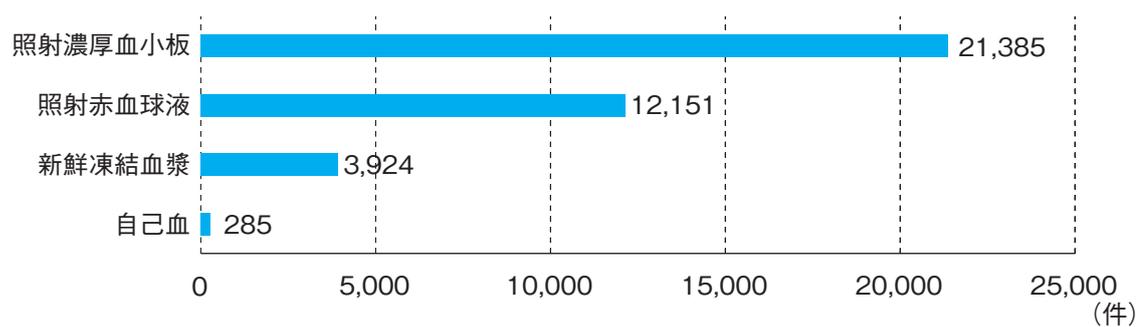


(6) 輸血移植・救命救急検査

①輸血関連検査実績



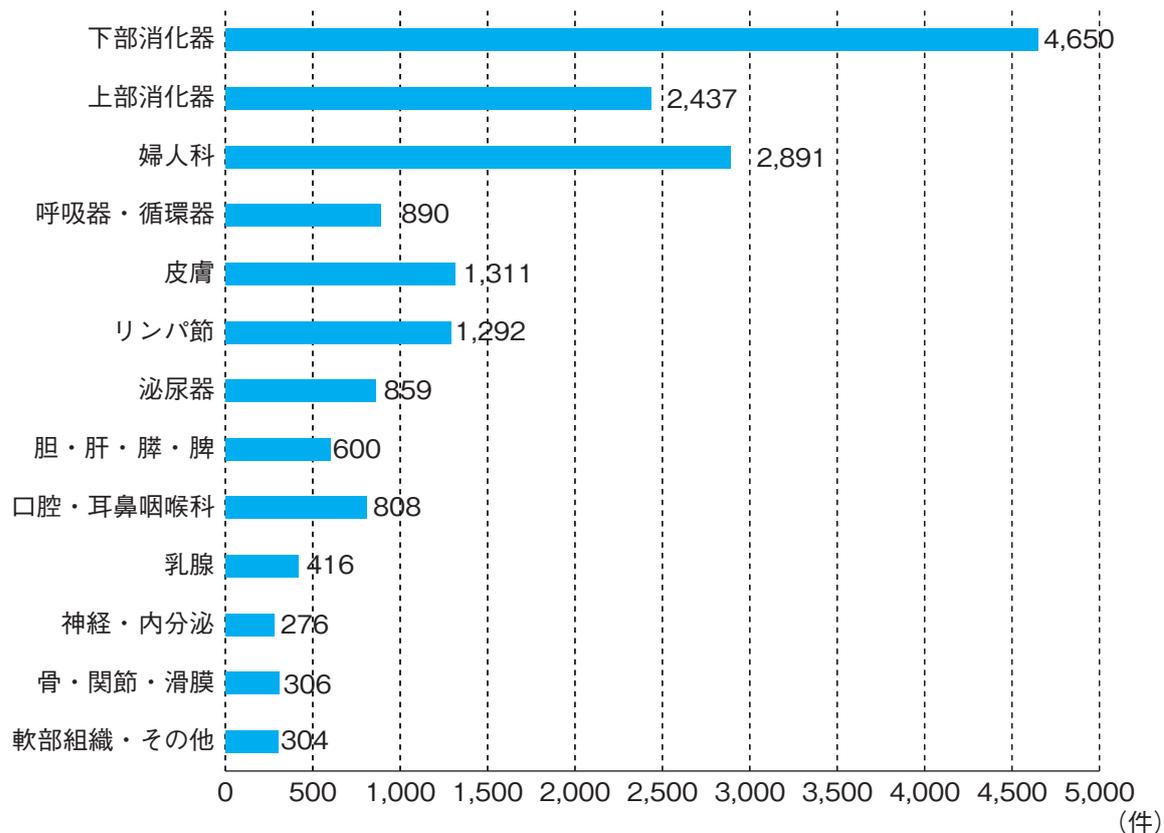
②血液製剤使用状況



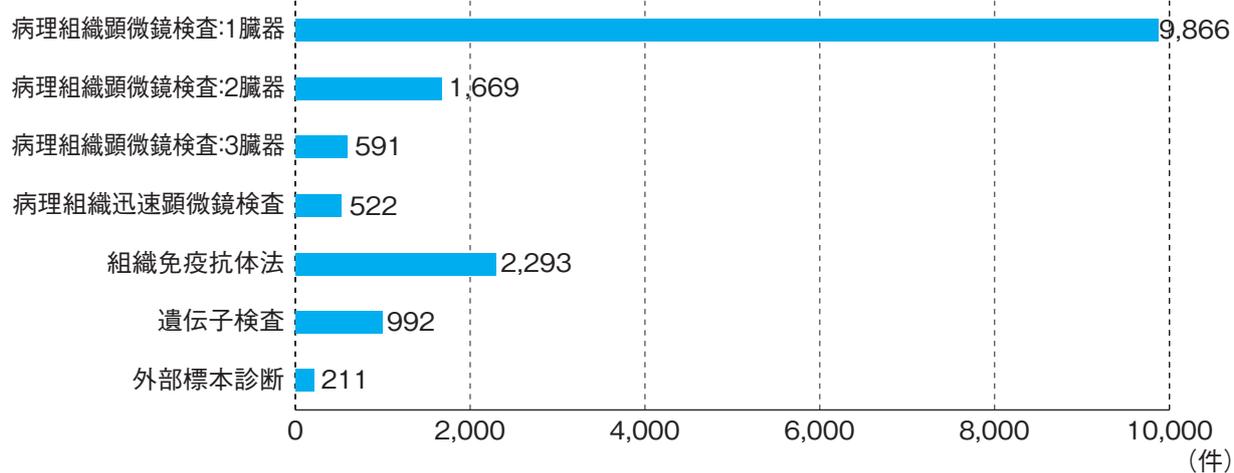
(7) 病理・細胞形態検査

①病理学的・細胞診検査実績

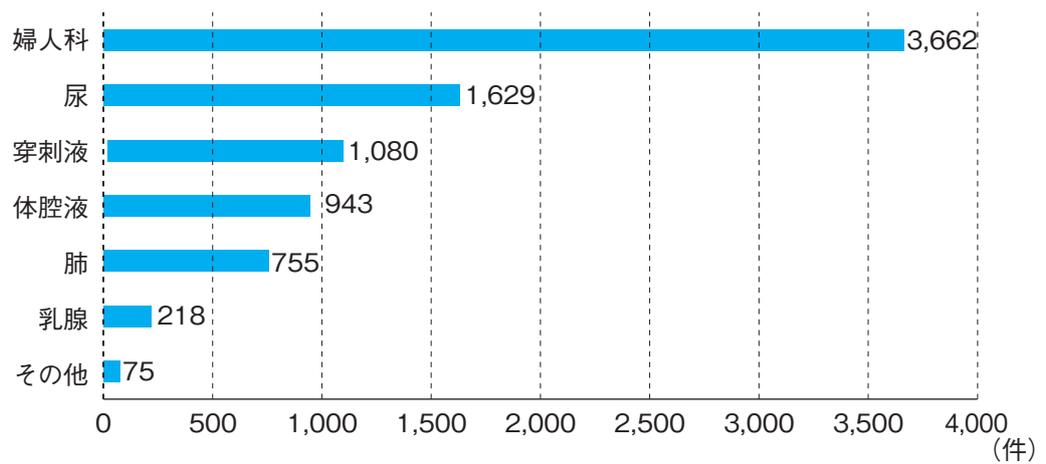
(ア)病理組織検査材料別件数



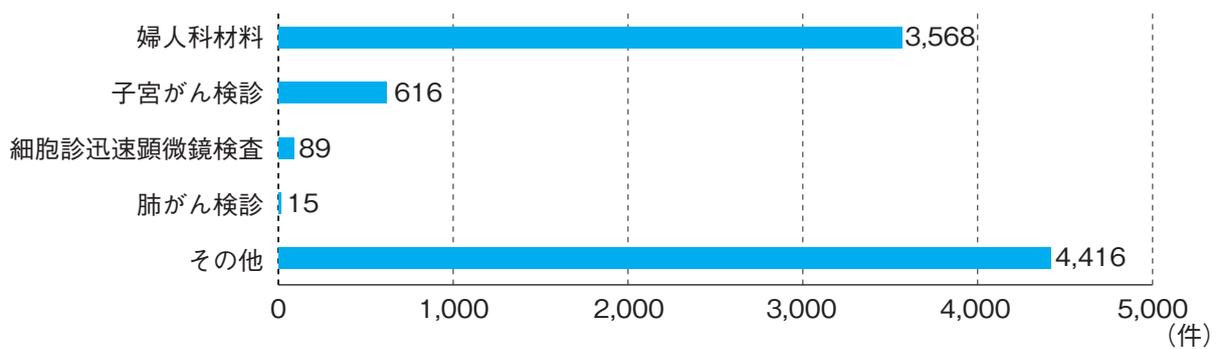
(イ)病理組織検査件数



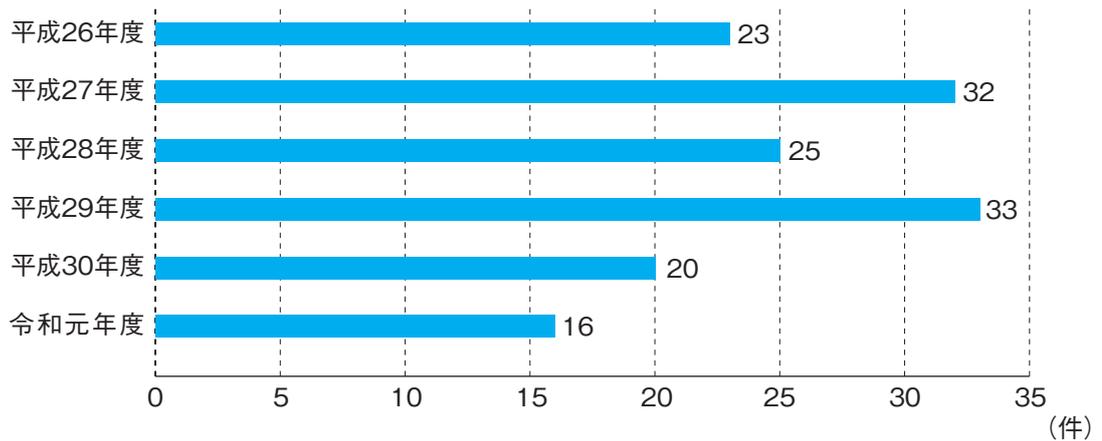
(ウ)細胞診検査材料別件数



(エ)細胞診検査件数



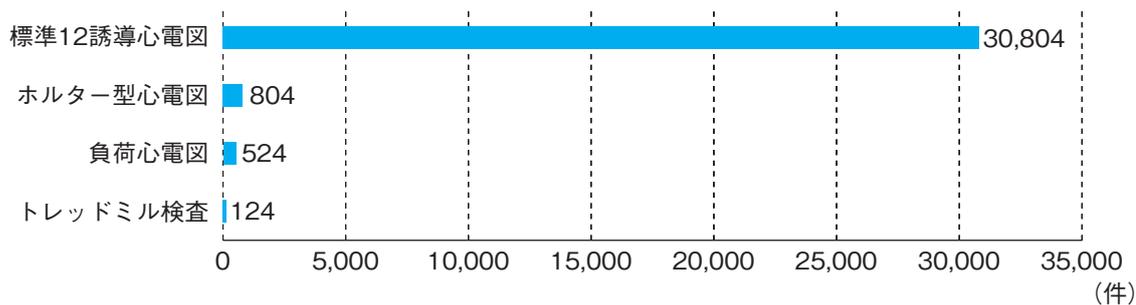
②病理解剖件数



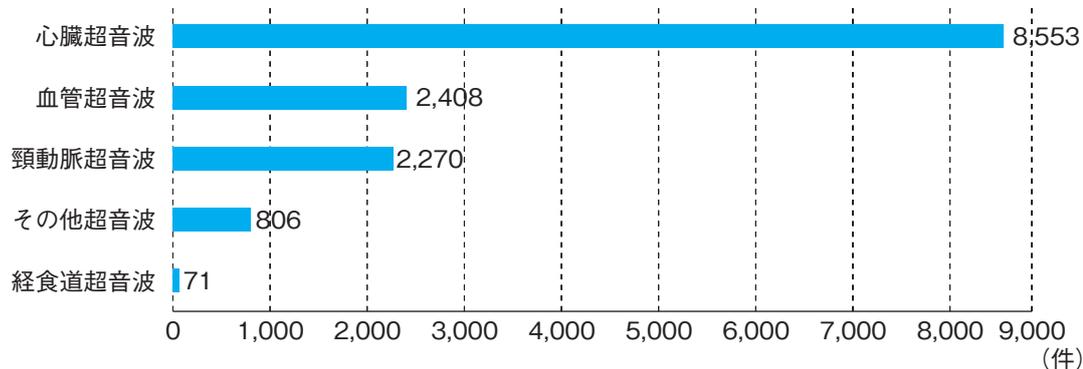
(8) 生理機能・生殖医療検査

①生理機能・画像検査実績

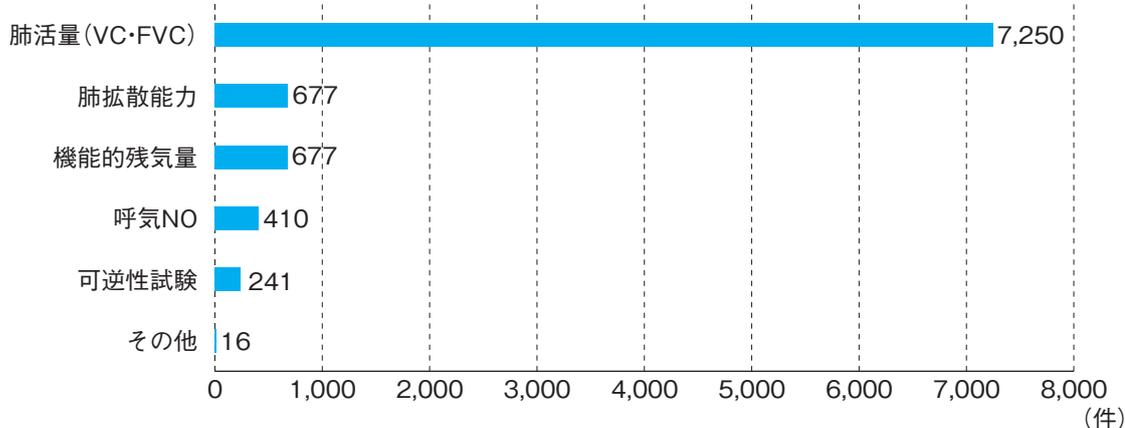
(ア)心電図検査実績



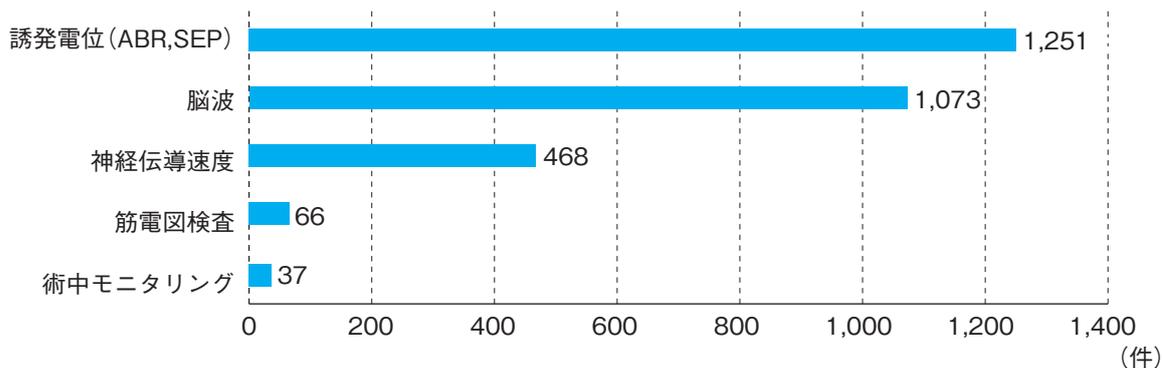
(イ)超音波検査実績



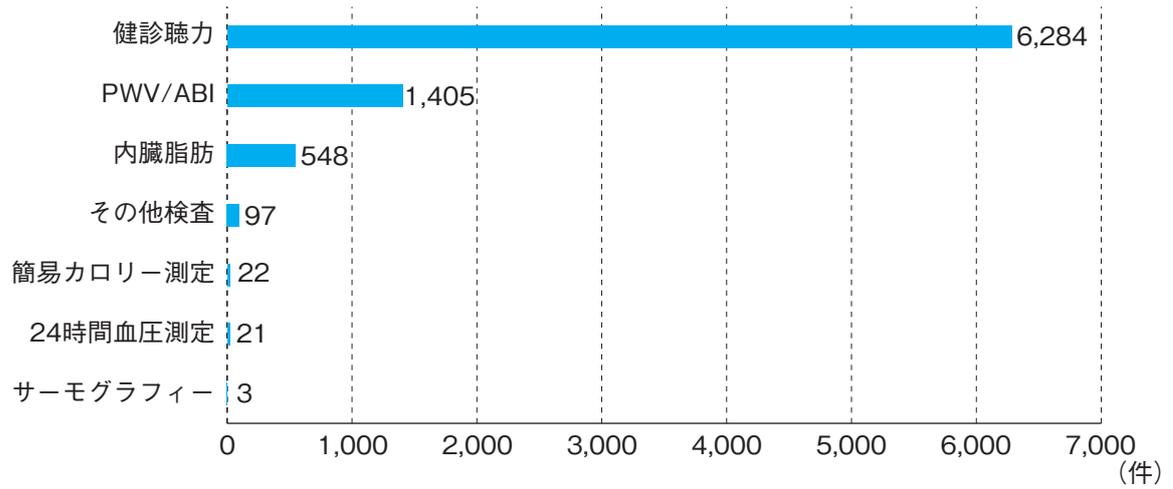
(ウ)肺機能検査実績



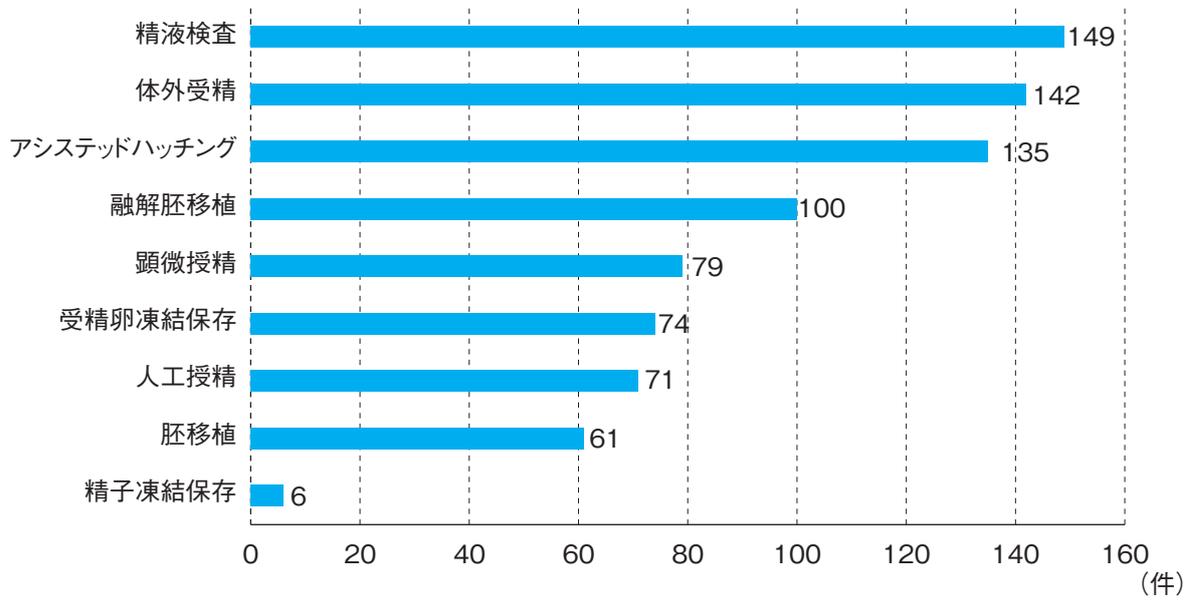
(エ)脳・神経検査実績



(オ)その他検査実績



②生殖医療関連検査実績



リハビリテーション技術室

1. 概要

リハビリテーション技術室は理学療法部門、作業療法部門、言語療法部門より構成される。運動器・脳血管・呼吸・心大血管・がん患者を対象に総合的にリハビリテーションが実施できるよう施設基準を有している。2018年3月からはADL維持向上等体制加算を取得し、1病棟ではあるが療法士による病棟専従化を開始した。栄養、呼吸、褥瘡、認知症、排尿ケア、嚥下等のチーム医療にも積極的に参加し、2019年5月からチームの一員として特定集中治療室での早期離床・リハビリテーション加算に関する業務の一端を担っている。

1987年より開始した地域病院間のリハビリテーション連絡会は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が所属する施設で構成され、各機能別施設における専門分野からの情報提供や症例検討を行っている。病診や病病連携一体のシステムは、27施設を数え、リハビリテーション分野からの市民サービスの充実を図っている。

(室長 森嶋 直人)

2. 活動報告

(1) 外来入院別単位数

延べ患者件数は129,029件、その内訳として理学療法79,861件、作業療法29,363件、言語療法19,805件であった。

(件)

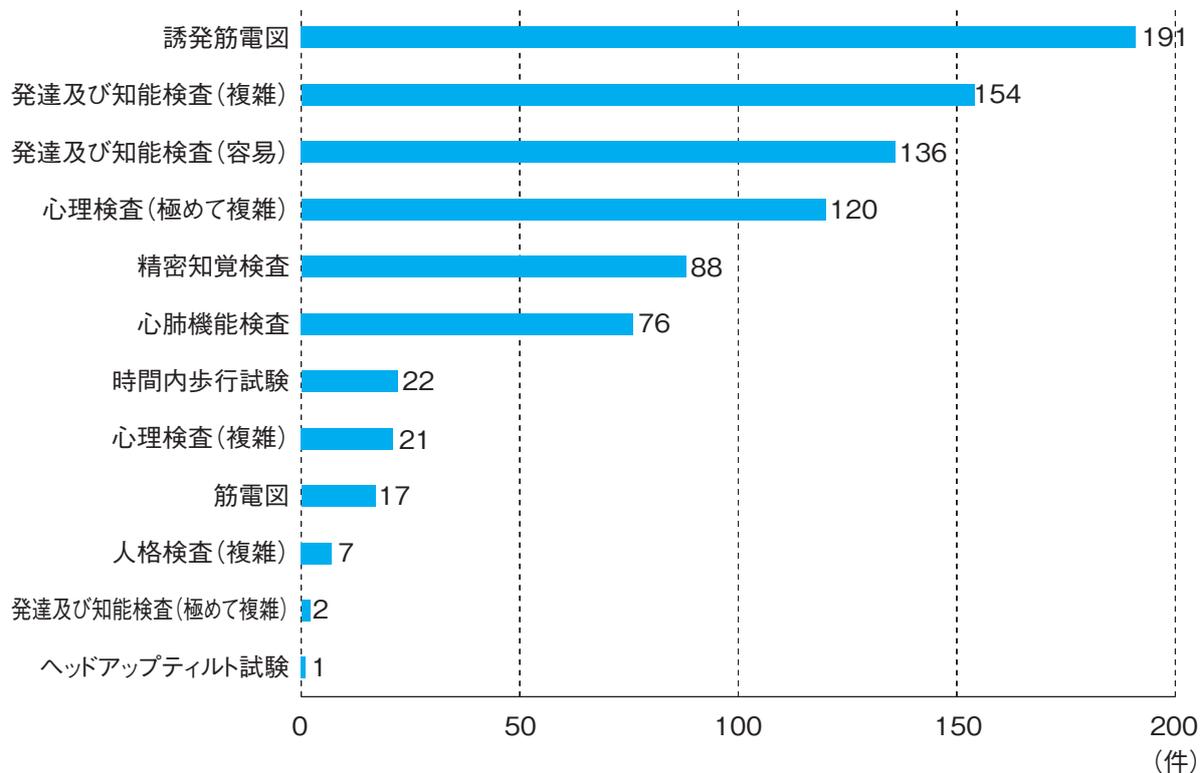
内 容	入外	令和元年度	平成30年度	平成29年度
理学療法	入院	72,703	72,822	73,427
	外来	7,158	5,685	4,390
作業療法	入院	25,956	29,424	28,940
	外来	3,407	3,364	2,866
言語療法	入院	17,145	17,578	16,932
	外来	2,660	3,419	3,119
小計	入院	115,804	11,9824	119,299
	外来	13,225	12,468	10,375
合計		129,029	132,292	129,674

(2) 疾患別件数

大分類疾患		代表的小分類疾患	
①脳疾患	1,225 件	ア) 脳梗塞	552 件
		イ) 脳出血	266 件
		ウ) くも膜下出血	71 件
		エ) 小脳出血・小脳梗塞	22 件
		オ) 頭部外傷	91 件
		カ) パーキンソン病	10 件
		キ) その他	213 件
		②脳性麻痺	17 件
③発達障害	113 件		
④脊髄疾患	69 件	ア) 脊髄損傷	25 件
		イ) 脊髄症	44 件
⑤神経疾患	277 件	ア) 顔面神経麻痺	91 件
		イ) 多発神経炎	36 件
		ウ) 変性疾患	100 件
		エ) その他	50 件
⑥先天性異常	15 件		
⑦骨疾患	575 件	ア) 上肢骨折	35 件
		イ) 下肢骨折	318 件
		ウ) 脊椎骨折	57 件
		エ) 脊椎症	61 件
		オ) 脊柱靱帯骨化	7 件
		カ) 無腐性壊死	12 件
		キ) 椎間板疾患	24 件
		ク) その他	61 件
⑧関節疾患	261 件	ア) 変形性関節症	142 件
		イ) 膝内障	52 件
		ウ) 肩関節疾患	10 件
		エ) 筋腱断裂	2 件
		オ) その他	55 件
⑨関節リウマチ	20 件		
⑩切断	28 件		
⑪手の外傷	76 件		
⑫筋疾患	28 件		
⑬循環器呼吸器疾患	524 件	ア) 心筋梗塞	59 件
		イ) 心不全	320 件
		ウ) 狭心症	20 件
		エ) その他循環器疾患	125 件
⑭腫瘍	985 件	ア) 頭頸部	83 件
		イ) 甲状腺	2 件
		ウ) 食道	24 件

	エ) 胃	51 件
	オ) 大腸	103 件
	カ) 肝臓	28 件
	キ) 胆道系	24 件
	ク) 膵臓	39 件
	ケ) 肺	187 件
	コ) 骨	4 件
	サ) 乳腺	54 件
	シ) 婦人科	25 件
	ス) 泌尿器	38 件
	セ) 脳腫瘍	75 件
	ソ) 小児腫瘍	1 件
	タ) 造血器	202 件
	チ) その他の腫瘍	45 件
⑮その他	1,056 件	
	ア) 廃用症候群・運動器不安定症	12 件
	イ) その他	1,044 件

(3) リハビリテーションセンター内検査実施状況



臨床工学室

1. 概要

臨床工学室は病院理念と基本方針に基づき、市民の財産である院内の医療機器を安全かつ良好な状態で臨床提供を行い、公共性と経済性を考慮し効率的な運用を行っている。

生命維持管理装置を用いた手術、治療支援並びにそれに付帯する一切の医療安全業務に携ることが使命である。人員は正規職員 21 名、パート職員 2 名、事務職員 1 名で、医療機器安全管理グループ、血液浄化センターグループ、生命維持装置管理グループの 3 グループ体制としている。

医療機器管理においては、医療機器安全管理責任者の下に医療機器の保守管理計画、研修計画及び研修実施記録管理、更新・増設・廃棄業務支援を行っている。地域医療連携においては主治医を中心に、在宅で医療機器を使用する患者・家族への操作指導や退院後のフォローも行っている。多職種間の密な連携協力や計画的な研修・カンファレンスを行いながら、患者の安全を第一に考えた医療技術の提供と診療支援に努めている。

血液浄化センターでは、一般的な血液透析から特殊血液浄化全般までを臨床工学技士と看護師で協働して対応している。基幹病院として、近隣病院より手術目的で紹介される患者の受け入れや、より重篤な透析患者の入院透析を中心に対応している。

生命維持管理装置といった高度医療機器の多くは手術センターで主に使用されている。そのため 2017 年からは手術センターに常駐の臨床工学技士を配置し、医師のサポート、医療機器の適正使用に貢献している。

手術支援ロボット・ダヴィンチについては、2013 年 10 月に泌尿器科領域から開始し、その後、外科、婦人科、呼吸器外科領域に適応が拡大された。2019 年 4 月からは手術支援ロボット・ダヴィンチ専用の手術室が増設され、臨床工学技士の年間立ち合い件数は 2018 年度の 168 件から 2019 年度は 268 件と大幅に症例数が増加し、先進医療に貢献している。

(室長 山口 育男)

(文責 室長補佐 後藤 成利)

「在籍技士が取得している認定資格等」

資格	認定団体	資格	認定団体
臨床ME専門認定士	日本生体医工学会	透析技術認定士	日本透析医学会 4学会透析療法合同専門委員会認定資格
体外循環認定士	日本人工臓器学会 日本体外循環医学会 日本心臓血管外科学会他	呼吸療法認定士	日本呼吸器学会 日本麻酔科学会 日本胸部外科学会
第1種ME技術者	日本生体医工学会	特定高圧ガス取扱主任者	高圧ガス保安協会
第2種ME技術者	日本生体医工学会	第一種衛生管理者免許	厚生労働大臣指定安全衛生技術試験協会
院内移植コーディネータ	愛知県 愛知腎臓財団	医療安全認定コーチ： MCCS	国際医療リスクマネジメント学会

2. 活動報告

(1) 治療手術業務件数 緊急血液浄化・血液成分分離・末梢血幹細胞採取数

※HD、HDF、HF、ECUM、PEは血液浄化センターでの施行症例を除く

(件または回)

区分 内訳	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
血液浄化療法			
症例件数合計	96	88	81
血液浄化回数合計	242	219	264
HD件数	62	51	32
HD回数	155	85	144
HDF件数	7	1	0
HDF回数	9	3	0
HF件数	0	0	0
HF回数	0	0	0
ECUM件数	7	11	17
ECUM回数	13	23	44
CHD件数	0	0	1
CHD回数	0	0	1
小児CHD件数	0	0	0
小児CHD回数	0	0	0
CHDF件数	12	10	16
CHDF回数	43	17	35
CHF件数	1	1	2
CHF回数	1	1	2
PE件数	4	3	1
PE回数	12	11	3
小児PE件数	3	0	1
小児PE回数	9	3	3
CPE件数	0	0	0
CPE回数	0	0	0
DFPP件数	1	4	5
DFPP回数	3	22	13
免疫吸着件数	0	0	2
免疫吸着回数	0	0	9
LDL吸着件数	1	0	0
LDL吸着回数	5	0	0
薬物吸着件数	0	0	0
薬物吸着回数	0	0	0
ET 吸着件数	0	0	2
ET 吸着回数	0	0	2
L-CAP 件数	5	3	1
L-CAP 回数	36	23	3
G-CAP 件数	2	4	1
G-CAP 回数	13	31	5

末梢血幹細胞採取・骨髄移植関連			
症例件数合計	18	15	19
施行回数合計	26	20	25
PBSC成人件数	13	12	12
PBSC成人回数	19	16	18
PBSC小児件数	1	1	0
PBSC小児回数	2	1	0
健常人 ドナーPBSC件数	1	1	3
健常人 ドナーPBSC回数	2	2	3
健常人 ドナーリンパ球採取件数	1	0	1
健常人 ドナーリンパ球採取回数	1	0	1
骨髄濃縮件数	2	2	3
骨髄濃縮回数	2	2	3
顆粒球採取件数	0	0	0
顆粒球採取回数	0	0	0
白血球採取件数	0	0	0
白血球採取回数	0	0	0
その他			
腹水濾過濃縮再静注業務症例数	29	20	17
腹水濾過濃縮再静注業務回数	95	53	43

(2) 手術立会い業務件数

人工心肺・補助循環・自己血回収・脳外ナビ・ペースメーカー等症例数

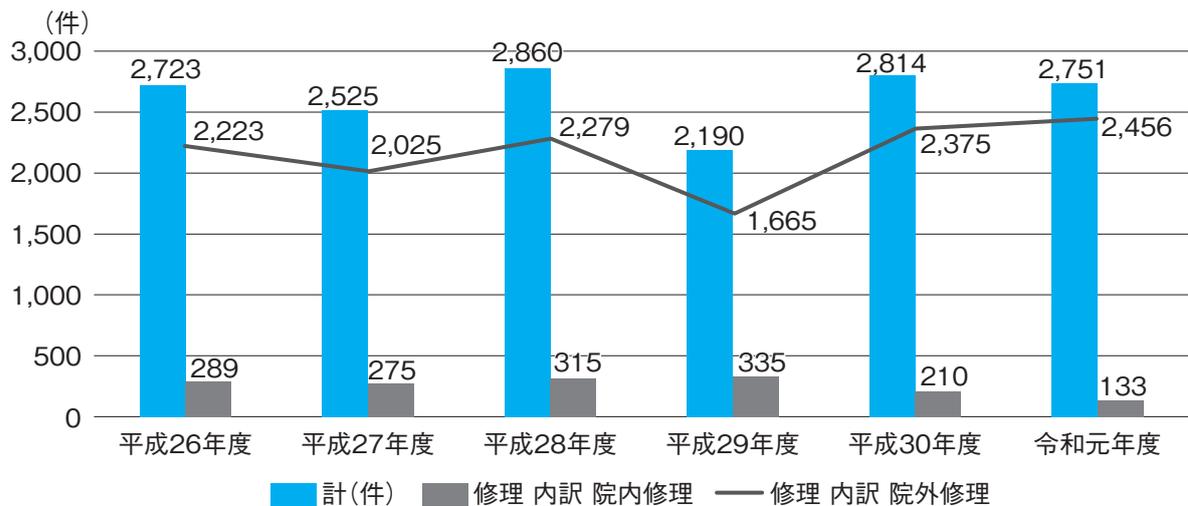
(件または回)

区分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
人工心肺装置業務（開心術）			
成人人工心肺症例数	32	27	35
小児人工心肺症例数	0	0	0
Off Pump 手術立会い症例数	1	1	1
計	33	28	36
補助人工心肺装置管理業務			
PCPS 症例数	8	6	6
ECMO 症例数	0	0	0
計	8	6	6
手術立会い業務(人工心肺業務以外)			
心外 自己血回収症例数	5	8	10
整形 自己血回収症例数	4	8	6
計	9	16	16
脳外ナビゲーション症例数	77	76	68
耳鼻いんこう科手術ナビゲーション症例数	8	9	6
計	85	85	74
泌尿器科ダヴィンチ症例数(前立腺)	62	61	65
泌尿器科ダヴィンチ症例数(腎部分切除)	22	8	1
泌尿器科ダヴィンチ症例数(膀胱切除)	10	-	-
婦人科ダヴィンチ症例数	134	64	7
外科ダヴィンチ症例数(胃・腸切除)	39	35	19
呼吸器外科ダヴィンチ症例数	2	-	-
計	269	168	92
内視鏡補助業務			
整形外科	49	-	-
婦人科	265	-	-
呼吸器外科	157	-	-
一般外科	411	-	-
泌尿器科	106	-	-
小児外科	27	-	-
計	1,015	0	0
眼科補助業務			
インフィニティ	579	-	-
コンステレーション	180	-	-
計	759		
生体腎移植術腎還流	4	4	4
献腎移植術腎還流	1	2	3
計	5	6	7

PM・CRT・ICD 新規植込 立会い	39	23	20
PM・CRT・ICD 電池交換 立会い	12	8	8
PM・CRT・ICD リード交換等 立会い	0	0	1
PM・CRT・ICD 設定術中/CT/MRI対応	102	63	60
ICM 新規植込 立会い	5	5	2
PM・CRT・ICD・ICM遠隔モニタリング件数	124	63	30
計	282	162	121
呼吸療法関連業務			
成人用 人工呼吸器回路組立件数	453	518	562
新生児用 人工呼吸器回路組立件数	295	321	184
計	748	839	746
NOガス使用症例数	11	7	5
N ₂ ガス 使用症例数	0	0	0
計	11	7	5

(3) 医療機器修理件数

①年度別修理件数



②修理処理件数内訳

部署名	修理件数	修理 内訳				
		院内修理	院外修理	修理分類別		
				新品交換	異常なし	修理不能
内科	26	4	20	2	0	1
小児科	6	0	5	1	0	0
外科	7	0	6	1	0	0
形成外科	10	0	9	1	0	0
整形外科	13	0	13	0	0	0
皮膚科	16	2	13	1	0	0
泌尿器科	14	1	12	1	0	0
産婦人科	10	0	10	0	0	0
耳鼻咽喉科	60	0	58	2	0	0
眼科	20	0	20	0	0	0
脳神経外科	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	20	0	19	1	0	0
外来治療センター	8	3	5	0	0	0
予防医療センター	1	0	1	0	0	0
入院支援センター	1	0	1	0	0	0
感染症管理センター	0	0	0	0	0	0
総合案内	23	6	15	2	0	0
総合生殖	1	0	1	0	0	0
東 2	74	5	63	5	0	0
西 2	89	4	78	7	0	0
東 3	53	5	37	10	0	1
西 3	118	4	109	5	0	0
総合周産期病棟	68	8	52	7	0	0
東 5	59	4	50	4	0	0
西 5	59	4	50	5	0	0
東 6	43	7	28	7	1	0
西 6	47	5	37	2	2	0
東 7	68	9	50	9	0	0
西 7	55	4	42	9	0	0
東 8	58	4	48	5	1	0
西 8	48	6	37	5	0	0
東 9	48	0	42	5	0	0
西 9	44	4	36	4	0	0
南病棟	70	7	57	5	1	0
放射線技術室	241	0	238	2	0	0
放射線治療室	0	0	0	0	0	0
画像検査(看護局)	59	0	59	0	0	0
中央臨床検査室	58	0	57	1	0	0
薬局	17	1	15	1	0	0
臨床工学室(ME)	130	12	116	2	0	2
血液浄化センター	14	0	13	1	0	0
新生児医療センター(NMC)	99	9	83	7	0	0
救命救急センター	32	2	24	6	0	1
中央滅菌材料室	164	0	156	8	0	0
リハビリテーションセンター	34	8	24	2	0	0

栄養管理室	2	0	2	0	0	0
医局	0	0	0	0	0	0
看護局	4	0	3	1	0	0
管理課	4	0	3	1	0	3
医事課	9	1	7	1	0	0
医療情報課	5	0	5	0	0	0
物品事務室	1	0	1	0	0	0
手術センター	641	4	626	11	0	0
医療安全	1	0	1	0	0	0
計	2,752	133	2,457	150	5	8

(4) 臨床工学室が管理する医療機器台数

* 各科で購入されているが、保守点検を臨床工学室が行っている機器を含む

管理機器名称	管理台数(台)
人工心肺装置	1
人工心肺用遠心ポンプコントローラー	1
心筋保護液供給装置	1
人工心肺用ヒータークーラーユニット	2
自己血回収装置	2
遠心ポンプ式補助循環装置(PCPS)	2
IABP	3
成人・小児用人工呼吸器	22
新生児用人工呼吸器	13
在宅用人工呼吸器(リース機含む)	70
成人用 NIPPV	7
小児・新生児用 NIPPV	10
可搬型人工呼吸器(パラパック)	2
パーカッションベンチレーター	2
MRI 対応型人工呼吸器	1
多人数用血液透析患者監視装置	17
手術ナビゲーションシステム	3
個人用血液透析患者監視装置	3
個人用 RO 装置	2
持続的血液ろ過透析装置	2
血漿交換装置	1
腹水濾過濃縮装置	1
除細動装置	16
AED	25
AED 解析装置	1
閉鎖式保育器(多機能型 4 台含む)	16
開放式保育器(インファントウォーマー)	12
搬送用保育器	2
輸液ポンプ	318
輸注ポンプ	304
経腸ポンプ	29
医薬品注入コントローラー(ドリップアイ)	15
PCA ポンプ	5
6 連式シリンジポンプユニット	2
セントラルモニター	31
ベッドサイドモニター	164
無線式送信機台数	169
携帯型受信機	14
心電計	25
血液成分分離装置	2
全身麻酔器	18
低圧持続吸引器	32
連続心拍出力計	12
体外式ペースメーカー(DDD 式を含む)	10
ネブライザーヒーター	60
手術支援ロボットシステム(ダヴィンチ Si)	1
計	1,451

(5) 人工呼吸器稼働台数及び平均装着日数

診療科別

診療科名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	平均装着 日数(日)
外科	56	304	5.4
脳神経外科	62	430	6.9
心臓血管外科	34	108	3.2
呼吸器外科	7	28	4.0
循環器内科	22	134	6.1
呼吸器内科	22	308	14.0
消化器内科	13	179	13.8
脳神経内科	14	308	22.0
血液内科	7	50	7.1
腎臓内科	1	1	1.0
糖尿病・内分泌科	2	14	0.0
整形外科	12	194	16.2
リウマチ科	0	0	0.0
泌尿器科	4	4	1.0
産婦人科	6	7	1.2
形成外科	0	0	0.0
皮膚科	2	42	21.0
耳鼻いんこう科	18	74	4.1
歯科口腔外科	5	9	1.8
小児科	37	838	22.6
移植外科	1	1	1.0
総合内科	1	7	7.0
計	326	3,040	9.3
前年度	412	2,351	5.7

※転科を含む

病棟別

病棟名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	平均装着 日数(日)
南 1	3	76	25.3
南 2	0	0	0.0
西 2	18	270	15.0
東 2	27	706	26.1
西 3/ICU	285	1,428	5.0
東 3	4	50	12.5
西 4	0	0	0.0
東 4	0	0	0.0
西 5	3	40	13.3
東 5	2	54	27.0
西 6	3	86	28.7
東 6	1	5	5.0
西 7	4	35	8.8
東 7	2	154	77.0
西 8	0	0	0.0
東 8	5	154	30.8
西 9	1	7	7.0
東 9	1	13	0.0
計	359	3,078	8.6
前年度	468	2,379	5.1

* 西病棟 3階から病棟転床された症例を含む

* 在宅人工呼吸療法中で入院した症例も含む

病棟別 人工呼吸器稼働(日常点検)台数の報告

病棟	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間365日計算			
	稼働 症例数 (件)	平均呼 吸器稼 働台数 (台)																										
南1	0	0	0	0	14	1	0	0	3	1	0	0	0	0	1	19	1	19	1	27	2	0	0	4	1	76	7	0.21
南2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
西2	3	1	52	4	60	2	11	2	27	2	20	3	22	2	14	3	11	4	18	2	12	2	20	3	270	30	0.74	
東2	42	8	16	2	54	5	109	11	36	4	39	4	70	6	70	4	68	7	59	6	69	6	74	7	706	70	1.93	
ICU	87	26	176	30	88	21	103	24	150	29	166	32	84	20	78	20	90	27	192	37	103	30	111	29	1428	325	3.90	
東3	4	1	0	0	0	0	13	1	30	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	50	5	0.14
西4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
東4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
西5	0	0	5	1	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	1	40	4	0.11
東5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	2	30	2	0	0	0	0	0	0	0	54	4	0.15
西6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	1	6	1	0	0	0	0	15	1	29	1	31	1	86	6	0.23	
東6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	5	1	0.01	
西7	3	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	26	1	2	1	35	5	0.10	
東7	0	0	0	0	26	1	31	1	31	1	30	1	31	1	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	154	6	0.42	
西8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
東8	0	0	0	0	27	1	9	1	11	1	30	1	29	1	14	2	19	1	11	1	4	1	0	0	154	10	0.42	
西9	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0.02	
東9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	1	1	1	0	0	0	0	0	0	13	2	0.04	
合計/日平均台数	139	37	249	37	274	33	277	41	296	41	291	43	242	31	226	34	238	43	330	51	244	42	272	43	3,078	476	8.41	

マスク式 人工呼吸器	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間		成人 小児 比較 (日)	
	稼働 症例数 (件)	使用 日数 (日)																										
総数	21	108	21	137	20	92	20	118	13	113	22	123	17	77	16	75	20	94	33	173	17	117	16	135	236	1362		
(内訳)成人	16	67	18	102	17	76	18	84	11	106	21	120	14	53	12	30	17	57	27	110	9	73	10	76	190	954	5.0	
(内訳)小児	5	41	3	35	3	16	2	34	2	7	1	3	3	24	4	45	3	37	6	63	8	44	6	59	46	408	8.9	
平均装着 日数(日)	5.1		6.5		4.6		5.9		8.7		5.6		4.5		4.7		4.7		5.2		6.9		8.4		5.8		5.8	

栄養管理室

1. 概要

栄養管理室では、患者の病状や状態、年齢に合わせた常食、やわらか食、糖尿食など40種類の食種を用意している。食事内容は医師と管理栄養士が検食で確認し、選択メニューなど喜んで食べていただける食事や、食事療法を行うための食事を提供して、QOLの向上に努めている。家庭でも栄養管理、食事療法が行えるよう、栄養指導や糖尿病教室などを通して、アドバイスなど支援をしている。

入院患者の栄養状態について、看護師とともにスクリーニングを行い、栄養管理計画書を作成し、医師が確認している。

栄養サポートチーム（NST）の事務局としてNST回診への同行、栄養治療実施計画書の作成など、患者の栄養状態の把握、改善を図り、治療に貢献している。また褥瘡対策チーム、呼吸療法ケアチームの一員として活動している。

栄養管理委員会で食事内容の検討や、NST運営委員会でNST活動を報告した。栄養治療についての知識、技術を習得するためNST定期教育講演会やNST教育カリキュラムを開催するなど、院内全体の栄養治療の水準向上を図っている。

（室長 山口 育男）

（文責 室長補佐 島 淳二）

「取得している認定資格等」

認定資格・専門資格	認定団体
栄養サポートチーム専門療法士	日本臨床栄養代謝学会

2. 活動報告

(1) 実績

区 分		令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度	
食種及び食数	一般食	418,096	405,065	417,871	
	特別食	加算食	133,603	124,933	135,999
		非加算食	4,507	4,713	4,514
		小計 (食)	138,110	129,646	140,513
	合計 (食)	556,206	534,711	558,384	

選択メニュー	実施日数 (日)		366	365	365	
	実施食種	一般食	常食	63,255	63,436	66,375
			軟菜食	23,909	23,305	23,362
			小計(人)	87,164	86,741	89,737
		治療食	糖尿食	14,396	13,873	15,600
			心臓食	5,363	4,831	5,267
			肝臓食	464	330	296
			すい臓B食	1,298	1,197	1,905
			小計(人)	21,521	20,231	23,068
	合計(人)		108,685	106,972	112,805	

栄養食事指導	外来患者栄養食事指導	857	1,060	1,045
	糖尿病透析予防管理	126	79	64
	入院患者栄養食事指導	1,544	1,618	1,340
	乳児栄養相談※		21	67
	小計 (件)	2,527	2,778	2,516
	糖尿病教室	137	110	139
	合計 (件)	2,664	2,888	2,655

※乳児栄養相談(加算無し)は、令和元年度から必要な場合は栄養指導として実施(加算有り)。

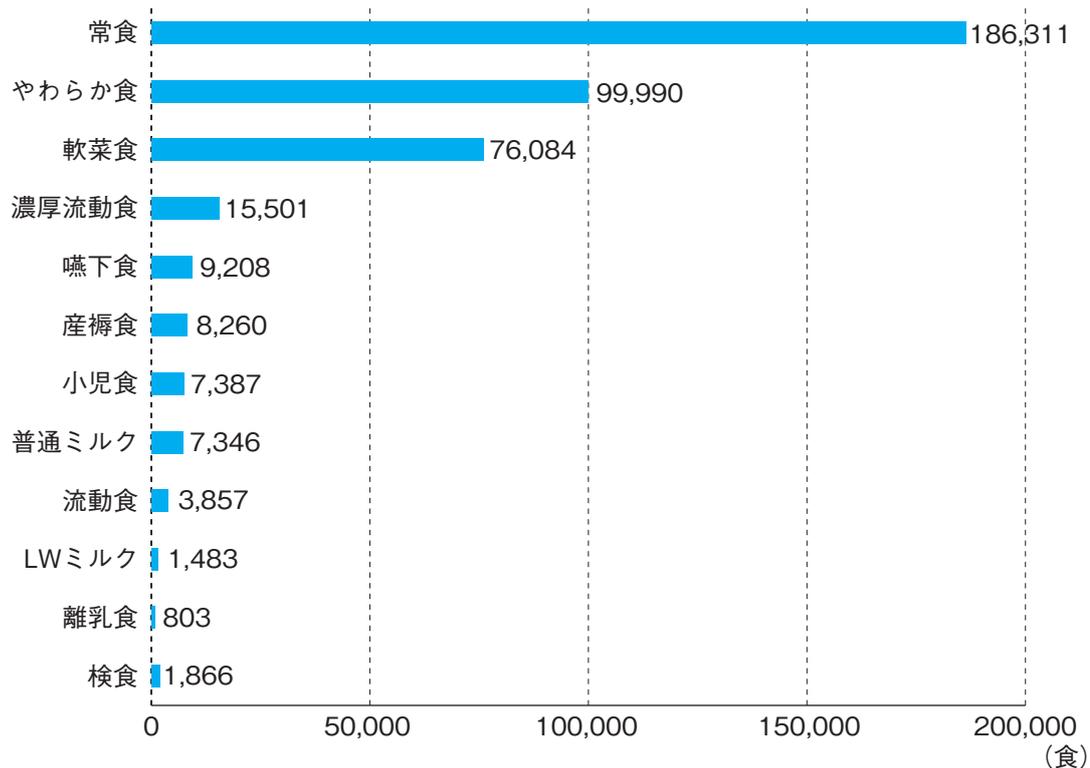
NST業務	栄養管理計画書 (件)	24,038	22,722	22,233
	栄養サポートチーム加算 (件)	992	814	740

NST定期教育講演会	実施回数(回)	7	7	6
	参加者(人)	441	405	301

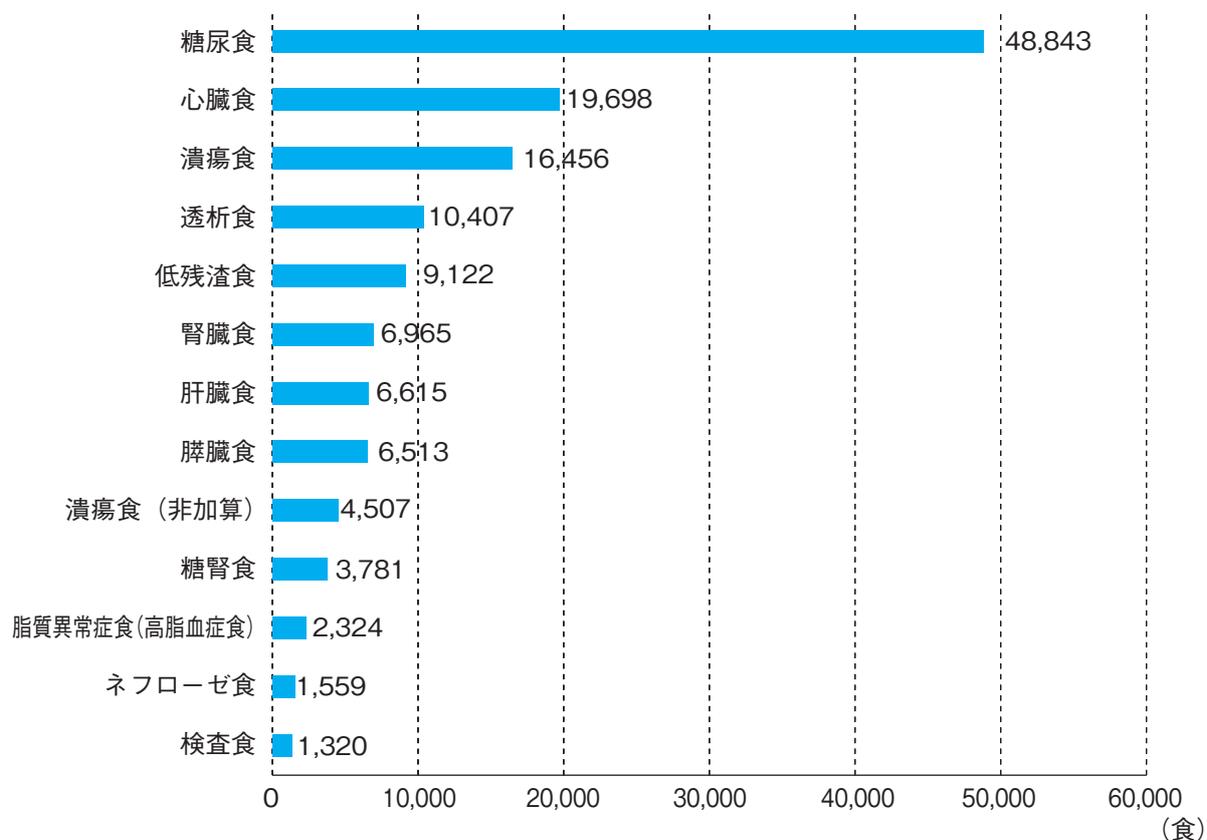
NST教育カリキュラム	実施回数(回)		1	1	1
	受講者(人)	院外	3	6	5
		院内	4	1	2

(2) 食種詳細

①一般食 418,096食



②特別食 138,110食



薬局

1. 概要

薬局は、薬の専門家として薬物治療および医療安全に貢献することを目標に各部局と連携し、医療チームの一員として業務を行っている。

中央業務として管理、注射、製剤・注射調製、調剤・麻薬、医薬品情報の5グループからなる基本組織と治験管理センターを設けている。

病棟では、薬剤管理指導業務、病棟薬剤業務を行い、患者への服薬指導や副作用発現のチェック、他の医療職への情報提供などを実施し、薬物療法における有効性・安全性の向上に貢献している。

手術室サテライト薬局では麻薬、筋弛緩薬などの薬品供給・管理、外来治療センターにおいてはがん患者の薬剤指導や副作用管理を薬剤師が常駐して実施している。

また、薬剤師の専門資格の取得を積極的に奨励し、がん指導薬剤師、がん専門薬剤師、感染制御専門薬剤師、感染制御認定薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師、栄養サポートチーム専門療法士、日本糖尿病療養指導士、スポーツファーマシスト等の資格を取得しチーム医療に寄与している。

(局長 石川 元章)

2. 活動報告

(1) 患者数及び処方箋枚数

区分		年度	令和元年度(対前年度)	1日平均	平成30年度(対前年度)	1日平均	平成29年度(対前年度)	1日平均			
外来	患者数(人)	480,575	101.8%	2,002	471,981	102.4%	1,934	461,026	100.1%	1,891	
	院内	処方箋枚数(枚)	49,511	105.2%	206	47,053	108.1%	193	43,512	98.2%	181
		平均投薬日数(日)	15.8	102.6%	/	15.4	100.7%	/	15.3	102.7%	/
	院外	注射処方箋枚数(枚)	21,148	108.8%	88	19,438	115.2%	80	16,867	101.7%	62
		処方箋枚数(枚)	158,918	98.8%	662	160,846	100.4%	659	160,201	100.4%	675
		平均投薬日数(日)	33.9	100.6%	/	33.7	98.3%	/	34.3	99.3%	/
入院	患者数(人)	259,438	103.1%	709	251,669	96.6%	690	260,435	100.1%	691	
	処方箋枚数(枚)	115,659	100.5%	316	115,096	98.7%	315	116,590	103.3%	313	
	平均投薬日数(日)	7.1	104.4%	/	6.8	93.2%	/	7.3	108.2%	/	
	注射処方箋枚数(枚)	132,946	104.9%	363	126,772	99.5%	347	127,439	101.1%	343	
備考		外来日数	240日	外来日数	244日	外来日数	244日	入院日数	366日	入院日数	365日

(2) 薬剤管理指導実績

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
薬剤管理指導件数(件)	16,199	21,987	24,909
麻薬加算件数(件)	347	345	659

(3) 無菌製剤処理料実績

	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
無菌製剤処理料件数(件)	15,881	14,318	12,476

(4) 外来及び入院の科別処方箋枚数

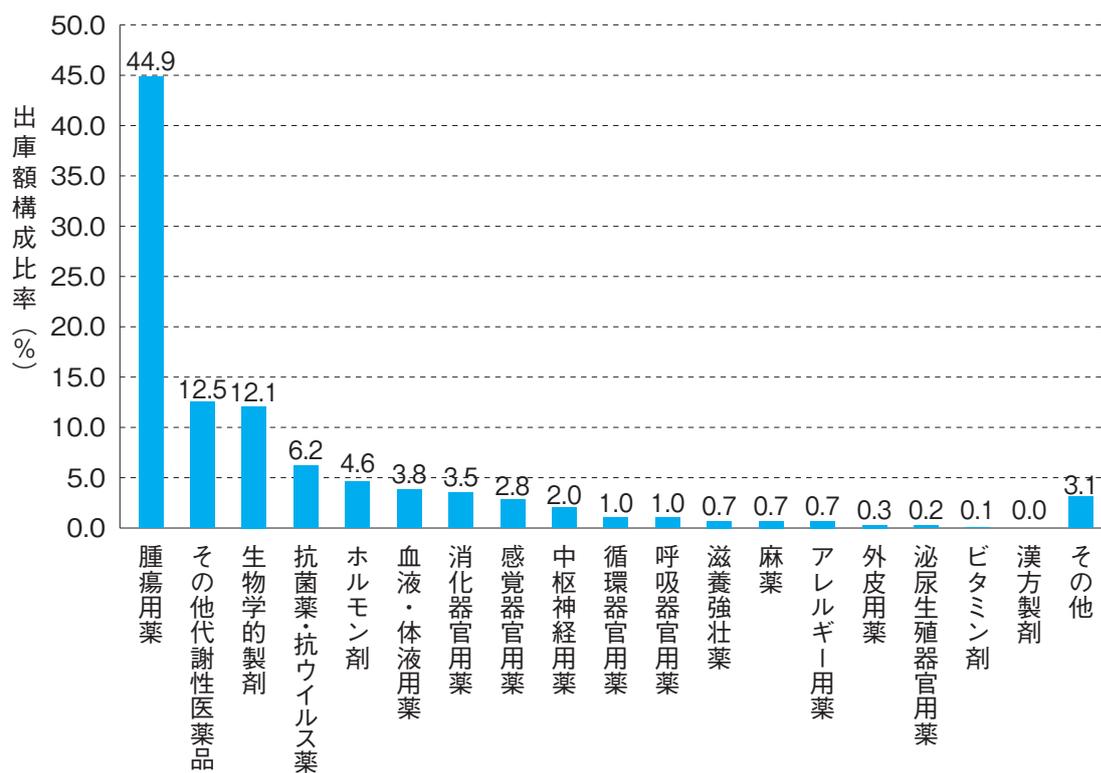
科名	外 来			入 院	
	処方箋枚数(枚)		全処方箋枚数に対する科別比率(%)	処方箋枚数(枚)	全処方箋枚数に対する科別比率(%)
	院 内	院 外			
総合内科	343	1,474	0.9	1,050	0.9
一般外科	4,897	8,237	6.3	10,523	9.1
整形外科	1,335	6,348	3.7	9,054	7.8
脳神経外科	336	3,532	1.9	6,961	6.0
産婦人科	1,945	7,457	4.5	8,951	7.7
小児科	2,734	11,188	6.7	5,016	4.3
耳鼻いんこう科	1,248	8,308	4.6	6,003	5.2
皮膚科	3,029	15,936	9.1	2,602	2.2
泌尿器科	1,493	9,601	5.3	5,993	5.2
眼科	1,126	9,511	5.1	1,100	1.0
放射線科	134	438	0.3	1	0.0
こころのケア科	641	2	0.3	0	0.0
形成外科	77	364	0.2	0	0.0
歯科口腔外科	549	4,471	2.4	1,281	1.1
リハビリテーション科	6	10	0.0	0	0.0
麻酔科	9	0	0.0	0	0.0
救急科	11,573	10	5.6	-	-
呼吸器内科	1,041	11,238	5.9	14,356	12.4
消化器内科	5,546	14,721	9.7	11,019	9.5
循環器内科	1,359	10,155	5.5	5,488	4.7
アレルギー内科	40	0	0.0	-	-
腎臓内科	1,113	4,758	2.8	3,279	2.8
糖尿病・内分泌内科	3,525	11,160	7.0	2,835	2.5
脳神経内科	447	6,073	3.1	7,516	6.5
血液・腫瘍内科	3,137	5,311	4.1	9,832	8.5
小児外科	19	333	0.2	24	0.0
移植外科	45	702	0.4	215	0.2
リウマチ科	1,437	5,976	3.6	268	0.2
脊椎外科	0	0	0.0	0	0.0
呼吸器外科	165	435	0.3	965	0.8
心臓血管外科	162	1,169	0.6	1,327	1.1
合 計	49,511	158,918	100.0	115,659	100.0
	208,429				

※処方箋枚数：外来の肛門外科は一般外科、臨床検査科は総合内科、心臓血管・呼吸器外科は呼吸器外科に含む。入院の膠原病内科は糖尿病・内分泌内科に含む。

(5) 抗がん薬及び TPN 調製本数

	区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
抗がん薬 (本)	入 院	7,146	7,142	6,643
	外 来	17,276	14,708	13,250
TPN (本)	入 院	1,137	657	570

(6) 薬効別出庫薬品



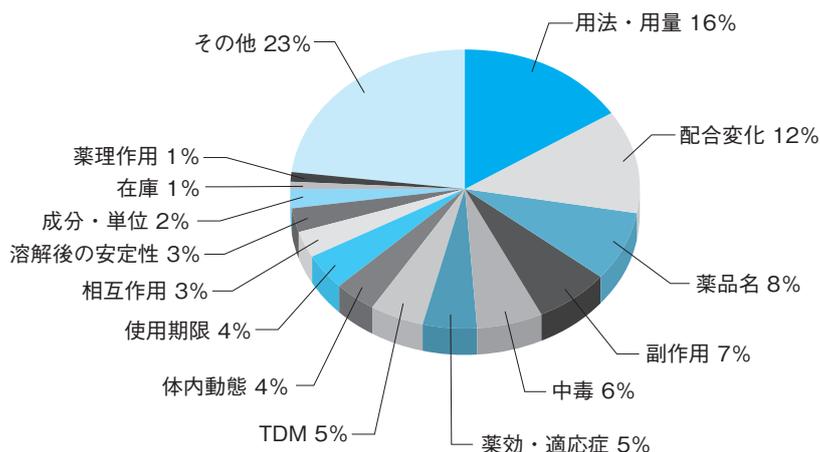
(7) 院内特殊製剤（一部抜粋）

剤形	製 剤 名 (出庫単位)	適 応 症 等	主な使用科	製剤量
坐剤・ 腔坐剤	チラージン S 坐薬50 μ g	甲状腺機能低下症(内服不可能時)	糖尿病・内分泌内科等	40本
	リファンピシン坐薬 450mg	結核治療薬(イレウス等で内服困難時)	呼吸器内科	88本
注射剤	眼科用アバスタチン注	加齢黄斑性症、血管新生緑内障	眼科	11本
	0.606% グルタルアルデヒド液 (52mL)	胸部外科手術による心膜固定	心臓血管外科	22本
	シリコンオイル眼注(10mL)	増殖硝子体網膜症の硝子体手術における眼内充填物	眼科	42本
	10% フェノールグリセリン注射液 (2mL)	難治性の会陰部痛、腰部の痛み	一般外科	9本
	滅菌墨汁(5mL)	内視鏡的點墨法	消化器内科	243本
	2% 滅菌パテントブルー注 (5mL)	悪性リンパ腫のリンパ管染色	皮膚科	15本
	眼科用マイトマイシン液(5mL)	繊維柱帯切除術(トラベクレクトミー)、小シャーレ中でMQAを細かく切ってMMC液に浸し、これを強膜弁下に正確に3分間留置	眼科	7本
点眼剤	0.5% デノシン点眼液(5mL)	サイトメガロウイルス角膜内皮炎	眼科	14本
	バンコマイシン点眼液(5mL)	MRSA 陽性患者への眼科感染症	眼科	61本
	0.125% ピロカルピン液(4mL)	瞳孔緊張症	眼科	14本
	1% ブイフェンド点眼液(5mL)	角膜真菌症	眼科	2本
	0.5% 硫酸アトロピン点眼液 (5mL)	診断または治療を目的とする散瞳と調節麻痺	眼科	19本
	0.25mg/mL プリリアントブルー G 点眼液(5mL)	黄斑円孔、黄斑前膜等に対するガラス体手術での内鏡膜剥離時の染色	眼科	170本
	2.5% 滅菌フルオレセイン Na 液 (20mL)	眼圧検査・検査時にベノキシール点眼液に調製後1回1~2滴点眼する	眼科	13本
	0.2% フルコナゾール点眼液 (5mL)	角膜真菌症、アカントアメーバ	眼科	5本
	1% ローゼベンガル点眼液 (5mL)	シューグレン症候群の診断、角膜上皮欠損部の確認	眼科	21本
内用剤	セレン内服液(10 μ g/mL)	セレン欠乏症	小児科	13,200mL
	P.Child - C (CN)	風邪・咳用申し合わせ処方	小児科	5,000g
軟膏剤	40%尿素軟膏	爪白癬の角質除去	形成外科	340g
	5% ヒドロキノン軟膏	メラニン色素の破壊・生成抑制	形成外科等	3,240g
	Mohs 氏ペースト	Mohs surgery における組織の固定	一般外科等	2,700g

外用剤	SAD液	円形脱毛症、疣贅	皮膚科	5,600mL
	0.05% キシロカインB液	鼻の中の吸引をする際、器具挿入の痛みを止める	耳鼻科	5,100mL
	鼓膜麻酔薬	鼓膜麻酔	耳鼻科	45mL
	1.5% 酢酸液	内視鏡観察時胃内散布(腫瘍との境界を明確にするため)	消化器内科	900mL
	3% 酢酸液	コルポスコピー下で行う子宮頸部の組織検査(癌検査用)	産婦人科	7,200mL
	耳水	耳垢栓塞の軟化・1日1～2回点耳	耳鼻科	125mL
	80% トリクロロ酢酸	焼灼作用によるアレルギー性鼻炎滅菌綿棒にて鼻腔内下鼻用介に塗布	耳鼻科	80mL
	2% 滅菌硝酸銀	粘膜の殺菌 or 収れん	小児科	335mL
	10% 滅菌硝酸銀	鼻出血症・口内炎への塗布	耳鼻科	100mL
	2% 滅菌 HPC 液	肉芽組織の清浄化と形成促進剤	血液・腫瘍内科等	6,500mL
	1% 滅菌 トライジンブルー液	内視鏡下の食道がんの精査 1回 2～3mL 使用する。(色素散布法)	消化器内科	80mL
	0.02% 滅菌ボスミン液	外傷・鼻・抜歯後など局所出血	耳鼻科等	42,900mL
	1% 滅菌ピオクタニン青液	消毒・手術野の線引き	手術室、その他	1,710mL
	0.05% 滅菌ヒビテングルコネート液	皮膚の創傷部位の消毒、手術室の消毒	眼科	4,900mL
	0.05% 滅菌ヒビテングルコネート青液	手術部位の消毒	手術室のみ	22,300mL
	1% ヨウ素ヨウ化カリウム液	カメラ室における検査薬	消化器内科	9,300mL

(8) 医薬品情報室への問い合わせ状況

総件数：779件



(9) 医薬品情報提供

医薬品集	1回
Drug Information News	12回
薬局ニュース	12回
緊急安全性情報・安全性速報	1件
適応症に関する情報	40件
使用上の注意に関する情報	43件
用法・用量に関する情報	17件
安全性情報	37件
薬物血中濃度解析	35件

(10) 持参薬鑑別

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
薬剤鑑別件数(件)	13,552	13,240	12,802

(11) 治験実施数(令和元年度)

治験／製造販売後	相	件数	予定症例数	実施症例数
治験(件)	ph I / II	2	4	0
	ph II	5	13	7
	ph II / III	2	8	6
	ph III	19	71	42

(12) 副作用報告

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
厚生労働省報告件数(件)	10	18	10
プレアボイド報告件数(件)	829	228	168

(13) 年間麻薬使用量（令和元年度）

薬品名	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	院内	院外	院内	院外	院内	院外
オピスコ注(本)	2	-	8	-	0	-
ペチジン塩酸塩注(本)	3	-	0	-	2	-
モルヒネ塩酸塩注 10mg(本)	1,348	-	2,011	-	3,171	-
モルヒネ塩酸塩注 50mg(本)	301	-	421	-	445	-
モルヒネ塩酸塩注 200mg(本)	65	-	241	-	347	-
フェンタニル注 0.1mg(本)	10,540	-	9,844	-	9,706	-
フェンタニル注 0.5mg(本)	6,135	-	5,958	-	6,178	-
アルチバ静注用 2mg(瓶)	3,636	-	3,884	-	3,727	-
アルチバ静注用 5mg(瓶)	2,280	-	1,784	-	1,780	-
ケタラール静注用 200mg(瓶)	542	-	512	-	611	-
オキファスト 10mg(本)	1,243	-	1,200	-	1,159	-
オキファスト 50mg(本)	804	-	444	-	442	-
プレベノン注 100mg シリンジ(本)	75	-	72	-	176	-
ナルベイン注 2mg(本)	207	-	-	-	-	-
ナルベイン注 20mg(本)	96	-	-	-	-	-
MS コンチン錠 10mg(錠)	2,315	1,096	3,335	1,251	1,941	624
MS コンチン錠 30mg(錠)	563	1,380	929	0	463	578
モルベス細粒 2% 10mg(包)	1,721	475	1,270	1,046	3,531	1,735
モルベス細粒 6% 30mg(包)	200	14	1,026	0	131	0
モルヒネ塩酸塩錠 10mg(錠)	2,377	5,556	2,471	1,804	1,225	40
オプソ内服液 5mg(包)	4,586	1,602	2,998	2,115	3,179	1,335
オプソ内服液 10mg(包)	2,626	3,295	2,980	416	3,405	795
オキシコンチン錠 5mg(錠)	-	-	20,595	23,917	30,195	41,807
オキシコンチン錠 20mg(錠)	-	-	3,126	4,326	5,556	4,828
オキシコンチン錠 40mg(錠)	-	-	1,339	2,730	2,172	5,175
オキシコドン徐放錠 5mg(錠)	26,182	49,316	12,833	15,736	-	-
オキシコドン徐放錠 20mg(錠)	4,996	10,582	1,838	2,316	-	-
オキシコドン徐放錠 40mg(錠)	3,059	3,771	516	238	-	-
オキノーム散 2.5mg(包)	5,300	6,624	5,565	5,305	7,289	6,193
オキノーム散 5mg(包)	5,254	8,127	5,681	4,514	6,422	6,298
オキノーム散 10mg(包)	8,599	6,237	4,810	5,087	5,890	6,502
イーフェンバツカル錠 50μg(錠)	492	20	160	293	347	0
イーフェンバツカル錠 100μg(錠)	247	20	525	130	483	135
イーフェンバツカル錠 200μg(錠)	702	50	765	590	359	536
タペンタ錠 25mg(錠)	1,474	168	424	14	232	0
タペンタ錠 100mg(錠)	84	52	173	0	614	0
メサペイン錠 5mg(錠)	75	0	54	21	91	84
メサペイン錠 10mg(錠)	183	0	678	840	366	1,071
ナルサス錠 2mg(錠)	1,128	732	-	-	-	-
ナルサス錠 6mg(錠)	608	308	-	-	-	-
ナルラピド錠 1mg(錠)	694	873	-	-	-	-
ナルラピド錠 2mg(錠)	444	310	-	-	-	-
アンバック坐薬 10mg(本)	124	0	220	10	317	40
アンバック坐薬 30mg(本)	0	0	0	0	96	0
フェントステープ 0.5mg(枚)	174	37	-	-	-	-
フェントステープ 1mg(枚)	3,648	1,510	3,668	2,811	3,634	3,389
フェントステープ 2mg(枚)	4,995	1,806	4,099	2,616	4,601	3,889
フェントステープ 6mg(枚)	1,544	658	2,389	348	1,803	699
アヘンチンキ(mL)	2,347.0	2,979.0	2,806.0	3,660.0	865.0	2,229.0
10%塩酸コカイン液(mL)	1.0	0	15.0	0	34.0	0

* 年度の設定は麻薬関係法令上、平成30年10月1日～令和元年9月30日までとする。

看護局

1. 概要

看護局の重点目標として、以下の3つを掲げ、活動に取り組んできた。

- 1) 良い看護をするために、それぞれの立場で行動する。
- 2) 各部署で施設基準を遵守できる働き方改革に向け検討し、改善する。
- 3) お互いが信頼できる職場環境をつくり、離職率を減らす。

2019年度は、看護局委員会、師長を中心に看護目標やチーム活動を実施し、目標達成に向けて取り組むことができた。各委員会の部会としてリンクナースをおき、現場力の向上に向け活動した。目標はそれぞれの立場や役割で活動することで看護の質向上につながりほぼ達成となった。次年度の働きやすい勤務体制の構築や時間外労働の削減に向けて取り組む足掛かりとなった。

(局長 間瀬 有奈)

2. 活動報告

(1) 職員の動向

職員数 936人 助産師 37 (2) 人 看護師 816 (79) 人 准看護師 10 (8) 人
看護補助者 58人 助手 7人 保育士 2人
退職者 58人 (定年退職者 5人含む)

(2) 看護師確保対策

①採用試験

2019年度新規採用試験 3回実施 (新卒60人)

2019年度中途採用試験 (9人)

②ガイダンス (2回実施 56人参加)

日 程	開 催 名	参加人数
2020年1月19日	マイナビ「看護師就職ガイダンス」	46人
2020年2月16日	中日ネクスト「看護師就職ガイダンス」	10人

③インターンシップ

開催期間	研 修 名	人 数
2019年8月5日～23日	夏のインターンシップ研修	31人

④施設見学 総数22人

⑤学校訪問 4月25日、26日 5月7日 (3日間) 11校

⑥看護師再就職チャレンジ支援研修 (6月17日～6月19日) 4人参加

⑦看護体験

高校生 ナースセンター開催 35人 自開催 2019年8月（2回開催） 61人
中学生職場体験 11人

⑧育児休業中職員向けに「ぶっちゃんけママトーク」開催 21人

(3) 認定看護師

①認定看護師数（25人）

感染管理（3） 救急看護（2） 皮膚・排泄ケア（3） がん化学療法看護（2）
がん性疼痛看護（2） 緩和ケア（1） 集中治療ケア（1） 新生児集中ケア（1）
摂食・嚥下障害看護（1） 脳卒中リハビリ看護（1） 認知症看護（1） 訪問看護（1）
透析看護（1） 手術看護（1） 看護管理（1） 糖尿病看護（1） 小児救急看護（1）
がん放射線療法看護（1） 乳がん看護（1）

②2019年度 認定看護師活動実績（資料1）

(4) 教育活動

①クリニカルラダー認定者数

レベルⅠ 560人 レベルⅡ 228人 レベルⅢ 18人

②2019年度 研修受講状況（資料2）

③病棟看護補助者研修 7回 159人参加

(5) その他

医療安全管理者養成研修修了者 13人

専任看護教員養成講習会修了者 16人

愛知DMAT隊員養成研修修了者 3人

災害派遣医療チーム研修修了者（日本DMAT隊員） 7人

愛知県看護協会災害支援ナース登録者 18人

日本DMATインストラクター 2人

(資料1) 2019年度 認定看護師活動実績

【感染管理】

1) 実践

- ① 医療関連感染サーベイランス（耐性菌・ウイルス、CLABSI、CAUTI、VAP、SSI）
- ② 職業感染予防対策の推進（抗体価測定、ワクチン接種事業、他）
- ③ 職員健康外来の開催と診療介助（発生件数82件 受診者のべ人数91人）
- ④ ICトピックスの配信
- ⑤ 院内感染対策委員会への参加と運営
- ⑥ 院内感染対策チーム（ICT）/抗菌薬適正使用支援チーム（AST）活動（週1回ラウンド）
- ⑦ 東三河地区感染管理担当者座談会：座長（計2回）
- ⑧ 学会発表：第58回全国自治体病院学会
- ⑨ 学会発表：第35回日本環境感染学会・学術集会

2) 指導

- ① 新規採用者オリエンテーション：講義
- ② 基礎看護技術演習：講義&演習
- ③ 薬学生への感染対策：講義、院内ラウンド（計3回）
- ④ セーフティーリンクナース会：講義
- ⑤ 再就職チャレンジ支援研修：講義
- ⑥ 中途採用者オリエンテーション：講義（計5回）
- ⑦ 豊橋市立看護専門学校 看護第1.2科：講義（計30時間）
- ⑧ 豊橋准看護学校：講義（2クラス計10時間）
- ⑨ 院内感染対策講習会：講義（計2回）
- ⑩ 救急医学講座（初期研修医指導）：講義
- ⑪ NST教育カリキュラム：講義
- ⑫ 病棟勉強会：講義（3病棟）
- ⑬ 病棟助手研修：講義・演習

3) 相談

年間相談件数：313件/年（看護師55.6%、医師16.9%、他27.5%）

【皮膚・排泄ケア】

1) 実践

- ① 褥瘡ラウンド（週1回：376件）
- ② 褥瘡フォローアップ回診（週1回：336件）
- ③ 褥瘡ハイリスク患者のリスクアセスメント・予防計画書立案・ラウンド・評価
- ④ ストーマ外来でのケア（週3回：700件）
- ⑤ 排尿ケアラウンド・カンファレンス（週1件：184件）

2) 指導

- ① 褥瘡勉強会（講義）：3回
- ② 褥瘡ミニレクチャー勉強会（実践）：4回
- ③ 褥瘡ラウンドを通して、褥瘡予防・褥瘡ケアについてスタッフへ指導
- ④ 基礎看護技術演習：講義・演習「安楽な体位の工夫」

- ⑤ NST教育カリキュラム：褥瘡ラウンド同行・講義
- ⑥ ストーマプロジェクトチーム勉強会：4回
「ストーマサイトマーキングの実際」
「症例検討会①」「症例検討会②」「症例検討会③」
- ⑦ ストーマ外来に病棟看護師が参加し、ストーマ指導：2件
- ⑧ 再就職チャレンジ支援研修：講義・演習

3) 相談

年間相談件数：97件/年

【がん性疼痛看護】

1) 実践

- ① 緩和ケアチームラウンド（712件/年）
- ② 緩和ケア外来（102件/年）
- ③ がん患者指導管理IにおけるIC同席（14件/年）
- ④ がん患者指導管理IIにおける心理的支援（14件/年）
- ⑤ がん相談支援センターにおけるがん相談（128件/年）
- ⑥ がん患者サロン（9回）
- ⑦ 他部署倫理カンファレンスへの参加（2回/年）
- ⑧ 他部署の退院前カンファレンスへの参加（2回/年）

2) 指導

- ① 緩和ケアリンクナース会（2回/年）
- ② 病棟勉強会「ACPについて」（西病棟9階）
- ③ 病棟勉強会「PCAポンプの使用法」（西病棟2階）
- ④ 病棟勉強会「イーフェンバカル錠の使用法」（西病棟5階）
- ⑤ がん看護セミナー（2回/年）
 - ・どうにかしたい、終末期がん患者の倦怠感のケア
 - ・もしバナゲーム「人生の最期を考えるきっかけ作り」

3) 相談

年間相談件数：13件/年

【緩和ケア】

1) 実践

- ① 緩和ケアチームラウンド（712件/年）
- ② 泌尿器科病棟がん患者の全人的ケア、家族ケア

2) 指導

- ① 緩和ケアリンクナース会（2回/年）
- ② 看護学校2科「消化器疾患患者の看護、胃がん、大腸・直腸がん、乳がん患者の看護」講義（7時間）
- ③ がん看護セミナー（2回/年）
 - ・どうにかしたい、終末期がん患者の倦怠感のケア
 - ・もしバナゲーム「人生の最期を考えるきっかけ作り」
- ④ 新人研修「緩和ケアにおける医療用麻薬の使用法と管理」講義

⑤ ケアの質向上を目指した病院と地域の連携のあり方：家族支援の事例検討会
トピックス「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)～いのちの終わりについての話し合い～」
講義

⑥ 病棟勉強会「倫理カンファレンスについて」東病棟5階

⑦ 病棟勉強会「がん患者とのコミュニケーション・STAS-Jについて」（西病棟8階）

3) 相談

年間相談件数：5件/年

【脳卒中リハビリテーション看護】

1) 実践

① 脳卒中再発予防指導（有効床や依頼患者対象）29件

② 高齢患者のポジショニングと移乗（看護サービス向上委員会スキルアップ部会）

③ 和みケア担当（看護サービス向上委員会スキルアップ部会）2回

④ 院内デイケア担当（第2水曜日/1回/月）

⑤ 一次脳卒中センター多職種カンファレンス参加

2) 指導

① 看護学校2科講義「脳神経看護」（7時間）

② 南病棟講義「脳神経看護・脳画像の見方」30分2回

③ 脳卒中発症予防啓蒙活動（東三河ふれあい看護フォーラム「血管年齢ブース」）

④ 新城市民病院祭「脳卒中予防寸劇・看護相談」

3) 相談

年間相談件数：4件/年

① 脳梗塞で高次脳機能障害を生じた妊婦への対応について（4階病棟）

② 重度構音障害患者の脳梗塞再発の不安への対応（東病棟9階）

③ 麻痺を生じた患者の障害受容への関わり（面談・ミラー療法の提案）（東病棟9階）

④ 脳梗塞患者の家族の退院後の生活についての情報提供（東病棟5階）

【糖尿病看護】

1) 実践

① 糖尿病内分泌内科病棟での糖尿病教育入院・糖尿病合併症患者の看護介入

② 院内インスリンシステム看護部門の運用検討

③ 糖尿病対策委員会・サポートチーム会の運営

④ 糖尿病内分泌内科外来での療養指導（1回/週 65件）

2) 指導

① 新人基礎看護技術研修「血糖測定、インスリン自己注射」講義・演習

② 病棟学習会「SAP療法・ボラスウィザード・カーボカウントについて」講義

③ 看護学校講義「内分泌・代謝疾患の看護」（10時間）

④ 准看護学校講義「内分泌・代謝疾患の看護」（6時間×2クラス）

⑤ 再就職チャレンジ研修「血糖測定時の注意事項」

3) 相談

年間相談件数12件/年

①インスリン自己注射指導 6件

- ② 自己血糖測定指導 1件
- ③ フットケア 3件
- ④ 低血糖・シックデイ指導 3件
- ⑤ 間食時の対応 1件
- ⑥ 1型糖尿病の食事について 1件

【小児救急看護】

- 1) 実践
- 2) 指導
 - ① 病棟勉強会「小児一次救命処置演習」(東病棟2階)
 - ② 病棟勉強会「災害対応」(東病棟2階)
 - ③ 病棟勉強会「小児2次救命処置演習」(東病棟2階)
- 3) 相談
 - 子どもの権利擁護について(東病棟2階)

【救急看護】

- 1) 実践
 - ① 救命病棟における看護実践を通し現場の質の向上に努めた
 - ② 災害看護の知識、技術の習得、向上の為講習会を開催し講義、演習を行なった
 - ③ 院内BLS・ICLS研修ではインストラクターとして参加し急変時の対応についての知識・技術の普及を図りインストラクターの育成にも努めた
 - ④ 学会発表・支援(日本災害医学会:1件演題発表)
 - ⑤ 東海地区准看護師のつどい「災害看護研修」講師
- 2) 指導
 - ① 救命災害リンクナース会にて講義 演習(災害時のマネジメント 患者急変時のマネジメント KIDUKI研修)
 - ② 新人研修「12誘導心電図」演習 「フィジカルアセスメント」講義
 - ③ 院内BLS ICLS講習 インストラクター育成
 - ④ 看護学校第1科「災害看護」講義
 - ⑤ 病棟看護師KIDUKI研修「患者の診かた 急変させない」計2回、救命災害リンクナースの育成
- 3) 相談
 - ① 年間相談件数:1件

【認知症看護】

- 1) 実践
 - ① 認知症や高齢により心身の安寧が得られていない患者に対する症状マネジメント
 - ② 高齢者のせん妄患者に対する症状マネジメント
 - ③ 認知症のある患者の家族支援
 - ④ 認知症サポートチームラウンド(週1回および適宜臨時220例)
 - ⑤ 院内デイケア運営(23回開催、延べ149名参加)
 - ⑥ 看護サービス向上委員会活動(看護スキルアップ部会リンクナースの支援、和みケア運営、ミニレクチャー開催)

2) 指導

- ① 認知症サポートチームラウンドを通して、認知症看護についてスタッフに指導
- ② 看護スキルアップリンクナースの活動について指導
- ③ 市民に対する認知症啓蒙活動（東三河ふれあい看護フォーラム「脳年齢ブース」）
- ④ 認知症看護勉強会－困難事例から学ぶ－（豊川さくら病院看護スタッフ）
- ⑤ 認知症対策委員会主催勉強会（3回）
 - ・「医師・看護師・コメディカルに知ってほしい口腔の知識と最新の口腔ケア手技」
 - ・「認知症とせん妄～不穏時、不眠時の治療薬について～」
 - ・「ロールプレイで学ぶ」

3) 相談

年間相談件数：9件/年

【摂食・嚥下障害看護】

1) 実践

- ① 認定看護師嚥下回診（週1回）介入件数：36件
- ② 病棟内の摂食・嚥下障害患者の把握と定期的な評価
- ③ 嚥下カンファレンス（月1回）
- ④ 院内デイケア内での嚥下体操の実施（月1回）

2) 指導

- ① NST教育カリキュラム「摂食・嚥下」の講義
- ② スキルアップ委員会リンクナース会「高齢者の服薬管理」の講義
- ③ 田原市福祉の集い「フレイル予防について」一般市民への指導
- ④ NST定期教育講演会「摂食機能療法について～看護師の視点から～」

3) 相談

年間相談件数：2件/年

- ① 誤嚥リスクが高いが経口摂取を希望している患者の介入について（西病棟7階）
- ② 自宅退院する患者の食事形態について家族への指導（東病棟7階）

【がん化学療法看護】

1) 実践

- ① 化学療法に伴う副作用の症状マネジメントに関する院内ラウンド（8部署）
- ② 外来化学療法を受ける患者・家族への曝露対策への指導（外来治療センター）

2) 指導

- ① フレッシュ研修：「抗がん薬の取り扱い」講義
- ② がん看護セミナー：「自信が持てる！CVポートの管理」（2回/年）

3) 相談

相談依頼件数：10件/年

- ① 薬剤による口腔粘膜炎出現時のケア（西病棟8階）
- ② 抗がん薬の確実な投与方法について（西病棟7階）
- ③ 抗がん薬投与後の便秘・下痢に対する看護介入（東病棟7階）
- ④ 治療による副作用対策について（末しょう神経障害・筋肉痛・皮疹など）（東病棟9階）
- ⑤ ハーセプチン・XP療法における看護介入（西病棟6階）

- ⑥ 化学療法後の食思不振と疼痛コントロールについて（東病棟6階）
- ⑦ 化学療法後の食思不振と吐き気へ看護介入（西病棟5階）
- ⑧ パクリタキセル投与後の皮疹への看護介入（東病棟5階）
- ⑨ 大腸がん治療におけるインフューザーの注意点と患者指導について
- ⑩ CVポート穿刺困難患者へ穿刺方法

【手術看護】

- 1) 実践看護サービス向上委員会活動（看護スキルアップ部会リンクナースの和みケア、講義）
 - ① 日本手術看護学会 認定看護師相談ブース担当
- 2) 指導
 - ① 豊橋市立看護専門学校看護第1科、第2科の講義（各10時間）
- 3) 相談
 - 相談依頼件数：1件/年
 - ① 部署内での手術体位や皮膚保護材、術後合併症についての相談

【訪問看護】

- 1) 実践
 - ① 在宅療養支援 32件
 - ② 退院前訪問 15件
 - ③ 退院後訪問 24件
- 2) 指導
 - ① 「退院支援・退院調整について」医療と生活をつなぐリンクナース会
 - ② 「退院支援について」ラダーⅡ
- 3) 相談
 - 介護保険について（西病棟9階）

【集中ケア】

- 1) 実践
 - ① 呼吸ケアサポートチーム活動（RST）
 - 人工呼吸器装着患者の早期呼吸器離脱を目指した活動
 - ② 西病棟3階（集中治療室）での看護実践を通し、提供する看護の質的向上を目指す
- 2) 指導
 - 新人研修
 - 「呼吸と循環のアセスメント・体位ドレナージ」講義
 - 「心電図」「フィジカルアセスメント」講義・演習
- 3) 相談
 - 相談依頼件数：3件/年
 - 人工呼吸器装着患者に対する看護ケアについて

【透析看護】

- 1) 実践
 - ① ICU入室中のシャント肢切断術後の透析患者のシャント観察とケア

- ② ICU入室中の蘇生後脳症患者家族への透析開始についての支援
- ③ 脳腫瘍摘出術後の腹膜透析患者の病棟訪問し出口部ケア
- ④ ICU入室中の腹膜透析患者の出口部ケア
- ⑤ ICU入室中の透析導入患者への導入指導
- ⑥ ICU入室中のCPA蘇生後に腹膜透析から血液透析へ移行した患者のケア
- ⑦ 拳児希望がある糖尿病性腎症透析患者への支援

2) 指導

- ① シヤント閉塞事例を振り返ってのシヤント管理学習会（東病棟9階）

3) 相談

- ① CHDF患者の薬剤投与経路について（西病棟3階）
- ② 入院中の腹膜透析患者の出口部ケアや腹膜透析ケア（西病棟2階、東病棟3階、西病棟3階）
- ③ シヤント管理とケア・観察について（東病棟9階、西病棟3階）
- ④ 入院中の腹膜透析導入前患者の出口部ケアと観察（東病棟9階）

【新生児集中ケア】

1) 実践

- ① 超低出生体重児の蘇生、初期ケアのシミュレーション
- ② 新生児医療センターの看護実践を通しアセスメント能力、看護の質向上

2) 指導

- ① 新生児医療センターにおける感染管理
- ② 新生児のポジショニング（新生児医療センター）
- ③ 新生児看護（豊橋市立看護専門学校第1科授業）
- ④ ファミリーセンタードケア（赤ちゃんリハビリ研究会）

3) 相談

- ① NIV-NAVA管理中のポジショニング
- ② シーネ固定による褥瘡予防
- ③ 超低出生体重児の皮膚管理

【放射線看護】

1) 実践

- ① 放射線治療患者看護（新患+再患）：655件
- ② 東病棟7階ラウンド：（週1回）
- ③ 婦人科・放射線科合同カンファレンス：（月1回）

2) 指導

- ① 第70回豊橋がん診療フォーラム「緩和的放射線治療と看護」講演
- ② がん看護セミナー第4弾「知りたい！放射線治療看護の虎ノ巻」講義
- ③ 病棟ラウンドで「新規患者の照射部位と出現する副作用」についてスタッフへ指導
- ④ 放射線科スタッフへ「皮膚炎の症状とその保清ケアの方法」について勉強会

3) 相談

年間相談件数：3件/件

- ① 頸胸部放射線治療中のCVルート固定部位について（西病棟6階）
- ② 頭頸部放射線治療に伴う皮膚炎を最小限にするための保護方法について（東病棟7階）

- ③ 自己導尿中の患者に対する膀胱留置カテーテル挿入時期と挿入期間について（東病棟9階）

【乳がん看護】

1) 実践

- ① 院内での乳がん治療に伴う看護の実際の把握と改善点についての検討
- ② 外来での診断名告知や術前の説明に同席し、意思決定支援の実施
がん患者指導管理料介入件数19件
- ③ 病棟内の乳がん患者へラウンドを実施
- ④ がん患者サロン運営委員会に参加、乳腺サロンの開始
- ⑤ 院内売店に置いてある下着の変更

2) 指導

- ① 乳腺サロンにて「これからの乳がん看護、乳がん看護認定看護師の役割について」乳がんサバ
イバーとその家族へ指導
- ② がん看護セミナー（1回/年）「浮腫について」

3) 相談

年間相談件数：2件/件

- ① ステージⅣの治療への後悔を抱える乳がん患者への介入（西病棟5階）
- ② 術後の下着に関する不安への介入（西病棟5階）

(資料2) 2019年度研修受講状況

	日付	研修名	延参加人数	内 容
フ レ ッ シ ユ	4/8 4/10 4/11 4/12	情報研修	60名	・電子カルテの操作方法
	4/15 4/17 4/18 4/19 5/7	基礎看護技術研修 (5日間)	295名	・感染対策 検査について 中央滅菌材料室見学 ・膀胱留置カテーテル オムツ交換 ・採血 血糖測定 インスリン注射 ・呼吸循環のアセスメント 酸素 吸引 体位ドレナ ージ ・皮下、筋肉内注射 点滴静脈内注射法 ・安楽な体位の工夫 外傷性の止血 ・重症度、医療・看護必要度 栄養評価 (NST)
	5/14 5/21 5/28 6/4 6/11 6/18 6/25	フィジカルアセスメント 心電図研修	59名	・12誘導心電図計の正しい電極装着と操作方法 ・フィジカルアセスメント
	5/17	高齢患者の看護 高齢者と薬	59名	・高齢者の特徴 ・高齢患者に対する薬物療法の注意点と副作用
	5/30	新人フォロー振り返り研修	56名	・働き始めて困ったこと、SBARを用いた報告の仕方
	6/6 7/4 8/1 9/5 10/3 11/7	BLS 研修	59名	・気道確保、胸骨圧迫などの蘇生方法 ・AED（自動体外式除細動器）の使用法
	6/19	ME 研修①	59名	・輸液ポンプと輸注ポンプの取り扱い
	7/10	消防研修	59名	・院内消防設備の講義と消火用散水栓・消火器の取扱い
	7/10	入職3ヶ月フォローアップ	59名	・患者情報の整理と業務の組み立て方(グループワーク)
	8/26	医療安全①	57名	・KYT ・新人が起こしやすいインシデントと改善策
	8/26	リフレッシュ研修	57名	・リフレッシュペアリングヨガ
	9/2	輸血・血液製剤の取り扱い	56名	・輸血、血液製剤の取り扱いと輸血時の看護
	9/2	緩和ケアにおける麻薬の 管理	56名	・麻薬の種類、用法の理解と管理 ・麻薬使用時の看護
	10/25 10/28 10/29	シミュレーション研修	54名	・多重課題シミュレーション ・優先順位の考え方と対応
	11/13	急変時の対応	50名	・胸骨圧迫の仕方とAEDの操作 ・救急カート内の物品の使用法 挿管チューブ固定 方法 ・心電図装着方法と危険波形の理解
	12/4	ME 研修②	50名	・人工呼吸器の取り扱いと看護
	1/20	看護過程の展開	50名	・看護過程の基本的な考え方
	1/20	抗がん剤の取り扱い	50名	・抗がん剤の安全な取扱いと看護
	2/17	プリセプターシップ	53名	・一年の振り返りと次年度への課題
	2/17	医療安全②	53名	・チームワークを活用した医療安全対策

レベル I	6/17	退院支援 I	32名	・退院支援の基礎知識 ・退院支援に向けた看護ケア
	7/8	フィジカルアセスメントII	46名	・生命維持の基本とショックおよび急変時の対応 ・患者の変化を予測した情報収集と判断
	9/30	看護ケアのマネジメント	43名	・看護ケアと看護サービス ・看護ケアのマネジメントの実際
レベル II	6/24	リーダーシップ	32名	・リーダーシップに必要な能力と理論
	7/29	退院支援II	36名	・退院支援とチーム医療、多職種連携
	8/14	人材育成〈1〉	45名	・人材育成に必要な能力
	9/9	フィジカルアセスメントIII	33名	・患者の症状と状況からの意図的な情報収集、判断と対応
	11/11	看護理論	25名	・看護の主要概念をふまえた看護リフレクション ・看護観の明確化
レベル III	7/8	問題解決アプローチ	26名	・問題抽出の手法 ・問題解決策立案に向けてのプロセス
	12/9	コンフリクトマネジメントI	47名	・コンフリクトとは ・コンフリクトのプロセスと対応
レベル IV	8/5	SWOT 分析	13名	・SWOT分析の手法の理解
	11/25		16名	
	10/21	コンフリクトマネジメントII	30名	・コンフリクト ・協調的アプローチの方法
実地指導者	6/10	実地指導者研修	42名	・実地指導者の役割認識と効果的な指導 ・新人が育つ環境作りについて ・効果的な指導について
	10/7		39名	
	3/9		45名	

レベル	研修数	延べ人数
フレッシュ	39	1,351名
レベル I	3	121名
レベル II	5	171名
レベル III	2	73名
レベル IV	3	59名
実地指導者	3	126名
総合計	55	1,901名

1. 概要

東三河南部地域医療圏は、県が示した 2025 年の必要病床数に対し高度急性期・急性期・慢性期病床が過剰、回復期病床が不足していることから、病床機能の分化・強化・連携を今後もより一層推進していく必要がある。

こうした状況の中、当院は、東三河の急性期医療を担う中核病院として、最新医療機器を導入したハイブリッド手術室やダヴィンチ専用手術室を増室した手術センター棟を稼働させ、高度専門医療のより一層の充実を図った。

本年度の主な事業としては、入退院支援センターの施設改良工事を行うとともに、入退院支援システムを導入し、入退院支援体制の強化及び業務の効率化を図った。また、外来患者の待ち時間短縮のため、内科診察室等改修工事にかかる実施設計を行ったほか、建物の長寿命化を図るため、診療棟及び病棟の外壁改修等にかかる実施設計を行った。さらに、平成 25 年度に策定した市民病院地震対策業務継続計画について、近年の災害状況や最新の施設状況等を反映させ改訂した。

(局長 朽名 栄治)

2. 活動報告

(1) 収益的収入及び支出

区分		令和元年度			平成30年度			平成29年度				
		金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)		
収益的 収入	医業 収益	入院収益	17,729,834,798	58.3	54.3	16,583,528,220	60.1	55.5	16,370,305,392	61.9	57.5	
		外来収益	11,389,553,143	37.5	34.9	9,777,592,324	35.4	32.7	8,796,981,515	33.3	30.9	
		その他医業収益	1,291,785,612	4.2	4.0	1,246,517,457	4.5	4.2	1,267,023,017	4.8	4.5	
		小計	30,411,173,553	100.0	93.2	27,607,638,001	100.0	92.4	26,434,309,924	100.0	92.9	
	医業外 収益	受取利息	8,448,892	0.0	0.0	4,938,267	0.0	0.0	1,481,067	0.0	0.0	
		他会計負担金	864,809,075	2.8	2.7	915,881,844	3.3	3.1	844,012,044	3.2	3.0	
		国庫補助金	25,362,000	0.1	0.1	22,799,000	0.1	0.1	18,786,000	0.1	0.1	
		県補助金	48,196,000	0.2	0.1	46,712,000	0.2	0.2	40,505,000	0.2	0.1	
		長期前受金戻入	556,642,990	1.8	1.7	590,383,216	2.1	2.0	669,964,625	2.5	2.4	
		その他医業外収益	232,375,059	0.8	0.7	242,780,582	0.9	0.8	243,849,587	0.9	0.9	
		小計	1,735,834,016	5.7	5.3	1,823,494,909	6.6	6.1	1,818,598,323	6.9	6.5	
	特別 利益	長期前受金戻入	483,736,487	1.6	1.5	448,663,537	1.6	1.5	199,254,236	0.8	0.7	
		引当金戻入	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	6,338,832	0.0	0.0	
		小計	483,736,487	1.6	1.5	448,663,537	1.6	1.5	205,593,068	0.8	0.7	
	計		32,630,744,056	107.3	100.0	29,879,796,447	108.2	100.0	28,458,501,315	107.7	100.0	
	収益的 支出	医業 費用	給与費	13,053,398,438	42.9	40.5	12,566,260,189	45.5	42.9	12,336,293,168	46.7	43.7
			材料費	11,151,324,242	36.7	34.6	9,335,455,912	33.8	31.9	8,502,879,168	32.2	30.1
			経費	3,970,847,305	13.1	12.3	3,667,242,224	13.3	12.5	3,667,157,506	13.9	13.0
			減価償却費	2,411,812,776	7.9	7.5	2,375,453,582	8.6	8.1	2,184,089,700	8.3	7.7
資産減耗費			150,977,660	0.5	0.5	60,454,647	0.2	0.2	161,599,899	0.6	0.6	
研究研修費			114,254,951	0.4	0.4	103,387,706	0.4	0.4	106,083,520	0.4	0.4	
小計			30,852,615,372	101.5	95.8	28,108,254,260	101.8	96.0	26,958,102,961	102.1	95.5	
医業外 費用		支払利息	363,907,268	1.2	1.1	414,188,509	1.5	1.4	462,463,803	1.7	1.6	
		保育費	36,697,206	0.1	0.1	44,810,442	0.2	0.2	45,500,491	0.2	0.2	
		長期前払消費税償却	0	-	-	0	-	-	0	-	-	
		貸倒引当金繰入額	24,878,400	0.1	0.1	29,563,600	0.1	0.1	18,252,000	0.1	0.1	
		雑損失	739,408,741	2.4	2.3	685,404,543	2.5	2.3	731,874,609	2.8	2.6	
		小計	1,164,891,615	3.8	3.6	1,173,967,094	4.3	4.0	1,258,090,903	4.8	4.5	
特別 損失		過年度損益修正損	202,951,885	0.7	0.6	0	-	-	0	-	-	
		小計	202,951,885	0.7	0.6	0	-	-	0	-	-	
計		32,220,458,872	106.0	100.0	29,282,221,354	106.1	100.0	28,216,193,864	106.7	100.0		
当年度純利益(△純損失)		410,285,184	-	-	597,575,093	-	-	242,307,451	-	-		
前年度繰越利益剰余金 (△繰越欠損金)		1,024,373,351	-	-	1,023,798,258	-	-	1,023,490,807	-	-		
その他未処理欠損金変動額		242,000,000	-	-	704,000,000	-	-	1,517,000,000	-	-		
当年度未処分利益剰余金 (△未処理欠損金)		1,676,658,535	-	-	2,325,373,351	-	-	2,782,798,258	-	-		

※各項目は表示単位未満を四捨五入で処理しているため、合計と内訳の数値が一致しない場合がある。

(2) 行為別入院収益・外来収益

区 分		令和元年度		
		金額(円)	前年度比(%)	構成比(%)
入院 収益	投 薬 収 入	153,275,205	126.8	0.8
	注 射 収 入	544,022,569	148.8	3.1
	処 置 及 び 手 術 収 入	4,908,235,504	109.4	27.7
	検 査 収 入	197,754,167	103.9	1.1
	放 射 線 収 入	39,747,395	102.2	0.2
	入 院 料	11,058,423,628	104.7	62.4
	給 食 収 入	370,160,480	103.6	2.1
	そ の 他	458,215,850	99.2	2.6
	計	17,729,834,798	106.9	100.0
外 来 収 益	初 診 料	150,062,855	97.1	1.3
	再 診 料	896,588,932	102.2	7.9
	投 薬 収 入	1,171,614,506	132.3	10.3
	注 射 収 入	5,318,273,497	127.4	46.7
	処 置 及 び 手 術 収 入	374,413,454	106.7	3.3
	検 査 収 入	1,860,465,470	102.1	16.3
	放 射 線 収 入	1,302,105,713	106.9	11.4
	そ の 他	316,028,716	107.3	2.8
	計	11,389,553,143	116.5	100.0

(3) 資本の収入及び支出

(円)

区 分		令和元年度	増 減	平成30年度	増 減	平成29年度	増 減
資本 の 収 入	企 業 債	-	△1,370,400,000	1,370,400,000	1,332,800,000	37,600,000	△5,411,100,000
	他 会 計 負 担 金	1,292,129,797	34,268,482	1,257,861,315	283,013,132	974,848,183	28,221,524
	投 資 回 収 金	12,328,000	1,864,000	10,464,000	2,136,000	8,328,000	△ 532,000
	県 補 助 金	-	-	-	△ 12,927,000	12,927,000	9,435,000
	固 定 資 産 売 却 代 金	-	-	-	-	-	-
	損益勘定留保資金	1,914,616,944	△797,033,418	2,711,650,362	963,395,647	1,748,254,715	△294,299,954
	減債積立金取崩額	242,000,000	△462,000,000	704,000,000	△813,000,000	1,517,000,000	1,517,000,000
	消費税及び地方消費税 資本の収支調整額	2,528,941	△ 3,923,015	6,451,956	△ 577,739	7,029,695	△ 12,358,613
	計	3,463,603,682	△2,597,223,951	6,060,827,633	1,754,840,040	4,305,987,593	△4,163,634,043
資本 の 支 出	施 設 改 良 費	320,591,150	△1,193,426,481	1,514,017,631	773,444,182	740,573,449	△3,728,469,043
	資 産 購 入 費	992,608,247	△659,115,914	1,651,724,161	△361,445,444	2,013,169,605	△474,656,824
	長 期 貸 付 金	29,642,800	△ 6,774,400	36,417,200	1,502,400	34,914,800	△ 1,584,400
	投 資 有 価 証 券	-	△791,242,618	791,242,618	791,242,618	-	-
	企 業 債 償 還 金	2,120,726,732	53,310,472	2,067,416,260	550,086,521	1,517,329,739	41,088,531
	補 助 金 返 還 金	34,753	24,990	9,763	9,763	-	△ 12,307
	計	3,463,603,682	△2,597,223,951	6,060,827,633	1,754,840,040	4,305,987,593	△4,163,634,043

(4) 貸借対照表 (令和2年3月31日)

資 産 の 部

(単位：円)

1 固定資産

(1) 有形固定資産

イ 土 地		6,385,451,623	
ロ 建 物	19,813,207,349		
減価償却累計額	<u>△ 8,754,885,214</u>	11,058,322,135	
ハ 附 属 設 備	17,381,453,387		
減価償却累計額	<u>△12,066,294,694</u>	5,315,158,693	
ニ 構 築 物	1,605,096,296		
減価償却累計額	<u>△ 802,276,309</u>	802,819,987	
ホ 器 械 備 品	11,125,701,418		
減価償却累計額	<u>△ 7,333,308,542</u>	3,792,392,876	
ヘ 車 両	16,509,211		
減価償却累計額	<u>△ 13,626,067</u>	2,883,144	
ト 放射 性 同 位 元 素	12,747,000		
減価償却累計額	<u>△ 9,177,840</u>	3,569,160	
チ リ ー ス 資 産	1,671,289,809		
減価償却累計額	<u>△ 803,613,461</u>	867,676,348	
リ 建 設 仮 勘 定		<u>10,800,000</u>	
有形固定資産合計			<u>28,239,073,966</u>

(2) 無形固定資産

イ 電 話 加 入 権		7,041,831	
ロ ソ フ ト ウ ェ ア		724,395,512	
ハ その他無形固定資産		<u>9,553,896</u>	
無形固定資産合計			<u>740,991,239</u>

(3) 投資その他の資産

イ 投 資 有 価 証 券		791,905,478	
ロ 長 期 貸 付 金	105,022,000		
貸倒引当金	<u>△ 75,250,000</u>	29,772,000	
ハ 出 資 金		500,000	
ニ 破 産 更 生 債 権 等	87,520,091		
貸倒引当金	<u>△ 87,520,091</u>	<u>0</u>	
投資その他の資産合計			<u>822,177,478</u>

固定資産合計 29,802,242,683

2 流動資産

(1) 現金預金		4,909,830,685	
(2) 未収金	5,057,767,177		
貸倒引当金	<u>△ 11,803,692</u>	5,045,963,485	
(3) 貯蔵品		44,539,820	
(4) 前払金		<u>188,609</u>	
流動資産合計			<u>10,000,522,599</u>
資産合計			<u>39,802,765,282</u>

負債の部

3 固定負債

(1) 企業債			
イ 建設改良費等の財源に充てるための企業債	<u>14,237,051,456</u>		
企業債合計		14,237,051,456	
(2) リース債務		577,758,580	
(3) 引当金			
イ 退職給付引当金	<u>4,587,756,098</u>		
引当金合計		<u>4,587,756,098</u>	
固定負債合計			19,402,566,134

4 流動負債

(1) 企業債			
イ 建設改良費等の財源に充てるための企業債	<u>2,271,001,167</u>		
企業債合計		2,271,001,167	
(2) リース債務		359,331,876	
(3) 引当金			
イ 賞与引当金	578,677,467		
ロ 法定福利費引当金	<u>108,599,670</u>		
引当金合計		687,277,137	
(4) 未払金		2,550,801,990	
(5) 未払消費税及び地方消費税		14,744,300	
(6) 預り金		<u>125,319,941</u>	
流動負債合計			6,008,476,411

5 繰延収益

(1) 長期前受金

イ 受贈財産評価額	12,353,551		
収益化累計額	<u>△ 8,937,723</u>	3,415,828	
ロ 補助金	1,140,486,543		
収益化累計額	<u>△ 825,625,503</u>	314,861,040	
ハ 負担金	15,651,312,604		
収益化累計額	<u>△13,420,598,872</u>	<u>2,230,713,732</u>	
長期前受金合計			<u>2,548,990,600</u>
繰延収益合計			<u>2,548,990,600</u>
負債合計			<u>27,960,033,145</u>

資 本 の 部

6 資本金 9,194,942,341

7 剰余金

(1) 資本剰余金

イ 受贈財産評価額	258,564,805	
ロ 負担金	<u>115,566,456</u>	
資本剰余金合計		374,131,261

(2) 利益剰余金

イ 減債積立金	597,000,000	
ロ 当年度未処分利益剰余金	<u>1,676,658,535</u>	
利益剰余金合計		<u>2,273,658,535</u>

剰余金合計 2,647,789,796

資本合計 11,842,732,137

負債資本合計 39,802,765,282

(5) 主な経営財務分析

区 分	算 式	令和元年度	平成30年度	平成29年度
1. 平均在院日数 (施設基準上の算定) (日)	$\frac{\text{在院患者数}}{1/2(\text{新入院患者数} + \text{退院患者数})}$	11.7	11.5	12.5
2. 病床利用率 (一般病床) (%)	$\frac{\text{入院患者数}}{\text{許可病床数}} \times 100$	90.5	87.9	90.7
3. 入院患者1人1日当たり 収入額 (円)	$\frac{\text{入院収益額}}{\text{入院患者延数}}$	68,340	65,894	63,068
4. 外来患者1人1日当たり 収入額 (円)	$\frac{\text{外来収益額}}{\text{外来患者延数}}$	23,700	20,716	19,081
5. 剖 検 率 (%)	$\frac{\text{解剖数}}{\text{院内死亡患者数}} \times 100$	2.3	3.0	4.3
6. 100床当たり職員数 (人)	$\frac{\text{職員数(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	151.4	148.9	147.4
7. 100床当たり医師数 (人)	$\frac{\text{医師数(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	23.4	23.1	23.0
8. 100床当たり看護師数 (人)	$\frac{\text{看護師(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	93.4	92.1	92.3
9. 100床当たり器械備品額 (年度末) (千円)	$\frac{\text{器械備品額(減価償却累計額控除額)}}{\text{許可病床数}} \times 100$	474,049	527,883	507,505
10. 人 件 費 率 (%)	$\frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	42.9	45.5	46.7
11. 流 動 比 率 (%)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	166.4	176.7	199.7
12. 総 資 本 利 益 率 (%)	$\frac{\text{当年度純利益}}{1/2(\text{期首総資産} + \text{期末総資産})} \times 100$	1.0	1.4	0.6

医師事務作業補助者

1. 概要

医師事務作業補助者は、医師の事務作業軽減を目的として2008年に誕生した職種である。当院では、2009年から採用を開始し、現在44人となった。主な業務内容は以下の4つである。

- ①文書作成補助業務：保険会社の入院証明書・通院証明書、介護保険に伴う主治医意見書、傷病手当一時金、障害年金診等の診断書作成補助を行っている。当院は、ドクタークラークと称している。
- ②臨床データ登録業務：診療に関するデータの抽出・整理・登録業務、薬品市販後調査、患者を他院に紹介するための画像CDの作成補助をしている。当院は、ドクタークラークと称している。
- ③がん登録：地域がん診療連携拠点病院の義務である、診断年ごとのがん患者の抽出・登録システムへの入力を行っている。当院は、ドクタークラークと称している。
- ④外来代行入力業務：電子カルテへの代行入力を行っている。当院は、外来クラークと称している。

これらの業務は、医師事務作業軽減委員会で管理をしている。事務職でありながら、医師の働き方改革において欠かせない存在であるが、より広く多様な業務支援を担うにあたり、医師事務作業補助者のスキルアップという課題に取り組まなければならない。今後も医師の要望を取り入れ、医師の事務作業の軽減に努めたい。

(部会長 小山 典久)

2. 活動報告

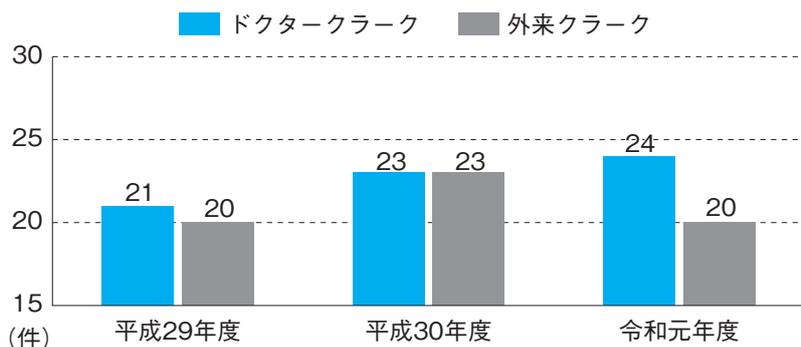
(1) 従事者数

①ドクタークラーク

チーム名(主な業務)	人数(人)
Aチーム (入院証明作成)	4
Bチーム (その他書類作成)	8
Cチーム (データの抽出・整理)	6
Dチーム (市販後調査の補助)	2
Eチーム (がん登録の登録支援)	4
計	24

②外来クラーク

診療科	人数(人)
内科	5
外科	2
脳神経外科	2
整形外科・リウマチ科	2
産婦人科	1
産婦人科(生殖医療)	1
放射線科	1
小児科	2
泌尿器科	2
眼科	1
耳鼻いんこう科	1
計	20



(2) ドクタークラーク実績

①入院証明作成補助業務 (担当者 4人)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
入院証明書(患者申込数)	708	805	728	748	749	679	809	786	709	712	668	736	8,837
中止件数	2	2	4	2	7	0	8	2	2	4	1	5	39
入院証明書(実質作成数)	706	803	724	746	742	679	801	784	707	708	667	731	8,798

②その他書類作成補助業務 (担当者 8人)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
指定難病(新規・更新)臨床調査個人票	23	755	439	108	49	31	25	34	20	22	19	11	1,536
介護保険主治医意見書	144	126	115	135	134	127	151	125	122	139	111	122	1,551
自賠責保険診断書	165	149	135	138	141	167	120	139	121	156	117	124	1,672
傷病手当金請求書	139	125	153	134	144	150	155	139	151	167	158	174	1,789
労災休業給付申請書	34	27	36	30	44	46	36	41	43	50	44	57	488
生活保護医療要否意見書	61	71	73	60	65	65	85	70	66	65	75	70	826
B型C型肝炎患者医療給付事業受給者票認定に係わる診断書	8	10	8	7	5	4	8	0	7	10	6	5	78
肝疾患インターフェロン治療効果判定報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出産一時金支給申請書	2	2	6	5	3	3	1	0	1	2	0	2	27
出産手当金支給申請書	2	6	7	8	8	7	2	1	7	7	6	3	64
訪問看護指示書	32	41	32	34	35	31	38	42	40	41	25	44	435
障害認定医師意見書	5	6	7	5	3	5	7	5	9	5	10	7	74
自立支援	9	4	5	11	6	3	8	7	10	7	5	13	88
結核定期病状調査報告書	1	25	0	16	2	6	9	23	15	4	14	0	115
小児慢性特定疾病	7	3	5	3	3	2	13	121	86	47	10	13	313
障害年金診断書	10	11	9	18	11	12	10	19	16	7	21	17	161
身体障害者診断書(神経内科・脳神経外科・整形外科)	5	3	11	8	7	11	7	16	16	10	8	13	115
特別児童扶養手当認定診断書(小児科)	1	1	7	8	1	1	3	0	0	4	7	0	33
受診状況等証明書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	11	8	23
計	648	1,365	1,048	728	661	671	678	782	730	747	647	683	9,388

③他院紹介・学会用CD作成業務 (担当者 6人)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
転院・紹介用(申請書あり)	143	131	166	157	201	125	163	145	121	154	116	148	1,770
学会・研究用(申請書あり)	6	7	6	7	6	6	4	11	5	5	12	14	89
転院・紹介用(Dr作成)	596	553	563	656	641	587	613	632	603	566	545	699	7,254
学会・研究用(Dr作成)	3	47	5	3	17	18	7	11	7	7	14	11	150
計	748	738	740	823	865	736	787	799	736	732	687	872	9,263

④薬品別市販後調査票作成業務（担当者 2人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
調査票記入数	36	39	28	34	31	17	31	31	31	24	28	12	342
製薬会社提出数	33	37	30	28	31	19	32	41	36	22	21	13	343
製薬会社説明会	2	4	4	0	2	4	0	2	2	1	0	0	21

診療科	調査数	計(件)
呼吸器内科	5	44
消化器内科	5	72
循環器内科	4	20
腎臓内科	3	18
糖尿病・内分泌内科	2	37
脳神経内科	7	24
血液・腫瘍内科	11	51
一般外科	3	12
リウマチ科	3	36
脳神経外科	1	2
小児科	6	13
産婦人科	1	1
皮膚科	1	9
泌尿器科	1	3
計	53	342

⑤症例登録・抽出業務（担当者 8人 ※③・④・⑥担当者兼務）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
DWHを使用したデータ抽出・作成	7	7	9	5	4	9	9	7	4	11	4	5	81
NCD症例登録(一般外科)	151	146	135	166	153	163	125	137	131	142	130	177	1,756
乳癌初回追跡調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全国原発性肝癌追跡調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
NCD症例登録 (心臓外科・血管外科)	1	0	5	5	38	2	3	2	29	10	3	12	110
NCD症例登録 (脳神経外科)	117	146	90	174	103	122	138	97	135	175	96	134	1,527
NCD症例登録 (循環器内科)	11	13	17	20	25	22	17	18	14	27	39	20	243
NCD症例登録(移植外科)	14	0	0	0	15	0	0	3	9	5	0	0	46
NCD症例登録 (呼吸器外科)	21	10	0	18	11	5	6	0	0	0	7	8	86
NCD症例登録(泌尿器科)	35	45	38	45	29	39	34	44	41	73	85	52	560
血液学会疾患登録 (血液・腫瘍内科)	98	110	27	26	0	48	0	0	55	106	15	44	529
血液学会疾患登録(小児科)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	7
計	455	477	321	459	378	410	332	308	418	549	381	457	4,945

⑥各診療科の患者データベース作成業務（担当者 8人 ※③・④・⑥担当者兼務）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
脊椎外科	23	28	23	25	24	27	23	17	16	12	0	50	268
呼吸器外科	7	9	4	7	4	4	3	2	9	5	10	7	71
心臓外科・血管外科	6	6	4	7	4	5	8	5	5	8	5	5	68
歯科口腔外科（外傷）	0	0	40	10	165	0	0	0	0	0	0	0	215
歯科口腔外科（口腔）	0	0	0	0	0	1,219	0	0	0	0	0	0	1,219
消化器内科(内視鏡検査)	41	23	18	30	32	22	36	22	25	27	25	18	319
産婦人科(助産録分娩件数)	66	57	63	0	73	19	146	0	142	18	145	41	770
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	117	120	237
整形外科	36	42	24	26	55	21	31	33	30	37	23	34	392
呼吸器内科	159	185	179	156	172	155	122	121	130	172	124	149	1,824
リウマチ科	44	39	36	43	42	36	56	45	50	43	50	41	525
放射線科	0	0	0	0	0	0	453	0	0	0	0	0	453
小児科(新生児)(新規)	0	5	3	3	1	4	1	4	3	0	0	0	24
(新生児)(予後)	0	0	35	17	53	12	0	12	0	8	0	0	137
小児救急重篤疾患登録調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	53	53
川崎病全国調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科（RFA）	0	2	1	6	5	3	2	4	2	0	7	2	34
産婦人科(臓器がん登録)	175	83	0	28	0	0	19	0	0	34	0	47	386
脳神経外科(Close The Gap-Stroke)	0	0	0	0	0	0	0	0	49	0	0	0	49
脳神経外科(杉田クワ)後向き観察研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	89	0	0	89
計	557	479	430	358	630	1,527	900	265	461	453	506	567	7,133

⑦院内がん登録支援業務（担当者 4人）

2019年度<月別>院内がん登録件数

